

都市公園制度制定150周年記念公園施設登録

登録公園施設集

目 次

※「都道府県名」をクリックすると当該都道府県の最初の施設のページに「施設名称」をクリックすると当該施設のページに移動します。

※各施設ページの右上 [目次](#) をクリックすると目次に戻ります。

施設所在都道府県	施設所在 市区町村	施設の名称（立地公園名）	ページ
北海道	札幌市	オートリゾート滝野（滝野すずらん丘陵公園）	1
	札幌市	バリアフリー遊具（藤野むくどり公園）	2
	札幌市	世界の庭園（百合が原公園）	4
	函館市	梁川交通公園（梁川公園）	6
	網走市	オートキャンプ場（オホーツク公園）	7
	苫小牧市	タコ山（光洋1丁目公園）	8
	苫小牧市	多目的広場等（市民文化公園）	9
	苫小牧市	オートキャンプ場（錦大沼公園）	10
青森県	青森市	公園碑（合浦公園）	11
岩手県	陸前高田市	国営追悼・祈念施設（高田松原津波復興祈念公園）	12
	陸前高田市	震災遺構（高田松原津波復興祈念公園）	13
宮城県	仙台市	明治天皇御駐輦址碑（西公園）	14
	仙台市	ケヤキ並木（定禅寺通緑地）	15
	仙台市	仙台市野草園（植物園）（大年寺山公園）	16
	仙台市	湧水山～流れ～泉ヶ池（修景施設）（七北田公園）	17
	仙台市	避難の丘（海岸公園）	18
	石巻市	国営追悼・祈念施設（石巻南浜津波復興祈念公園）	19
	石巻市	石巻市慰霊碑（石巻南浜津波復興祈念公園）	20
	多賀城市	多賀城市東日本大震災モニュメント（多賀城駅前公園）	21
	岩沼市	千年希望の丘（千年希望の丘相野釜公園）	22
	川崎町	ふるさと村（国営みちのく杜の湖畔公園）	23
秋田県	北秋田市	バードサンクチュアリー（秋田県立北欧の杜公園）	24
山形県	寒河江市	寒河江スケートパーク（最上川ふるさと総合公園）	25
福島県	福島市	モニュメント（あづま総合運動公園）	26
	南相馬市	記銘碑・モニュメント（南相馬市メモリアルパーク）	27

目 次

施設所在都道府県	施設所在市区町村	施設の名称（立地公園名）	ページ
茨城県	水戸市	水戸 養命酒薬用ハーブ園（水戸市植物公園）	28
	水戸市	四季の原、月池（第10回都市緑化フェア会場）（偕楽園公園）	29
	古河市	桃園【桃林】（古河総合公園（愛称：古河公方公園））	30
	笠間市	笠間芸術の森公園スケートパーク【施設名：ムラサキパークかさま】（笠間芸術の森公園）	31
	ひたちなか市	みはらしの丘（国営常陸海浜公園）	32
	大子町	大子広域公園オートキャンプ場【施設名：グリーンヴィラ】（大子広域公園）	33
栃木県	宇都宮市	八幡山交通公園（八幡山公園）	34
	宇都宮市	黎明（銅像）（栃木県総合運動公園）	35
	宇都宮市	第17回全国都市緑化とちぎフェア開催記念碑（みずほの自然の森公園）	36
	壬生町	記念植樹（栃木県とちぎわんぱく公園）	37
	壬生町	第17回全国都市緑化とちぎフェア開催記念碑（壬生町総合公園）	38
群馬県	前橋市	第38回国民体育大会 記念石碑（群馬県立敷島公園）	39
	前橋市	第19回全国身体障害者スポーツ大会記念モニュメント（群馬県立敷島公園）	40
	前橋市	ばら園（敷島公園）	41
	前橋市	第38回国民体育大会 行幸記念の石碑（前橋総合運動公園）	43
	富岡市	タコ滑り台（かぶら公園）	44
埼玉県	さいたま市	ラジオ塔（調公園）	45
	さいたま市	東京2020オリンピック聖火リレー記念碑（さいたま新都心公園）	46
	さいたま市	風の神（別所沼公園）	47
	熊谷市	第59回国民体育大会「彩の国まごころ国体」秋季大会記念碑（熊谷スポーツ文化公園）	48
	戸田市	昭和39年東京オリンピック聖火台（戸田公園）	49
	滑川町	銘板、日時計（記念広場）（国営武蔵丘陵森林公園）	50
千葉県	千葉市	綿打池（千葉公園）	51
	千葉市	いなげの浜・磯の松原（稲毛海浜公園）	53
	船橋市	風車（ふなばしアンデルセン公園）	55

目 次

施設所在都道府県	施設所在市区町村	施設の名称（立地公園名）	ページ
千葉県	松戸市	自然観察舎、自然生態園（21世紀の森と広場）	56
	柏市	スポーツ施設（総合競技場、庭球場、野球場）（千葉県立柏の葉公園）	57
	富津市	明治百年記念展望塔（千葉県立富津公園）	58
	山武市	蓮沼ウォーターガーデン（千葉県立蓮沼海浜公園）	59
東京都	江東区、文京区	関東大震災の教訓を活かした復興小公園を象徴する施設群（江東区立川南公園、江東区立元加賀公園、文京区立元町公園）	60
	台東区	ボードワン博士像（都立上野恩賜公園）	63
	台東区	石の山（台東区立入谷南公園）	64
	江東区	防災拠点となる広場（国営東京臨海広域防災公園）	65
	大田区	西六郷公園【タイヤ公園】（大田区立西六郷公園）	66
	世田谷区	羽根木プレーパーク（世田谷区立羽根木公園）	67
	世田谷区	駒沢オリンピック公園管制塔（都立駒沢オリンピック公園）	68
	足立区	タコ遊具（足立区立新西新井公園）	69
	立川市	みんなの原っぱ（国営昭和記念公園）	70
神奈川県	横浜市	三ツ池と周辺一帯（県立三ツ池公園）	71
	横浜市	元町公園プール（元町公園）	72
	横浜市	野毛山動物園（野毛山公園）	73
	横浜市	展望広場と花壇（港の見える丘公園）	74
	川崎市	枡形山、自然林等（生田緑地）	75
	川崎市	瀟秀園（大師公園）	76
	相模原市	ふれあい動物広場（相模原麻溝公園）	77
	横須賀市	交通遊園施設（根岸公園）	78
	横須賀市	平和の軸（THE AXIS OF PIECE）（平和中央公園）	79
	座間市	自然生態観察公園【アーバンエコロジーパーク】（県立座間谷戸山公園）	80
新潟県	新潟市	タコ遊具（関分記念公園）	81
	新潟市	お城遊具（西海岸公園）	82

目 次

施設所在都道府県	施設所在市区町村	施設の名称（立地公園名）	ページ
新潟県	新潟市	カナル（新潟県立鳥屋野潟公園 新潟県スポーツ公園）	83
	長岡市	ながおか香りのばら園（国営越後丘陵公園）	84
	新発田市	多目的運動広場・散策道（新潟県立紫雲寺記念公園）	85
富山県	富山市	大噴水（県庁前公園）	86
石川県	金沢市	平和都市宣言碑（姉妹都市公園）	87
福井県	福井市	第23回国民体育大会参加選手記念碑（福井運動公園）	88
	越前町	アート広場（越前陶芸公園）	89
山梨県	甲府市	タコ遊具（橘公園）	90
	甲府市	国体開催記念モニュメント、炬火台（小瀬スポーツ公園）	91
長野県	松本市	メモリアルマンホール：信州花フェスタ2019開催記念（松本平広域公園）	92
	安曇野市	里山文化ゾーン（国営アルプスあづみの公園）	93
岐阜県	岐阜市	サッカー兼ラグビー場及びテニスコート（岐阜ファミリーパーク）	94
	各務原市	交通広場（各務原公園）	95
	可児市	バラ園（ぎふワールド・ローズガーデン）	96
	可児市	モロッコガーデン（ぎふワールド・ローズガーデン）	97
	海津市	長良川国際ポートコース（国営木曽三川公園）	98
	養老町	養老の滝（養老公園）	99
静岡県	静岡市	戦災復興事業 完成記念碑（鷹匠公園）	100
	浜松市	緑化推進センター（飯田公園）	101
	浜松市	花ひろば（浜名湖ガーデンパーク）	102
愛知県	名古屋市	ミズベヒロバ（久屋大通公園（北エリア・テレビ塔エリア））	103
	名古屋市	プレイマウント（富士山すべり台）（吹上公園）	104
	豊橋市	花時計（豊橋公園）	105
	岡崎市	戦災復興之碑（籠田公園）	106
	新城市	入口広場【ゼウスの泉】（新城総合公園）	107

目 次

施設所在都道府県	施設所在市区町村	施設の名称（立地公園名）	ページ
愛知県	長久手市	日本の塔・月（愛・地球博記念公園）	108
三重県	紀北町	孫太郎オートキャンプ場（熊野灘臨海公園）	109
滋賀県	大津市	日本庭園 夕照の庭（びわこ文化公園）	110
	大津市	国体記念広場（皇子山総合運動公園）	111
	守山市	市民参加により再生を目指す森（びわこ地球市民の森）	112
京都府	京都市	模擬道路（大宮交通公園）	113
	精華町	水景園（京都府立関西文化学術研究都市記念公園）	114
大阪府	大阪市	住吉公園「汐掛道」（住吉公園）	115
	大阪市	国際庭園（鶴見緑地）	116
	堺市 高石市	浜寺公園の松林（浜寺公園）	117
	堺市	ラジオ塔（大浜公園）	118
	堺市	モニュメント（東と西の接点）（ザビエル公園（戒公園））	119
	豊中市	服部緑地「都市緑化植物園と円形花壇」（服部緑地）	120
	八尾市	後方支援活動拠点の運動施設（久宝寺緑地）	121
	寝屋川市	第一期開園地区 園路・広場（淀川河川公園）	122
	東大阪市	花園ラグビーの日制定記念モニュメント（東大阪市花園中央公園）	123
	神戸市	防災施設（仮設トイレ等）（神戸震災復興記念公園（みなとのもり公園））	124
兵庫県	神戸市	キャナル・カスケード（須磨離宮公園）	125
	姫路市	姫路地区【第1期】共同福利施設事業碑（浜手緑地白浜地区（通称 新開公園））	126
	西宮市	愛の像（甲山森林公園）	127
	伊丹市	賞月亭（緑ヶ丘公園）	128
	淡路市	テラスガーデン（国営明石海峡公園）	129
奈良県	奈良市	タコ遊具（大湊池公園）	130
	明日香村	甘樫丘展望台（国営飛鳥・平城宮跡歴史公園）	131
和歌山県	和歌山市	交通公園（和歌山交通公園）	132

目 次

施設所在都道府県	施設所在 市区町村	施設の名称（立地公園名）	ページ
鳥取県	湯梨浜町	中国庭園燕趙園（東郷湖羽合臨海公園）	133
島根県	益田市	万葉植物園（島根県立万葉公園）	134
岡山県	岡山市	第17回国体記念碑（岡山県総合グラウンド）	135
	岡山市	はらっぱ広場（西大寺緑花公園）	135
広島県	広島市	ハノーバー庭園（中央公園）	137
	庄原市	ひばの里（国営備北丘陵公園）	138
	東広島市	子供広場（東広島運動公園）	139
	世羅町	都市緑化フェア記念植樹 せら桜（せら県民公園）	140
山口県	下関市	日和山公園の広場（日和山公園）	141
	下関市	火の山公園トルコチューリップ園『オルハン・スヨルジュ記念園』（火の山公園）	142
	山口市	記念塔・三段池（維新百年記念公園）	143
	光市	梅園・バラ園（冠山総合公園）	144
	周南市	ゆめ風車（永源山公園（愛称「TOSOH PARK 永源山」））	145
徳島県	徳島市	花博記念広場（新町川公園）	146
香川県	高松市	戦災復興記念碑（高松市中央公園）	147
	高松市	グラススキー場（さぬき空港公園）	148
	坂出市	水の回廊（メインプロムナード）（瀬戸大橋記念公園）	149
	まんのう町	ホッ！とステイまんのう（国営讃岐まんのう公園）	150
愛媛県	松山市	記念碑（愛媛県営総合運動公園）	151
高知県	高知市	モニュメント「一衣帯水」（城西公園）	152
	四万十市	オートキャンプ場とまろっと（土佐西南大規模公園）	153
福岡県	北九州市	園名板（清滝公園）	154
	北九州市	100人ブランコ（響灘緑地（グリーンパーク））	155
	北九州市	皆に愛される巨大な「タコの滑り台」（勝山公園ほか10箇所）	156
	福岡市	西口広場（カナル・スカイシェルター）（海の中道海浜公園）	158

目 次

施設所在都道府県	施設所在市区町村	施設の名称（立地公園名）	ページ
福岡県	福岡市	平和台陸上競技場（舞鶴公園）	159
	福岡市	ユニバーシアード記念平和の杜（東平尾公園）	160
	福岡市	国際交流庭園（アイランドシティ中央公園）	161
	飯塚市	健康運動広場（県営筑豊緑地）	162
佐賀県	唐津市	国際交流広場（松浦河畔公園）	163
	吉野ヶ里町	環壕集落ゾーン（国営吉野ヶ里歴史公園）	164
長崎県	波佐見町	世界の窯広場（やきもの公園）	165
熊本県	熊本市	記念広場（水前寺江津湖公園（動植物園））	166
	熊本市	ラグビーワールドカップ2019メモリアル（熊本県民総合運動公園）	167
大分県	日出町	皇太子殿下御成婚記念庭園（ハーモニーパーク）	168
宮崎県	宮崎市	国体記念の森（宮崎県総合運動公園）	169
	宮崎市	昭和39年オリンピック東京大会 国内聖火リレーの聖火台（県立平和台公園）	170
鹿児島県	鹿児島市	戦災復興記念碑（甲突川左岸緑地）	171
沖縄県	糸満市	平和の礎（平和祈念公園）	172
	本部町	エメラルドビーチ（国営沖縄記念公園 海洋博覧会地区）	173

オートリゾート滝野(滝野すすらん丘陵公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	国営公園制度		
施設の所在地	北海道札幌市南区滝野247番地	施設設置年月日	平成6年（1994年）5月12日
施設整備の経緯	北海道は全国的に見てもキャンプ需要が多い地域特性を持っている。当時の北海道開発庁ではこの地域特性と雄大な自然環境を生かし、全道にオートキャンプ場ネットワークを形成する「オートリゾートネットワーク構想」が提唱され、これを基にオートリゾート滝野の建設が進められた。 また、国営公園の中で初のオートキャンプ場である。		
施設の形態的特徴	面積：9.5ha サイト数:143サイト 収容人員:約600人		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	キャンプ場全体の運営管理の中核施設であるセンターハウスは、売店・コインランドリー・シャワー・多目的ホールが設備されおり、イベント会場や、各種会合、研修会等に利用されている。 また、キャンプ場からアクセス良好な公園でできる多くのアクティビティを満喫したり、公園に咲き誇る花々を楽しんだり、また、レンタサイクルで公園に点在している 滝巡りができる。		

【施設写真】



バリアフリー遊具(藤野むくどり公園) [1/2]

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設 施設のテーマ：児童の遊び場		
施設の所在地	北海道札幌市南区藤野2条1丁目	施設設置年月日	平成8年(1996年) 8月
施設整備の経緯	公園の造成にあたり、近所にお住いの視覚障がい児親子相談ルームを主宰する方から、障がいのあるなしにかかわらず両者の間にある見えない壁を取り払って、みんなが遊べる公園にして欲しいとの提案があり、町内会も好意的に受け入れたことから、本格的なバリアフリー公園として整備した。 公園整備が行われた平成8年(1996年)頃は、全国でもトイレや水飲み台のバリアフリー化は行われていたが、遊具も含めた公園全体をバリアフリー公園として整備した事例は、ほとんどなかったと思われることから、今日的なインクルーシブの考えを取り入れた公園整備の先駆けの事例と考えられる。		
施設の形態的特徴	コンビネーション遊具は、2つの滑り台を設け、ひとつを緩やかな勾配のローラー滑り台とし、子どもを抱えて滑ることができて、一人で乗せても子供の体が回転しない60cmの幅を持たせている。また、車イスから滑り口に移動しやすいように高さ30cmのスタートデッキを付け、介助者が滑り台の横から手を差し延べやすいようになっている。 ブランコは、椅子型とゆりかご型の2種類設け、椅子型は体がホールドされるように体を包みこむ形状のものとしており、さらにシートベルトも取り付けがある。ゆりかご型は上体を起こした体形ですっぽりと収まる大きさにゴムマットを加工し、介助者が抱きかかえて乗れる60cmの幅を取っている。 砂場は、車いすのままでも砂遊びができるように、中、小型の車イスが使いやすいサイズのテーブルの部分を作っている。また、足の不自由な子供も降りられるように傾斜のついた手摺を設けてある。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	公園は、地元住民や障がいを持つ人々、障がい児教育の教師など様々な方が参加するワークショップ方式により計画立案が進められた。ワークショップは平成7年(1995年)4月から8月までの5か月間、計5回実施し、延べ142名の参加があった。取り入れたいとして挙げられた具体的な施設33種類のうち24種類の施設を実現した。 個々の施設は、ワークショップの参加者を中心とした住民組織と盲学校や養護学校などとの話し合いや検証を行いながら設計を行った。公園が完成した後もワークショップの参加者が中心となって結成した「むくどりホームふれあいの会」が主体となり、手づくりの楽しいイベントや見守り、公園の掃除・草取りなどの公園運営を行っており、地域社会も積極的に支援や協力を行っている。 この協働体制による地道な活動を続けていく中で、地域社会にノーマライゼーションの意識が形成され浸透していき、遠隔地からも障がい者が通ってくる公園となっている。		

バリアフリー遊具(藤野むくどり公園) [2/2]



世界の庭園(百合が原公園) [1/2]

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設 国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設 国際交流に係る公園施設
施設の所在地	北海道札幌市北区百合が原公園、百合が原2丁目、百合が原11丁目 施設設置年月日 昭和61年（1986年）4月頃
施設整備の経緯	百合が原公園は、天皇陛下御在位五十年記念事業として採択され、昭和58年（1983年）に供用を開始した総合公園で、昭和61年（1986年）に全国都市緑化フェア「'86さっぽろ花と緑の博覧会」が開催された。 世界の庭園は、博覧会開催にあたり、札幌市の姉妹都市であるポートランド、ミュンヘン、瀋陽の3都市の設計者や公園担当者を招き、その直接指導の下に各々の庭園を建設したものと、昭和58年（1983年）にミュンヘンで開かれた国際園芸博覧会で「西ドイツ造園連盟大金賞」を受賞した日本庭園を基に建設したものを合わせて4つの庭園で構成された。
施設の形態的特徴	ポートランド庭園は面積1,200㎡。同市から贈られた約300株のバラを中心としたフラワーゾーンや約100㎡の芝生広場が特徴で、一年草の花壇を主体としたポートランド市の一般家庭の庭園をイメージして設計されている。 ミュンヘン庭園は面積1,800㎡。ミュンヘン市ゆかりのリンデンバウムの木で囲まれ、中央部は盛土、生垣、石組みなど城郭都市のイメージを出している。花壇は春から秋まで花の絶えないサンクンガーデンとなっており、中央には同市のイザール川を模して造った小川があるなど、バイエルン地方の豊かな詩情を表現している。 瀋陽庭園は面積1,200㎡。中国の伝統的な山水様式を取り入れた庭園で、水中亭、六角亭、垂花門は明・清代の建築様式を採用し、屋根部分については、木組を含めてすべて中国で製作され寄贈された本格的な中国庭園となっている。また、各施設を飾る書は、中国でも評判の高い書道家の方々の手によるもので、本来は国外への持ち出しが禁じられているが博覧会の出展に際し、特別に札幌市に送られたものである。 日本庭園は面積2,000㎡。池をめぐる池泉回遊式庭園で、池中央部の平安朝風の水舞台は安芸宮島の厳島神社を範としている。和を感じさせるウメやツツジ、モミジ等の他、国内外の北方系樹種を多く植栽して、札幌の四季を楽しんでいただけるような造りとしている。また、日本的な特徴のある八ツ橋、滝、灯籠なども配置している。
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	「'86さっぽろ花と緑の博覧会」は、65日間で約150万の人々が訪れ、各国の庭園に多くの人々が魅了され国際的な都市間交流のきっかけとなった。 博覧会開催の翌年からは、3つの国際庭園と日本庭園を合わせ、有料公園施設として管理され、本公園のメイン施設として多くの公園利用者を誘引し、賑わいの創出に寄与してきた。 一方で、近年は老朽化が進行し、令和4年度（2022年度）に日本庭園の再整備に着手しており、ポートランド、ミュンヘン、瀋陽の各庭園のあり方についても検討が必要な状況となっている。

世界の庭園(百合が原公園) [2/2]



ポートランド庭園



ミュンヘン庭園



瀋陽庭園



日本庭園

梁川交通公園(梁川公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設 施設のテーマ：交通知識や交通マナーの習得		
施設の所在地	北海道函館市梁川町24番2号	施設設置年月日	昭和44年（1969年）5月18日
施設整備の経緯	昭和30年代、自動車の増加とともに顕著になってきた交通事故対策として、幼児・小・中学生を対象に交通知識や交通マナーを体得させるため、昭和44年（1969年）に遊具を利用して楽しみながら交通ルールを学ぶことができる交通安全教育施設として設置したものである。		
施設の形態的特徴	面積：7,752㎡ 動力式ゴーカートコースには信号機・横断歩道・一時停止標識・立体交差が設置され、実際の道路を走行できるようなコースとなっており、そのほか足踏み式ゴーカートや自転車専用のコースを設置している。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	当公園には、信号機・横断歩道・交通標識等が設置され、幼児や児童が楽しみながら交通安全教育を実践する場所として定着しており、個人だけではなく保育園・学童クラブ・遠足・修学旅行など団体でも利用があるなど、市の交通安全施策を展開するうえで重要な施設である。 さらに、遊具や自転車コースを活用し、幼児などが安心して遊べる場として保護者から高い評価を受けており、こどもの遊び場の確保といった観点からも重要な役割を担っている。		

【施設写真】



オートキャンプ場(オホーツク公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施策名称：オートキャンプ場		
施設の所在地	北海道網走市字潮見313番地1	施設設置年月日	平成3年(1991年)(着工)～ 平成6年(1994年)(供用開始)
施設整備の経緯	昭和63年に「北海道緑のマスタープラン」が策定され、オホーツク公園はそれに基づく最初の道立公園となる。同年に北海道開発庁が策定した「オートリゾートネットワーク構想」に本公園が組み込まれることとなり、その基本構想で本格的なオートキャンプ場が計画されたことが、オホーツク公園のオートキャンプ場整備の始まりとなる。		
施設の形態的特徴	オホーツク公園は、昭和62年(1987年)に網走市がまとめた「アカデミア広域公園基本構想」で「各施設と連携しオホーツクの新しい文化を創造し発信、定着させる場」とされていたことから、既に立地していた、オホーツク流水館・博物館網走監獄や、当時新たに誘致が決まっていた東京農大・北方民族博物館に接した公園とする必要があったため、南北に細長く100haに及ぶ広域公園となる。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	オートキャンプ場からは、オホーツク海と知床連山の雄大な眺望が楽しめるほか、周辺に遊戯広場やパークゴルフ場も整備されているため、家族連れやお年寄りも楽しめる施設となる。		

【施設写真】



タコ山(光洋1丁目公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：児童の遊び場		
施設の所在地	北海道苫小牧市光洋町1丁目6番	施設設置年月日	昭和48年（1973年）
施設整備の経緯	光洋1丁目公園用地一体は、かつては放牧地であったが住宅地域の著しい伸展に伴って、昭和43年（1968年）から昭和51年（1976年）まで施行された「苫小牧都市計画糸井土地区画整理事業」により宅地化され、昭和48年（1973年）に開設された公園となる。		
施設の形態的特徴	公園内には複数の遊具を設置しており、その中でも他の公園にはなく非常に珍しい、タコの形をした「タコ山」と呼ぶ遊具がある。特徴的な構造としては、タコの足の部分を滑り台として整備しているところである。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	施設の整備後、約50年の年月が経過しようとしているが、今なお、子供たちの間で「タコ公園」という名で知られ、周辺地域の子供たちの遊びの場として広く利用されている。		

【施設写真】



多目的広場等(市民文化公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施策名称：カルチャーパーク（昭和54年（1979年）～平成6年（1994年））		
施設の所在地	北海道苫小牧市末広町3丁目1番	施設設置年月日	平成5年（1993年）
施設整備の経緯	市街地の伸展により昭和29年度から昭和33年度にかけて「苫小牧都市計画旭町土地区画整理事業」が施行され、公園用地を取得した。昭和54年（1979年）に建設省(現：国交省)が策定した「カルチャーパーク構想」により、本公園が道内初のカルチャーパークとして採択され、昭和59年（1984年）より事業に着手し、都市的な環境の創造と都市イメージの向上を図ることによる魅力ある都市づくりの拠点として整備された。		
施設の形態的特徴	水と緑と太陽をテーマに四季を通して、文化、レクリエーション、健康づくりの場として計画され、豊かな緑の中に、図書館、美術博物館、サンガーデン（植物園）など社会教育施設が配置されている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	建設省（現：国交省）より、道内初のカルチャーパークの指定を受け、多目的広場や池、人工滝、噴水、遊水路、彫刻の道などが配置され、市民のふれあいや安らぎの場となる。		

【施設写真】



オートキャンプ場(錦大沼公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施策名称：オートキャンプ場（昭和62年度（1989年度）～）		
施設の所在地	北海道苫小牧市字樽前421番	施設設置年月日	平成4年（1992年）
施設整備の経緯	錦大沼公園用地は、市有地と一部国有未開地であったが、昭和46年（1971年）3月に市民のレクリエーション需要に対処するため、当地域内の国有未開地の払い下げを受け、キャンプ場として現在に至る。		
施設の形態的特徴	樽前丘陵の先端に位置し、錦大沼（周囲約3.5km）、錦小沼（周囲約1.6km）を含む総面積236.4haの雄大な自然に囲まれたオートキャンプ場となる。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	昭和52年（1977年）の供用開始以来、苫小牧市民の憩いの場として多くの市民に親しまれ利用されている。公園内にあるオートキャンプ場内には、バンガローやログハウスなどの施設や、カヌー、パークゴルフをはじめ自然と親しむ遊びが多数ある。		

【施設写真】



公園碑(合浦公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	太政官布達第16号		
施設の所在地	青森県青森市合浦二丁目17-50	施設設置年月日	明治23年（1890年）11月
施設整備の経緯	太政官布達布16号により整備された合浦公園において、公園の創設者である「水原衛作」の年回忌を理由に建立した公園碑であり、裏面には合浦公園造成における概要について記している。		
施設の形態的特徴	高さ約2,100mm、幅約1,000mm、奥行約400mmの大きさである石碑は、旧奥州街道を挟み、青森市天然記念物に指定されている「三誓の松」と相対するように設置されている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	合浦公園市営70周年記念では、石碑前において式典を挙行。		

【施設写真】



国営追悼・祈念施設(高田松原津波復興祈念公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	災害被害等の復興祈念に係る公園施設		
施設の所在地	岩手県陸前高田市気仙町字土手影180番地	施設設置年月日	令和元年(2019年)9月22日(管理棟、献花の場、海を望む場)、令和3年(2021年)4月1日(全域)
施設整備の経緯	「東日本大震災からの復興の象徴となる国営追悼・祈念施設(仮称)の設置について」(平成26年(2014年)10月31日付け閣議決定)に基づき、東日本大震災による犠牲者への追悼と鎮魂や、震災の記憶と教訓の後世への伝承とともに、国内外に向けた復興に対する強い意志の発信のため、国が地方公共団体との連携の下、岩手県陸前高田市に国営追悼・祈念施設(仮称)を設置したもの。 平成27年度(2015年度)事業化、平成29年(2017年)3月着工、令和元年(2019年)9月22日一部利用開始、令和3年(2021年)4月1日全域供用開始。		
施設の形態的特徴	• 全体面積: 10ha • 主要施設: 追悼の広場、献花の場、海を望む場、奇跡の一本松周辺の広場 • 備考: 登録対象外となる建築物「道の駅高田松原・東日本大震災津波伝承館」も国営追悼・祈念施設の区域に含まれる。ただし、伝承館の整備及び管理運営は岩手県が、道の駅高田松原の整備及び管理運営は国土交通省(道路管理者)及び陸前高田市がそれぞれ実施。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	岩手県を代表する復興祈念公園の中核的施設として、施設内を一巡することで、追悼(献花の場・海を望む場)、伝承(奇跡の一本松、震災遺構、東日本大震災津波伝承館)、復興(道の駅高田松原)を実感を伴って学習できる。県内外から研修・学習旅行や観光で多くの方が訪れ、令和元年(2019年)9月の一部利用開始から累計約233万人(令和5年(2023年)9月末現在)にご来園いただいている。		

【施設写真】



全景



献花の場



海を望む場



奇跡の一本松周辺の広場

震災遺構(高田松原津波復興祈念公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	災害被害等の復興祈念に係る公園施設		
施設の所在地	岩手県陸前高田市気仙町ほか	施設設置年月日	令和4年（2022年）3月31日
施設整備の経緯	東日本大震災津波の犠牲者を追悼・鎮魂し、震災の事実と教訓を継承するとともに、まちづくりと一体となった地域の賑わいの再生に資するために整備した高田松原津波復興祈念公園において、震災後もその場に残った奇跡の一本松等を震災の記憶を後世に伝承していくための重要な資源「震災遺構」として保存した。		
施設の形態的特徴	奇跡の一本松…高さ約27.5m、幹の直径約90cm、震災翌年に枯死が確認され現在はモニュメントとして保存。 陸前高田ユースホステル…鉄筋コンクリート2階建て、延床面積698㎡、かつての高田松原公園にあった宿泊施設。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	- 公園内の震災遺構を案内するガイドサービス「高田松原津波復興祈念公園パークガイド」の実施により、震災の記憶を来園者に伝えている。 （一社）陸前高田市観光物産協会から認定を受けた地元住民がパークガイドとして活動。		

【施設写真】



奇跡の一本松



震災遺構の解説看板
(奇跡の一本松)



陸前高田ユースホステル

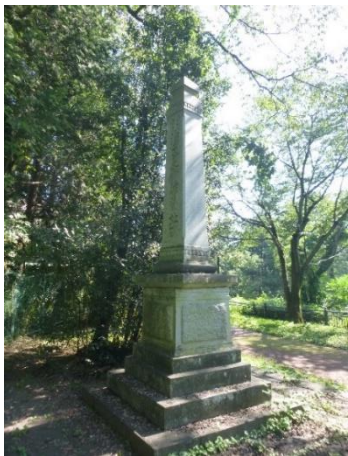


震災遺構の解説看板
(陸前高田ユースホステル) 13

明治天皇御駐輦址碑(西公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	太政官布達第16号		
施設の所在地	宮城県仙台市青葉区桜ヶ岡公園1-3外（地番）	施設設置年月日	昭和2年（1927年）
施設整備の経緯	西公園は太政官布達第16号により明治8年（1875年）に開設した仙台市で最も古い都市公園であり、市中心部にありながら豊かな自然を形成し、市民遊覧の場として親しまれてきた。開園の翌年明治9年（1876年）には宮城博覧会が開催されて競馬が催されるなどし、明治天皇が来場された。本施設は明治天皇の博覧会観覧を記念して建立されたもの。		
施設の形態的特徴	高さ約3.0m×幅約1.2m、天然石		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	園内には仙台に関わりのある様々な事柄や人物の歴史を伝える石碑が多く設置されている中、本施設は、開園にあたり勧請された桜岡大神宮や、仙台藩祖・伊達政宗公が朝鮮から持ち帰ったとされる臥龍梅とともに、開園当時の面影を現在に伝える貴重な石碑となっている。なお、石碑には「元帥伯爵東郷平八郎謹書」と刻銘されている。		

【施設写真】



ケヤキ並木(定禅寺通緑地)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	戦災復興土地地区画整理事業		
施設の所在地	宮城県仙台市青葉区国分町二丁目201外（地番）	施設設置年月日	昭和33年（1958年）
施設整備の経緯	定禅寺通は戦災復興土地地区画整理事業における都市計画街路として整備され、「杜の都」の再現が重要課題であった本事業において広幅員の幹線として西公園と勾当台公園をつなぐ大樹林帯を造るというプランのもと、歩道と遊歩道のある道路中央部の緑地帯に計4列のケヤキ並木を植栽し、うち道路中央部の緑地帯を都市公園として供用した。また市条例に基づき昭和50年（1975年）に保存樹林に指定している。		
施設の形態的特徴	歩道と遊歩道のある道路中央部の緑地帯に計4列（166本）のケヤキ並木があり、うち道路中央部の緑地帯の2列が定禅寺通緑地に植栽されている。 樹高は約15m（令和5年（2023年）現在）、西公園と勾当台公園をつなぐように約700mにわたりケヤキ並木が続き、春には新緑が一斉に芽吹いて若葉のトンネルをつくり、ケヤキの大樹に包まれた通りを形成している。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	現在は緑のトンネルの下で、仙台・青葉まつりや定禅寺ストリートジャズフェスティバル、SENDAI光のページェントといった四季折々のイベントが開かれており、全国各地から多くの観光客等が訪れ、杜の都・仙台のシンボルとして親しまれている。昭和46年（1971年）には市民投票でケヤキが「市の木」に決定し、定禅寺通のケヤキ並木は名実ともに「仙台のシンボル」となっている。		

【施設写真】



仙台市野草園(植物園)(大年寺山公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：野生植物の保護、植物知識の普及		
施設の所在地	宮城県仙台市太白区茂ヶ崎二丁目1番1号	施設設置年月日	昭和29年（1954年）7月21日
施設整備の経緯	仙台市野草園は、戦時中の混乱の中で激減していく郷土の植物を移植・保存繁殖したうえで、植物知識の普及や自然に対する教養を高める場や、レクリエーションの場として提供する目的で整備された。		
施設の形態的特徴	面積：約95,000㎡ 開園日：昭和29年（1954年）7月21日 展示植物数：種子植物 約940種、シダ植物 約60種、コケ類 約110種 開園時期：3月20日～11月30日（無休）9:00～16:45 利用料金：大人240円、小人60円、小学生未満無料（団体割引あり）		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	野草園の整備に当たっては、造成や野草の採取、植栽作業に大学や高校、野草愛好家など多くの市民が携わった。 年間利用者数：令和4年度（2022年度）約30,000人 観察会等催事：さくらそう展、あじさい観察会、やまゆり観察会、草木あそび展、萩まつり、木の実・草の実展、もみじ観察会、植物感謝祭		

【施設写真】



湧水山～流れ～泉ヶ池(修景施設)(七北田公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	宮城県仙台市泉区七北田字赤生津4	施設設置年月日	平成2年（1990年）6月1日
施設整備の経緯	平成元年（1989年）に開催された第7回全国都市緑化フェア89グリーンフェア仙台のメイン会場の跡地に整備された公園である。湧水山～流れ～泉ヶ池は、緑化フェアに合わせ整備され、フェア終了後もレガシーとして残したものである。泉ヶ池は中央に噴水を設け、夜間演出照明も備えている。水際には水面に少し突出した広場を整備し、親水機能を備えている。 その他、公園内には、イベントもできる芝生広場、子どもたちに人気の大型遊具、緑化相談や緑化講習会等が行われる都市緑化ホール、野球場やテニスコートや体育館といった運動施設など、多様な施設が整備され、多くの市民に使用され、平成9年（1997年）6月にはサッカー、ラグビー、アメリカンフットボール専用球場として仙台スタジアム「ユアテックスタジアム仙台」を整備し、県内外からの来園者を迎えている。		
施設の形態的特徴	公園面積：22ha 施設：湧水山から滝となって流れ、せせらぎをつくり、泉ヶ池へと流れる水景施設、延長約400m。泉ヶ岳から七北田川が太平洋へ流れるイメージを表現している。水はろ過循環している。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	市民利用施設：野球場、テニスコート、体育館 利用者数：令和4年度（2022年度）約36,000人 イベント：泉ふるさとまつり（来場者約10万人）、スポーツ教室（サッカー、陸上）、撮影会 ふるさとまつりにおいて、流水路を使ったイベントが開催されている。 泉ヶ池周辺は冬季にライトアップイベントが開催されている。		

【施設写真】



避難の丘(海岸公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	災害被害等の復興祈念に係る公園施設		
施設の所在地	宮城県仙台市若林区荒浜字川向 外3箇所	施設設置年月日	平成28年（2016年）10月
施設整備の経緯	海岸公園は平成23年（2011年）3月に発生した東日本大震災により被災したことから、公園施設の災害復旧及び再整備を行っている。その中で、津波災害に強い地域づくりを目指すことを目的とし、津波襲来時における海岸公園地帯の避難者（公園利用者や沿岸部農業従事等）を対象とする一次避難場所として、海岸公園の各施設整備地区内に津波から緊急に身の安全を確保するための避難の丘（築山）を新たに4箇所整備した。		
施設の形態的特徴	避難の丘（築山）は盛土であり、構造基盤部の盛土材として震災がれきや津波堆積土砂等も利用している。盛土高さT.P.+10.0m～T.P.+15.0mであり、頂上部の広さは整備地区毎の想定避難者数により決定しており、1箇所当り140㎡～2,020㎡である。 法面は緩勾配とすることで登坂しやすくし、避難時の機能をより高めるよう配慮している。また、誰もが安全に上れる勾配のスロープと、直線的に駆け上がれる階段を組み合わせ配置している。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	緊急時の避難場所として以外の日常的利用としては、高台を利用した眺望機能や、勾配の緩いのり面を利用した遊具の設置、草すべり等の遊び場としての活用等、多目的に活用してもらうことを目的にしている。		

【施設写真】



国営追悼・祈念施設(石巻南浜津波復興祈念公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	災害被害等の復興祈念に係る公園施設		
施設の所在地	宮城県石巻市南浜町2丁目1-56	施設設置年月日	令和3年(2021年)3月28日
施設整備の経緯	「東日本大震災からの復興の象徴となる国営追悼・祈念施設(仮称)の設置について」(平成26年(2014年)10月31日付け閣議決定)に基づき、東日本大震災による犠牲者への追悼と鎮魂や、震災の記憶と教訓の後世への伝承とともに、国内外に向けた復興に対する強い意志の発信のため、国が地方公共団体との連携の下、宮城県石巻市に国営追悼・祈念施設(仮称)を設置したものの、平成27年度(2015年度)事業化、平成29年(2017年)3月着工、令和3年(2021年)3月28日全域供用開始、令和3年(2021年)6月6日みやぎ東日本大震災津波伝承館開館。		
施設の形態的特徴	• 全体面積：10ha • 主要施設：祈りの場、追悼の広場、市民活動拠点 • 備考：登録対象外となる建築物「みやぎ東日本大震災津波伝承館」も国営追悼・祈念施設に含まれる。ただし、伝承館の展示物の設置及び管理運営は宮城県が実施。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	宮城県を代表する復興祈念公園の中核的施設として、施設内を一巡することで、追悼(祈りの場)、伝承(みやぎ東日本大震災津波伝承館)、復興(杜づくり等)を実感を伴って学習できる。県内外から研修・学習旅行や観光で多くの方が訪れ、伝承館には令和3年(2021年)6月の開館から累計約12万人(令和5年9月末現在)にご来館いただいている。また、当公園では整備の初期段階から開園後の運営に至るまで多くの市民・NPO・企業等の皆様に熱心に参画いただいております、「追悼」・「伝承」・「杜づくり」に取り組んでいただいている。		

【施設写真】



全景



祈りの場



祈りの場・追悼の広場



市民活動拠点

石巻市慰霊碑(石巻南浜津波復興祈念公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	災害被害等の復興祈念に係る公園施設		
施設の所在地	宮城県石巻市南浜町二丁目1-56	施設設置年月日	令和3年（2021年）3月11日
施設整備の経緯	東日本大震災により犠牲となったすべての生命（いのち）への追悼と鎮魂の思いを伝える石巻南浜津波復興祈念公園が整備され、石巻市で犠牲となられた方々を追悼するとともに、二度と同じような犠牲者を出さないよう震災の記憶を後世に伝え続けるため、公園内に石巻市慰霊碑を建立した。		
施設の形態的特徴	公園のデザインテーマであるオーバル形状とし、その曲線に沿ってゆるやかに囲われた慰霊の空間を作り出し、「追悼と伝承」に向き合い、静かに祈りを捧げることができる場となっている。 ※オーバルとは、訳すと楕円であり、楕円はその形状から卵を意味し、古来から「誕生・創造」「再生・復興」の象徴ともされている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	令和3年（2021年）度から東日本大震災石巻市追悼式の式典会場として利用しており、式典当日は、1,000人を超える多くの方々が参列や献花に訪れている。		

【施設写真】



多賀城市東日本大震災モニュメント(多賀城駅前公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	災害被害等の復興祈念に係る公園施設		
施設の所在地	宮城県多賀城市中央二丁目7地内	施設設置年月日	平成27年（2015年）3月11日
施設整備の経緯	東日本大震災で犠牲になられた方々への追悼、東日本大震災の経験から得た知恵や教訓の伝承、減災への誓いのためのシンボルとして建てられたもの。また、当該モニュメントを設置したエリアを都市公園として整備し、平成29年（2017年）5月に開設した。		
施設の形態的特徴	高さ（7m） 面積（約16㎡（4m×4m）） ステンレス材・白/グレー系御影石・鋼材・ステンレスエッチングプレート モニュメントは、ステンレスと御影石を使用した2つのアーチと、ステンレスと御影石を使用した中央の柱で構成しています。中央の柱は「国指定重要文化財多賀城碑」が納められている覆屋(おおいや)の格子のイメージをモチーフに、東日本大震災で亡くなられた方と同数の格子を描いたデザインとなっています。中央の柱の正面に扉を設け、観音開きで開くようになっており、中には犠牲となられた多賀城市民でご遺族の方が刻銘を希望された方のお名前を納めています（追悼式などにおいてご遺族の方のみ閲覧となり、一般の方は、内部を見ることができません。）。円柱の高さは、市内を襲った津波の最大の高さと同じ4.6mとし、東日本大震災の「記憶」の一部を、モニュメントのスケール感で表現したものとなっています。重なり合う2つのアーチは、世代そして時を超えて決して途切れることなく、「記憶」を次へそしてまた次へと、確実に渡し伝えていく事への願いを表現しています。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	毎年、3月11日に多賀城市東日本大震災モニュメント前で東日本大震災多賀城市追悼行事の自由献花を行っている。モニュメントの扉内部に犠牲者の芳名を刻んだプレートが格納しており、東日本大震災多賀城市追悼行事の際に、遺族からの依頼があった場合のみ開帳している。隣接している表示板に、「東日本大震災の概要」「多賀城市の被害状況」「津波浸水区域図」「モニュメントのデザインの説明」「減災都市宣言」を表示しており、市内外から訪れた方々や、震災を経験していない世代にも、多賀城市の被災状況や、減災への誓いを伝承していけるものとなっている。		

【施設写真】



千年希望の丘(千年希望の丘相野釜公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	災害被害等の復興祈念に係る公園施設		
施設の所在地	宮城県岩沼市下野郷字浜177	施設設置年月日	平成26年（2014年）8月1日
施設整備の経緯	平成23年（2011年）3月11日に発生した東日本大震災により沿岸部の6集落は甚大な被害を受けました。この震災からの復興を図るため平成23年（2011年）9月に「震災復興計画マスタープラン」を策定し、津波を完全に防御するのではなく、津波の威力をいかに最小限に食い止めるかという「多重防御」での「減災」の考え方を基本にまちづくりを進めることを決定しました。防災集団移転した沿岸部一帯の集落跡地を活用し、避難丘と園路を含む防災公園を配置し、津波の力の減衰を目的に一時避難場所を整備しました。また、避難丘や園路は再生可能な震災廃棄物を活用した築造により、大津波の痕跡や被災者の想いを後世に伝え、さらに集落跡地等の遺構の保存による震災の記憶や教訓を国内外に発信するメモリアル公園としての機能をもち、平成26年には震災伝承施設である「千年希望の丘交流センター」を整備し、防災学習の場としての役割を担っています。		
施設の形態的特徴	沿岸部約10kmに既存の丘2基（県立公園内）を含め14基の丘と、丘と丘をつなぐ高さ3mの園路（避難誘導路）や芝生広場等を都市公園事業として整備しました。被災集落ごとに6公園があり、それぞれの集落名を公園名としており、14.2haの広さの相野釜公園は、被災前の道路や住宅の基礎等を残しながら整備することで被災前の街区を再現しています。また、園路ののり面には多くのボランティアにより常緑広葉樹（約20種）の苗木約40万本が植樹され、将来苗木が成長することで連結する園路が「緑の堤防」を形成し、津波エネルギーを減衰する役割を果たし多重防御のひとつになります。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	千年希望の丘エリアの維持管理（樹木の育樹作業、下草刈り）は、震災後に誕生した農事法人等を中心に被災された方々が一翼を担っています。また、千年希望の丘サポーター制度を創設し、市民グループや市内事業所の方々をはじめ、県内外の企業や団体等の協力により除草や環境美化ボランティア活動を行っています。施設利用者の多くは防災学習等を目的に市外、県外から訪れており、園内ガイドとして、市民活動団体である「いわぬま震災語り部の会」の協力を頂いています。		

【施設写真】



相野釜公園全景



慰霊碑と避難丘



希望の灯火(あかり) (3.10)



慰霊碑と園路（緑の堤防）

ふるさと村(国営みちのく杜の湖畔公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	国営公園制度		
施設の所在地	宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松53-9	施設設置年月日	平成9年(1997年)10月～平成17年(2005年)3月
施設整備の経緯	- ふるさと村は、東北のふるさとの農村風景とともに、今に伝わるくらしの知恵を伝えることを目的に整備され、今ではなかなか見られないかつてあった東北地方の農村風景とそこで営まれてきた伝統文化を見ることができる。 - また、東北6県から移築された茅葺き屋根の古民家7棟(宮城県のみ2棟)は全て100年以上前に建てられた古民家が忠実に復元され、それぞれの地域の気候風土に根ざした特徴を有している。古民家は単なる保存建築物ではなく、7つのテーマに沿った展示がなされ、祭り、伝承、食、すまい、しごと、民芸、くらしについて学ぶことができる。		
施設の形態的特徴	- 古民家、長屋門、水車小屋、炭焼き小屋、くら(倉庫)、つかいど(洗い場)、水田、畑、小川、ぬるめ(水田に水を引き込む前に暖めるための空間)、円筒分水(水を利用するための施設)等があり、かつてあった東北地方の農村風景を再現。 - 中央に「おまつり広場」があり、季節毎のイベント等に使用。 - 古民家は、東北6県から各1棟と地元川崎町から1棟の木造・茅葺き家屋を移築したものであり、いずれも川崎町指定有形文化財。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	- 水田や畑で実際に耕作を行うことで、農村風景を創出するとともに、植付け・収穫や収穫物を利用した体験ができる。 - 季節毎にイベントや展示が行われ、東北各地の祭りや風習等の体験ができる。 - ボランティアによる民話語りや自然体験会などが行われており、様々な人との交流が楽しめる。 - 近年は新たな利用方法として、古民家内で飲食できる「古民家カフェ」を季節限定で実施。		

【施設写真】



全景



水田とぬるめ



伝統芸能の演舞



稲刈り

バードサンクチュアリー(秋田県立北欧の杜公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：皇太子殿下(今上天皇陛下) 御成婚記念公園（平成2年度（1990年度）～平成11年度（1999年度））		
施設の所在地	秋田県北秋田市上杉字中山沢128	施設設置年月日	平成6年（1994年）5月
施設整備の経緯	平成5年度（1993年度）に皇太子殿下の御成婚を記念し国民の祝賀の意を表すとともに、自然と人間が調和した快適な都市環境の創造に資するため、平成2年度から整備事業に着手していた北欧の杜公園において、林地や池沼などの既存の自然環境を利用し、水鳥の池、バードサンクチュアリーの整備を行った。		
施設の形態的特徴	水鳥の池 バードサンクチュアリー 面積20ha（うち水面4ha）、支線・散策園路2,300m、記念広場3,500㎡、広場植樹1式、野鳥観察舎1棟		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	一年を通じて野鳥観察で訪れる公園利用者のほか、隣接するオートキャンプ場利用者が散策しながら野鳥観察舎を利用している。また、公園指定管理者が年4回市民の方を対象に自然観察会を開催し、公園の四季や野鳥、小動物を観察してもらい自然への理解を深めている。		

【施設写真】



寒河江スケートパーク(最上川ふるさと総合公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：スケートパーク		
施設の所在地	山形県寒河江市大字寒河江字高瀬山1179-1	施設設置年月日	平成18年（2006年）6月
施設整備の経緯	最上川ふるさと総合公園は平成11年（1999年）に開設され、平成14年に全国都市緑化フェアの会場となった。その後、当時未整備であった区域について、住民ニーズを反映した愛着の持てる公園づくりを目的として「住民参加型公園づくり」の取組に着手した。「住民参加型公園づくり」では5つに区分されたエリアごとに分科会を設置し、それぞれ望ましい施設整備のあり方が検討された。当スケートパークは、スポーティゾンの分科会で検討されて整備された施設である。		
施設の形態的特徴	面積：約2,900㎡（東北最大級） ストリートコース（階段、手すり、坂道などの構造物を配置したコース） パークコース（お椀を組み合わせたような複雑な形をしたプール状のコース、クレイドルボウル） 初心者エリア		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	スポーティゾンの分科会においては、若者たちの活動の場が少ないストリートスポーツに目を向け、スケートボード愛好者などの若者を中心としたワークショップを重ね、スケートパークの整備を実施することとなった。現在は、県内外からスケートボード愛好者等が集う東北最大級のスケートパークとして人気の施設となっている。令和元年度から5か年でのリニューアル計画を実施しており、利用者やスケートボード協会等から意見を聴取しながら、ストリートコース、パークコース、初心者エリアの改修を行った。（令和5年8月完成）なお、パークコース内に設置したクレイドルボウルは屋外スケートパークでは日本初であるなど、先駆的な取組みとなっている。		

【施設写真】



施設全景



ストリートコース



パークコース



パークコース（クレイドルボウル）

モニュメント(あづま総合運動公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：皇太子殿下（今上天皇陛下）御成婚記念公園		
施設の所在地	福島県福島市佐原地内	施設設置年月日	平成6年（1994年）6月1日
施設整備の経緯	皇太子殿下のご成婚を記念して国民の祝賀の意を表すとともに自然と人間が調和した快適な都市環境の創造に資するため、国土交通省（当時：建設省）の58箇所の都市公園と10箇所の国営公園の計68公園のなかから公園のシンボルとして整備した。		
施設の形態的特徴	モニュメント（BEAT FOR TOMORROW） 規格 H=6.3m L=7.3m W=20.0m、材質 大理石（白アアレ）ステンレス塗装仕上及び鏡面仕上モニュメントは、福島県民の感性ある心のエネルギーの象徴とし、「新世紀への鼓動=beat for tomorrow」とした。 公園計画全体が、円の構成から出来上がっている点を踏まえ、環境調和を大切にしたい。造形における中央の球は、スローガンの心を意味し、有機曲面体及びこれから吹き出す水は、エネルギー・発信、はばたき、上昇、透過などを意味する。三つ輪は優しさを表現すると共に、県の三つ（中通り・浜通り・会津）の異なる「地域・文化・歴史」の統合、またスポーツの精神である「心・技・体」などを意味する。さらに、三つ輪断面からの吹き出し水は、下の池に注ぐ水の根源であり県民の力強い生命力を表している。 なお、夜の顔に対しては、光ファイバー・ブラックタイトなどの光の演出にて、昼の顔とは違った変化が楽しめる計画とした。このモニュメントを含む中央広場、愛称「鼓動の丘=beat hill」が、明日に向けどんな鼓動になるのかは、県民一人一人の心と共にある。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	モニュメントを設置した広場は、水と緑のふれあいにより県民の憩いの場として、また、コンサートや演劇などのさまざまなイベント会場としても利用されている。		

【施設写真】



記銘碑・モニュメント(南相馬市メモリアルパーク)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	災害被害等の復興祈念に係る公園施設		
施設の所在地	福島県南相馬市原町区北泉字地藏堂 地内	施設設置年月日	令和5年（2023年）3月31日
施設整備の経緯	南相馬市メモリアルパークは、「震災の記憶を未来へつなぐ」をコンセプトに、「震災の記憶を後世に伝承していく場所」として、また「鎮魂及び慰霊の場として海を眺めることができる高台」として、南相馬市が整備しました。		
施設の形態的特徴	【記銘碑】 D300×W7000×H1350、RC造タイル張り、震災等で犠牲となられた方々の名前が刻まれた記銘碑 【モニュメント】 D1200×W1200×H2100、S造（ステンレス）、東日本大震災時の津波到達高さの11.1メートルを標記したモニュメント		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	隣接する北泉海岸は、サーフィンが全国的に有名で園内の高台からは、海を眺めることができ、サーフィンを楽しんでいる若者たちで賑わっている。 津波が発生した場合の緊急避難経路機能を持つ高台として整備し、東日本大震災等で犠牲となった方の名前が刻まれた記銘碑及び、震災時の津波到達高さの11.1メートルを示すモニュメントを設置している。		

【施設写真】



水戸 養命酒薬用ハーブ園(水戸市植物公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：【都市緑化意識の高揚、植栽知識の普及】植物園		
施設の所在地	茨城県水戸市小吹町504	施設設置年月日	平成29年（2017年）4月
施設整備の経緯	水戸 養命酒薬用ハーブ園の前身となる薬草園は、身近な薬草の観察の場として平成元年（1989年）3月に完成した。平成18年（2006年）からは、水戸藩第二代藩主の徳川光圀や第九代藩主徳川斉昭の時代の文献に登場する「水戸藩にまつわる薬草」の収集と栽培を開始し、薬草園の植栽や展示会で紹介してきた。平成28年（2016年）に、水戸市と養命酒製造株式会社は、薬草を通じた水戸の歴史・文化等の資源の活用・魅力の発信に向け、5年間の「薬草を活用した官民協働事業に関する協定」を締結した。平成29年（2017年）には、新しく整備したハーブガーデンエリアと旧薬草園をあわせ、協働事業のシンボルとして「水戸 養命酒薬用ハーブ園」に生まれ変わった。令和2年（2020年）11月にはトライアルガーデンがオープンした。（令和3年（2021年）3月、協働事業終了後も、水戸 養命酒薬用ハーブ園の名称の継続利用が決定した。）		
施設の形態的特徴	水戸藩にまつわる薬草 養命酒薬用ハーブ園（1,850㎡）は、2つのエリアがある。平成28年に新設された五感で楽しむ「ハーブガーデンエリア」は、シンボルツリーとなる江戸時代の妙薬「キハダ」周辺にある円形のウッドデッキ、イングリッシュガーデンの伝統的な石積みドライストーンウォーリングのムーンゲートなどがガーデンを特徴づけている。旧・薬草園の「江戸時代の水戸藩にまつわる薬草エリア」は、平成23年の東日本大震災で使用できなくなった弘道館の屋根瓦を縁取りに利用している。 水戸 養命酒薬用ハーブ園「トライアルガーデン」は、各花壇でハーブを栽培し、実習等での利用や試作を行うエリアである。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	水戸藩にまつわる薬草をテーマに学習を深める薬草栽培ボランティア、園芸実習を行うわくわくガーデン友の会などが、手入れや植替え、ドライフラワー作りなどの管理に携わっている。ドライストーンウォーリングの石積み体験を実施し、市民とともにガーデンづくりを行った。体験教室等でハーブの観察に利用した。レストランフィオレンテの薬膳メニューに利用している薬草・ハーブの一部について、実際の植物を観察することができるエリアとなっている。トライアルガーデンで、調理専門学校の学習会や草木染教室の材料としてハーブを収穫し利用している。		

【施設写真】



シンボルツリーのキハダ



ハーブガーデンエリアの展示



弘道館の瓦を使った縁取り
(江戸時代の水戸藩にまつわる薬草エリア)



トライアルガーデン

四季の原、月池(第10回都市緑化フェア会場)(偕楽園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	茨城県水戸市常磐町1-3-3	施設設置年月日	平成5年(1993年)2月8日
施設整備の経緯	・偕楽園は金沢の兼六園、岡山の後楽園とならぶ「日本三名園」の一つで、天保13年(1842年)に水戸藩第9代藩主徳川斉昭公によって造園された。 ・偕楽園拡張部は、偕楽園開園150周年を記念し、県内外から160万人以上が訪れた「第10回全国都市緑化フェア'93いばらき」のメイン会場として偕楽園の南側に新たに整備された公園施設である。 ・都市緑化フェアの開催に向けて、桜山やもみじ谷、蛸谷、梅林、園路・広場、駐車場等の整備が段階的に進められ、偕楽園拡張部は平成5年に概成した。 ・整備は景観や眺望を考慮しつつ、周辺の河川改修とあわせて進められ、小河川跡の低地を月池、平坦で広々とした空間を四季の原として整備した。 ・なお、偕楽園の借景となっている千波湖やその周辺の公園等の自然豊かな空間の保全と偕楽園との一体的利活用を図るため、この地域全体を指す総称として偕楽園公園と名付けられている。		
施設の形態的特徴	・偕楽園拡張部は、偕楽園(好文亭)からの眺望を考慮し、「落ち着いたふるりの"むらの景"」の再現をテーマに歴史的・文化的な価値を有する都市の緑地を目指した。 ・偕楽園拡張部の施設には、田鶴鳴梅林、猩々梅林、窈窕梅林など歴史的な由緒から名付けられた梅林をはじめ、渡月橋や蛸橋、窈窕橋などの木橋、四季の原などの広場、桜川や沢渡川、月池などの既存の自然を活かして整備された。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	・都市緑化フェアで整備された四季の原等を活用し、都市緑化フェスティバル等の年間を通じて様々なイベントが開催されている。 ・最近では、偕楽園拡張部の月池地区において、県内初のパークPFI制度を活用した公募により、パークレストラン「THE迎賓館偕楽園別邸」が令和5年(2023年)5月に開業し、偕楽園公園の魅力やサービス向上はもとより、周辺地域の活性化に大きく寄与することが期待されている。 ・また、市民協働の取組として、本公園で活動するボランティア団体を「茨城県公園サポーター」に認定し、花壇づくりやゴミ拾い等が行われている。		

【施設写真】



偕楽園公園全景
(都市緑化フェア開催時)



四季の原
(都市緑化フェア開催時)



月池(都市緑化フェア開催時)



偕楽園(好文亭)からの眺望(現在)

桃園【桃林】(古河総合公園(愛称:古河公方公園))

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ:【歴史的な観光資源】桃園		
施設の所在地	茨城県古河市鴻巣399-1	施設設置年月日	昭和50年(1975年)3月24日
施設整備の経緯	古河公方公園は、古河の原点とも言える古河公方の史蹟保存と名所「古河桃林」の復活を大義として計画され、昭和50年(1975年)に一部(5ha)に花桃を植え名所・古河桃林を復元し、湿性植物園に花菖蒲や大賀ハスを植え、民家園をつくり、仮開園した。現在は約22.4haの広大な土地に、たくさんの木々や草花、公方様の森や水面に集う野鳥の群れ、復元された御所沼に古河公方ゆかりの史跡など、四季を通じて里山の自然と文化的景観を親しめる公園である。桃林は、江戸時代初期に古河城主であった土井利勝が薪不足解消のために植えさせたという来歴があり、江戸時代後期には藩士も家族で訪れる桃の花見の行楽地となり、明治末期「古河桃林」は関東一円に知られ桃の名所として多くの人が花見に訪れた。しかし、炭疽病の発生などから昭和初期に桃林は激減した。昭和48年(1973年)の事業着手にあたり桃が植えられ、半世紀ぶりに市民の記憶に残る古河桃林が復元された。		
施設の形態的特徴	約16,800㎡の広大な桃林には、主に5種類(矢口、源平、菊桃、寿星桃、寒白、照手)約1,600本の花桃が植えられており、開花時期には鮮やかなピンク色に染まった見渡す限りの花に包まれる。桃は、成長が早い、寿命が短いのが特徴である。樹形完成が10年で、30年までが最盛期である。パークマスター、学識経験者、文化関係、商工観光関係、公園で活動する市民団体、指定管理者及び関係行政機関で組織した、古河市公方公園づくり円卓会議を設置し、運営の方向性の検討及び推進、管理等に関して協議を行い決定している。花桃の植栽については、各品種の開花時期等の特徴を考慮し、円卓会議で協議を行い決定している。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	古河公方公園は、春の花桃をはじめ、四季折々の美しい花を咲かせ市民の憩いの場となっている。春には全国的に有名な「古河桃まつり」が開催され、歌唱ショーや大道芸、手筒花火、ダンス等の様々なイベントを行っている。市民が参加する公園づくりとして、市内の個人・法人・団体等及び市外の個人を対象に花桃のオーナーを募集し、記念植樹の取組を行っている。古河公方公園は、世界の主要な文化景観の保護と管理を目的とした顕著な活動に対して功績をたたえることを目的とした、ユネスコの「メリナ・メルクーリ国際賞」を平成15年(2003年)に日本で初めて受賞した。		

【施設写真】



桃園(桃林)



桃園(桃林)



桃園(桃林)



浄円坊池と桃園(桃林)

笠間芸術の森公園スケートパーク【施設名：ムラサキパークかさま】

（笠間芸術の森公園）

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：【スポーツ・レクリエーション】スケートパーク		
施設の所在地	茨城県笠間市笠間2345	施設設置年月日	令和3年（2021年）3月20日
施設整備の経緯	笠間芸術の森公園は、平成4年（1992年）に開園し、県陶芸美術館の他、様々な屋外イベントの会場となる野外コンサート広場やイベント広場、県内最大級のローラー滑り台を持つあそびの杜等がある。また、春には地場産材である笠間焼の作家が集まる「陶炎祭（ひまつり）」、秋には「新栗まつり」、「笠間浪漫」などの大型イベントをはじめ、年間を通して飲食や音楽イベント等の様々な催しが開催され、賑わいを見せている。 このような中、本公園のさらなる賑わい創出を図るため、若年層の愛好者が多く、全国的にまだまだ整備が進んでおらずトップレベルの選手の練習場所がないスケートボードに着目し、検討を進めた。スケートボードが東京オリンピックの正式種目に決まったことも後押しとなり、日本でもトップレベルの練習が出来、国際大会の開催も可能なスケートパークを整備することとなった、全国でも先駆的な取組である。		
施設の形態的特徴	本公園のスケートパークは、日本最大級のオールコンクリートパークであり、「パークゾーン」、「ストリートゾーン」、「フラット&ビギナーゾーン」など多様なゾーン構成により、初心者から上級者まで誰もが楽しめる施設である。滑走面のレイアウトは、東京オリンピック日本代表監督の意見を聞きながら最新のトレンドを取り入れたセクションとなっており、整備においては、東京オリンピックの会場にも採用された「SSHS工法」を採用し、世界大会も開催できる高水準のパークとなっている。 スケートボードの専門知識を有する㈱ムラサキスポーツが管理運営やスクール事業等を行い、より魅力的なコンテンツとして利用者に提供している。周辺にはスタジアム型の広い観覧エリア（芝生）が設けられており、どこからでも臨場感あふれる観覧ができるようになっている。多目的広場が隣接しており、スケートボードの大会と合わせた各種イベントの開催が可能となっている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	施設の利用状況は、市外の利用者が9割程度を占めており、広域的なスポーツ・レクリエーションの拠点となっている。 「スケートボードの聖地かさま」として市民に愛着を持ってもらえるよう、市内小学生向けスケートボード無料体験会や小学生の校外学習としてスケートボード体験を実施している。市内の生産者とコラボしてスケートボード関連商品開発を実施し、地場産材である笠間焼で作ったスケボー箸置きやキーホルダー、スケボーパンなどの販売を行い、地域全体でスケートボードを中心としたまちづくりに力を入れている。		

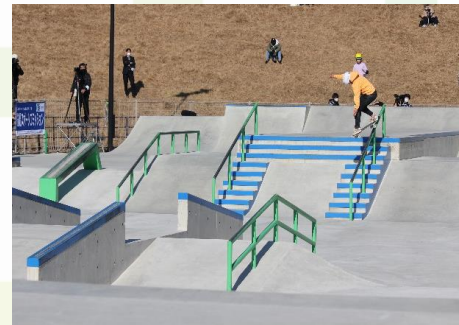
【施設写真】



スケートパーク全景



第4回日本スケートボード選手権大会（R3.12）



笠間アクションスポーツ×アートフェスティバル（R3.2）

みはらしの丘(国営常陸海浜公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	国営公園制度		
施設の所在地	茨城県ひたちなか市馬渡字大沼605-4	施設設置年月日	平成24年度（2012年度）
施設整備の経緯	水戸対地射爆撃場跡地の平和利用として整備された「みはらしの丘」の立地は、射爆撃訓練の主要標的地であったことから、多量の不発弾等が埋没していた。そのため、危険物の探査撤去が徹底して行われた後に、近隣の公共事業で発生した建設残土を用いて丘が造成された。その後、植栽に適した土壌改良を加え、春にはネモフィラ、秋に紅葉するコキア等、当時目新しかった園芸植物を採用することで、世界のほかのどこにもない風景が創出された。近年においても、来園者の増加やコロナ禍等、時代の変化に合わせて、誰もが安心安全かつ快適に過ごせるよう、複数動線の確保や広幅員・緩傾斜の園路整備等、バリアフリー等に配慮した整備が行われている。		
施設の形態的特徴	約100万㎡に及ぶ公共工事の建設残土を受け入れ、麓からの雄大な景観や丘に登る期待感を生み出すために、高中低の3峰が連続する形に築山された。丘の面積は約4.2haと広大な修景施設であり、また、ひたちなか市の最高地点である丘の頂上（標高56m）からは、太平洋や関東平野を望むことができる眺望スポットとしても機能している。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	春のネモフィラや秋の紅葉コキアをはじめとした花修景が人気を集め、見頃時期には外国人を含む多くの観光客に利用いただいている。また、ひたちなか市教育委員会との連携により、市内の小学生を対象とした「ネモフィラの種まき体験」や「コキアの植え付け体験」等、市民に愛着をもっていただけるような取り組みも展開されている。なお、茨城県が実施している「県政世論調査（令和2年度以降「ネットリサーチ」）」においては、平成29年（2017年）から「知人に自慢したいもの（自慢したいこと）」1位に選ばれ続けており、シビックプライドの醸成にも大きく貢献している。		

【施設写真】



建設残土で造成中のみはらしの丘



残土搬入が進みその形が現れた丘



ネモフィラの花満開のみはらしの丘



紅葉の見頃を迎えたコキア

大子広域公園オートキャンプ場【施設名：グリーンヴィラ】 （大子広域公園）



[目次](#)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施策名称：オートキャンプ場		
施設の所在地	茨城県久慈郡大子町矢田15-1	施設設置年月日	平成14年（2002年）7月12日
施設整備の経緯	大子広域公園は、奥久慈地方の豊かな自然環境や温泉資源を活かし、県北地域におけるスポーツ・レクリエーションの場として平成6年に開園した。園内には、四季を通じて遊べる多目的温泉プール「フォレスパ大子」、オートキャンプ場「グリーンヴィラ」、多目的広場、テニスコート、アスレチック施設等がある。平成14年にオープンしたグリーンヴィラは、露天風呂付き温泉やバリエーション豊富な宿泊サイトなど、それまでのオートキャンプ場とは一線を画す充実した設備とスタッフの手厚い対応が利用者から高い評価を得ている。平成18年には（一社）日本オートキャンプ協会認定の星マーク最高位である「5つ星」に関東で初めて認定され、専門誌による人気ランキングでも21年間で1位を11回獲得するなど、人気のオートキャンプ場として全国でも先駆的な存在となっている。		
施設の形態的特徴	グリーンヴィラの宿泊施設は、個別のオートキャンプサイト、豊かな自然が魅力のフリーサイト、電源・給排水施設完備のキャンピングカーサイト、快適なキャビン、アメリカ製のトラベルトレーラーがあり、キャンプ初心者から上級者まで様々なスタイルでキャンプを楽しむことができる。 また、男女別露天風呂付温泉施設のほか、売店、シャワールーム、バーベキューサイト、コインランドリー等もあり、レンタル用品も充実している。クリスマスやハロウィン、春・秋のキャンプ大会、大晦日のカウントダウン、そば打ち、炭焼き等の年間を通じて様々なイベントが開催されている。最近では、無印良品を展開している（株）良品計画と協力し、老朽化したキャビンのリニューアルを実施している。ベッドやダイニングテーブル等の既存の備品交換だけでなく、ソファ等のくつろげるインテリアを含めた内装のトータルコーディネートを行うことで、都市公園の魅力向上を図っている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	県外からの来場者、そしてリピーターの割合が高く、地域に人を呼び込むことに成功しており、グリーンヴィラを拠点として周辺の観光施設を回遊することで、県北地域の観光振興に大きく寄与している。グリーンヴィラの管理は地元大子町が実施しており、町で人気のパン屋さんが朝食販売に訪れるなど、地域に密着した運営を行っている。また、グリーンヴィラの利用者は大子町の商店でキャンプに必要な生鮮食品等を購入していることから地域経済の活性化に一役買っている。令和5年1月に開催されたグリーンヴィラ開場20周年記念イベントでは、地元の特産品であるしゃも鍋無料配布や音楽ライブ、場内施設の内覧などの催しが行われ、町内外から1,170名が訪れた。		

【施設写真】



オートキャンプ場「グリーンヴィラ」全景



バーベキューサイト



トラベルトレーラー



開場20周年イベント



春のキャンプ大会

八幡山交通公園(八幡山公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：交通安全に資する施設		
施設の所在地	栃木県宇都宮市大曾2丁目9番69号	施設設置年月日	昭和44年（1969年）5月5日
施設整備の経緯	【八幡山交通公園】：児童の健全な遊戯及び交通道德を養うため。		
施設の形態的特徴	八幡山交通公園：走路（825m）		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	【八幡山交通公園：走路】※対象：小学校3年生から中学校3年生まで（3歳～小学校2年生は保護者同伴） ・毎週土曜日、市民の日、こどもの日、県民の日、勤労感謝の日の利用料無料		

【施設写真】



黎明(銅像)(栃木県総合運動公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	栃木県宇都宮市西川田4-1-1	施設設置年月日	昭和55年（1980年）7月
施設整備の経緯	栃木県において、国民体育大会の誘致が初めて表明されたのは、昭和42年（1967年）である。その年の8月に栃木県スポーツ振興審議会が、本県の体育、スポーツの振興策として「近い将来に国体を誘致すべきである。」旨の答申を行った。 同年12月の第127回県議会において、知事が第32回国民体育大会の誘致の意思を表明し、同議会においても「昭和52年（1977年）に予定されている第32回国民体育大会を積極的に誘致すべきである。」と決議した。 昭和43年（1968年）3月に、知事、教育長連名で、日本体育協会と文部省に対し、県議会の議決書を添えて、第32階国民体育大会を誘致したい旨の要望書を提出し、いよいよ国民体育大会の誘致に向けて積極的な活動が開始された。 昭和44年（1969年）7月25日に開催された東地域調整会議においては、昭和52年（1977年）第32回国民体育大会の開催県を青森県とする旨が決議されたものの、昭和51年（1976年）6月23日、日本体育協会理事会において、第35回国民体育大会を栃木県で開催することが内定した。 同年9月1日には、国体のテーマを「栃の葉国体」、スローガンを「のびる力、むすぶ心、ひらくあした」と決定し、国体開催に向け準備は着々と進んでいった。 昭和52年（1977年）7月23日の日本体育協会理事会において、昭和55年（1980年）第35回国民体育大会夏、秋季大会の栃木県開催が正式に決定された。 当施設は昭和55年（昭和55年）に開催された「栃の葉国体」を記念し、当公園内に設置された銅像である。		
施設の形態的特徴	高さ3.67m、銅像、那須塩原市（旧西那須野町）出身の彫刻家・南庄作氏制作		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	当公園の主な利用目的はウォーキング、ジョギング、スポーツ施設利用等で、利用形態は個人、友人、家族連れが多い。 当施設は野球場（本球場）のある中央エントランスに位置しており、多くの公園利用者が身近に感じるシンボリックな施設である。		

【施設写真】



第17回全国都市緑化とちぎフェア開催記念碑(みずほの自然の森公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	栃木県宇都宮市西刑部町1861	施設設置年月日	平成12年（2000年）年9月9日（開会式）
施設整備の経緯	第17回全国都市緑化とちぎフェア（マロニエとちぎ緑花祭2000）が栃木県宇都宮市と壬生町で開催され、宇都宮市の会場が宇都宮市立総合運動公園（みずほの自然の森公園）だったことから、開催を記念して設置。 記念碑の像は緑化フェアのイメージキャラクターの「ばなばな」で、「クサカンムリ」をモチーフにし、花や緑を大切にする気持ちを持った人々の輪が広がってほしいという思いを表現したデザインになっており、一般公募から選定された。		
施設の形態的特徴	大きさ 全高121cm 幅204cm（像の高さ48cm 幅63cm、銘板の高さ30cm 幅45cm） 素材 台座：天然石、像：コンクリート製		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	来園者の休憩スペースがある管理棟の前に来園者の目にとまるように設置してある。		

【施設写真】



記念植樹(栃木県とちぎわんぱく公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	栃木県壬生町大字国谷2273	施設設置年月日	平成12年(2000年)10月
施設整備の経緯	平成7年(1995年)に「壬生総合公園(仮称)基本計画策定懇談会」が設置され、計画の方針や導入施設等の基本計画がまとめられた。 平成7年(1995年)5月1日に都市計画決定、翌年2月1日に事業認可を取得し、用地取得等の事業に着手したものであり、「花のまち」「子どもの村」「ふしぎの森」「風の谷」「みどりの丘」の多様な5つのエリアを通して、夢を育み、冒険を体験できる公園として整備が進められた。 また、本公園は、整備着手段階から、全国都市緑化フェアの開催を視野に入れた整備を行っており、平成12年(2000年)9月9日(土)から11月5日(日)の58日間にわたって、「つなぐ緑 つくる緑 こころの緑」を開催テーマとした「第17回全国都市緑化とちぎフェアマロニエとちぎ緑化際2000」の会場として使用された。 なお、本イベントの主催は、栃木県、宇都宮市、壬生町、(財)都市緑化基金であった。 当施設は秋篠宮同妃両殿下が平成12年(2000年)10月5日に緑化フェアを記念して県木として記念植樹をなされたもの。		
施設の形態的特徴	トチノキ、ベニバナトチノキ 各1本		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	当公園の主な利用目的は散策、休憩、ウォーキング、ジョギング等で、利用形態は家族連れが多い。 当施設は風の谷エリアに位置しており、多くの公園利用者が身近に感じるシンボリックな施設である。		

【施設写真】



第17回全国都市緑化とちぎフェア開催記念碑(壬生町総合公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	栃木県下都賀郡壬生町大字国谷783番地1	施設設置年月日	平成11年（1999年）以降
施設整備の経緯	平成12年（2000年）9月から11月にかけて、栃木県で開催された全国都市緑化フェアの壬生会場として利用され、開催の記念として設置した。 記念碑の像は緑化フェアのイメージキャラクターの「ばなばな」で、「クサカンムリ」をモチーフにし、花や緑を大切にする気持ちを持った人々の輪が広がってほしいという思いを表現したデザインになっており、一般公募から選定された。		
施設の形態的特徴	高さ約1m。コンクリート製で、二人のキャラクターが手をつないでいるような形態。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	第17回全国都市緑化とちぎフェア開催記念で設置されたもので、園路途中にあり、公園を訪れる多くの利用者の目にとまるように設置されている。		

【施設写真】



第38回国民体育大会 記念石碑(群馬県立敷島公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	群馬県前橋市敷島町66番地	施設設置年月日	昭和59年（1984年）8月
施設整備の経緯	昭和58年（1984年）に開催された第38回国民体育大会を記念し天皇陛下がお詠みになられたものを石碑に印したもの。		
施設の形態的特徴	右側の黒御影石には「薄青く、赤城そびえて前橋の、広場に入々、喜び集う」と掘られている（敷島公園HPより）。左側の石碑には「天皇陛下は 昭和五十八年十月群馬県に行幸になり、同月十五日あかぎ国体の開会式に御臨席になりました。この御製は その際の御印象をお詠みになられたもので 行幸記念としてここに建碑したものです」と記載。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	陸上競技場前のメインとなる園路の脇という、公園利用者の目に付きやすい場所に位置する。		

【施設写真】



第19回全国身体障害者スポーツ大会 記念モニュメント(群馬県立敷島公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	群馬県前橋市敷島町66番地	施設設置年月日	昭和58年（1983年）10月
施設整備の経緯	昭和58年（1983年）に開催された第19回全国身体障害者スポーツ大会を記念したモニュメント。		
施設の形態的特徴	高くそびえる茶色の塔。 塔の台座には「希望と友情の塔」と記載。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	公園利用者だけではなく、公園の脇を通る国体道路からも目に付きやすい場所に位置する。		

【施設写真】



ばら園(敷島公園)[1/2]

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	群馬県前橋市敷島町262	施設設置年月日	昭和46年（1971年）開園、平成20年（2008年）リニューアル
施設整備の経緯	・昭和37年（1962年）：敷島公園西北部に面積約1万5千坪の小植物園として整備を計画 小植物園は有料公開の「バラ園」を中心に、温室、梅園、菖蒲池、花木園、水生植物見本園、学習園、ロックガーデン、鑑賞池、カナル等 ・昭和46年（1971年）：敷島公園「ばら園」として開園（バラ200種2,000株） ・昭和54年（1979年）：温室がオープン「大温室（310種 1,300株）、サボテン温室（100種 930株）、回廊展示室（140種 670株）」 ・平成18年（2006年）：「全国都市緑化フェア」主会場として、全面改修のため「ばら園」解体 ・平成20年（2008年）3月：「第25回全国都市緑化ぐんまフェア」開催にあわせ、全園をバラに特化した植物園として再オープン（バラ600種 7,000株）		
施設の形態的特徴	平成20年（2008年）春に開催した「全国都市緑化ぐんまフェア」の主会場のひとつとして全面改修し、リニューアル・オープンした。 改修に当り「バラ」に特化した植物園として再整備し、以前のばら園に植栽されていたバラの種類も活かし、「昭和レトロのばら園」をテーマに再整備した。 次のような特徴がある。 ① 原種、オールド・ローズ（慶応3年（1867年）以前の物）、モダン・ローズ（慶応3年（1867年）以後）など、いろいろな系統が植栽されている。 ② スタンダード仕立のモダンローズは約600本が列植されている。 ③ 古い貴重な品種や、カタログに掲載されていない品種などのバラも多くある。 ④ 世界バラ会議選出の殿堂入りのモダンローズ17種、オールドローズ13種が見られる。 ⑤ メインの花壇は、植栽ゾーンが原産国地域に4区分されている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	敷島公園のばら園の魅力は、利根川河川に広がる敷島公園の雄大な松林と対照的に、バラの華やいだ色彩、国際的、文化的な香りといえる。 敷島公園ばら園の開園した昭和46年（1971年）当時、バラの栽培を個人の家庭で楽しむには高級な趣味の一つであり、家庭ではなかなか美しく花を咲かせにくいバラを楽しめる庭園として約200種類2,000本のバラ花壇を中心に整備され 前橋の名所となっていた。 平成20年（2008年）度に「第25回全国都市緑化ぐんまフェア」開催にあわせ、バラ花壇を中心とした「印象的な景観づくり」、高齢者や体の弱い人々に配慮した「園路や休憩施設の導入」、「前橋らしさを象徴するばら園の魅力づくり」を基本計画として再整備を行った。再整備の基本方針として、人気のあるバラ花壇を拡大し、訪れた人々が興味を持って見られるように、日本、ドイツ、フランス、アメリカ、イギリスなどの作出国別にバラ展示を行うモダンローズガーデンの他、オールドローズガーデンやイングリッシュガーデンを整備し、約600種7,000本のバラと松林の織りなす「印象的な景観」を創出している。特にモダンローズガーデンに植栽されました、約600本のスタンダード仕立てのバラとミニバラのコントラストは圧巻であり、全国的にも有数の規模である。		

ばら園(敷島公園)[2/2]

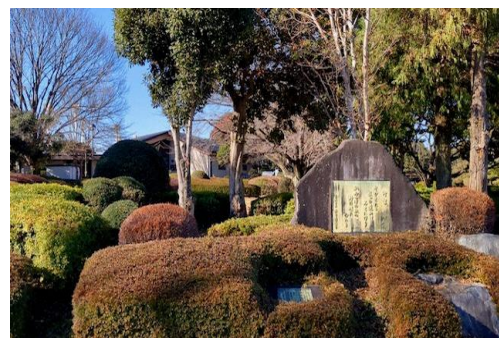
【施設写真】



第38回国民体育大会 行幸記念の石碑(前橋総合運動公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	群馬県前橋市荒口町、荒子町、二之宮町地内	施設設置年月日	昭和59年（1984年）10月
施設整備の経緯	【石碑】：この御製は、昭和天皇が昭和58年（1983年）10月に国体に御臨場のため前橋市に行幸された印象を詠まれたもので、テニス競技をご覧になられたこの地の行幸の記念として、当時の前橋市長 藤井精一が書いたものを石碑として建立した。		
施設の形態的特徴	昭和天皇があかぎ国体に行幸された際の短歌、短歌：昭和天皇、書：第14代前橋市長 藤井精一		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	前橋市のスポーツ振興の中心施設である当該公園は、屋外スポーツの普及とレクリエーション需要に応え、市民が日常スポーツを通じて体力の維持増進を図るための健康運動公園であり、豊かな緑のなかでスポーツや遊びを楽しめる運動公園として、毎年各種スポーツ競技大会の開催をはじめ、生涯スポーツ、健康増進施設として広く市民に利用されている。昭和58年（1983年）には、第38回国民体育大会 あかぎ国体のテニス競技のメイン会場となっている。		

【施設写真】



石碑



石碑詳細

【昭和天皇があかぎ国体に行幸された際の短歌】



石碑の説明板
(石碑向かって左手前)



テニス場

タコ滑り台(かぶら公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：児童の遊び場		
施設の所在地	群馬県富岡市富岡882-1	施設設置年月日	不明（公園設置年月日：昭和28年（1953年）5月1日）
施設整備の経緯	遊具の種類を検討している中で当時流行していたタコ遊具という案が出たため採用し、設置に至った。		
施設の形態的特徴	L11.0m×W5.0m×H4.0mのコンクリート製遊具。 色は白色で、絵が書かれている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	近くに保育園や、高校があるので子ども、若い方の利用が多い。		

【施設写真】



ラジオ塔(調公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：ラジオ塔		
施設の所在地	埼玉県さいたま市浦和区岸町3丁目73-1	施設設置年月日	昭和15年（1940年）3月
施設整備の経緯	詳細の経緯については不明ですが、ラジオ普及を目的として、昭和15年（1940年）3月に社団法人日本放送協会より寄贈を受けて設置されました。		
施設の形態的特徴	（推計値）約240cm、幅約90cm、奥行き約90cm		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	現在はラジオ放送の受信と拡声という本来の機能はなく、塔のみが維持されておりますが、当時は市民の情報収集や娯楽の場として利用されていたものと考えられます。		

【施設写真】



東京2020オリンピック聖火リレー記念碑(さいたま新都心公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目190-24	施設設置年月日	令和4年（2022年）3月8日
施設整備の経緯	令和3年（2021年）7月8日(木)にさいたま新都心公園で実施されました東京2020オリンピック聖火リレーセレブレーションの開催を記念するとともに、レガシーとしてセレブレーションの感動、記憶を後世に遺すため、さいたま新都心公園のにぎわい広場に記念碑を設置しました。		
施設の形態的特徴	高さ100cm、幅80cm、奥行き80cmの記念碑の上面（銘板）にはさいたま市の花木「サクラ」と聖火リレートーチの形状をイメージし、側面にあしらった花と5本の線はさいたま市の花木「サクラ」と五輪をイメージしています。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	（記念碑文章より） 新型コロナウイルス感染症の影響により、本大会と共に1年延期となった東京2020オリンピック聖火リレーは、2021年3月25日に福島県をスタートした後、全国を巡りました。さいたま市では公道での聖火ランナーの走行は中止となりましたが、7月8日、さいたま新都心公園で聖火の到着を祝うセレブレーションが開催され、聖火ランナーがトーチキスで聖火をつなぎ、聖火皿に灯しました。さいたま市からは、浦和南高等学校バトン部や大宮北高等学校ダンス部がステージパフォーマンスを披露し、大いに気運を盛り上げました。大きな感動に包まれ、深く記憶に刻まれたセレブレーションの後、開催都市の東京都へ聖火を送り出しました。		

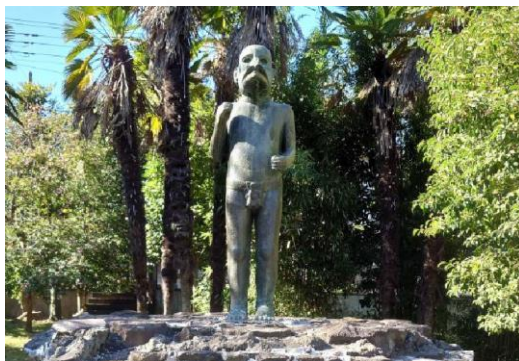
【施設写真】



風の神(別所沼公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国際交流に係る公園施設		
施設の所在地	埼玉県さいたま市南区別所4丁目1004-1	施設設置年月日	昭和55年（1980年）10月2日
施設整備の経緯	昭和54年（1979年）に、「日本国埼玉県とメキシコ合衆国メキシコ州との姉妹提携盟約に関する協定書」に調印しました。 トルーカ市長一行（113名）が「メキシコ州デー」にあわせて来県され、メキシコ州から提携調印記念として贈られた「風の神」ブロンズ像の贈呈式が行われました。 当時、県営公園だった別所沼公園に、メキシコ州と埼玉県の姉妹提携 1周年を記念した「風の神」の建設されました。		
施設の形態的特徴	（推計値）高さ約150cm、幅約30cm、奥行き約30cm		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	像の周辺は「メキシコ広場」として、公園のなかでも異国の風情が漂うエリアとして開放されています。 【像の説明文】 この像はトルーカ盆地のカリストラワカで発掘された石像の複製品であり、エヘカトル・ケツアルコアトル、即ち、風の神を現わしています。この風の神は、健康、豊作及び知恵を市民にもたらす恵みの神といわれています。 兄弟である埼玉県民の皆様、我々の祖先の文化を象徴するこの像を、埼玉県民とメキシコ州民の絶えざる友好と親善の願いをこめてここに贈ります。 1980年10月2日 メキシコ州知事 ホルヘ・ヒメネス・カントウ		

【施設写真】



第59回国民体育大会「彩の国まごころ国体」秋季大会記念碑 (熊谷スポーツ文化公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	埼玉県熊谷市上川上300番地	施設設置年月日	平成3年（1991年）4月1日
施設整備の経緯	平成16年（2004年）10月23日に開催された第59回国民体育大会「彩の国まごころ国体」秋季大会において、天皇皇后両陛下が御臨席されたことを記念して設置された。表面には天皇陛下が大会の演技を御覧になりその情景をお詠みになった和歌が刻まれている。		
施設の形態的特徴	○モニュメント本体 石材 H126 W130 ○台座 石材 H13 W250 D164		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	特になし		

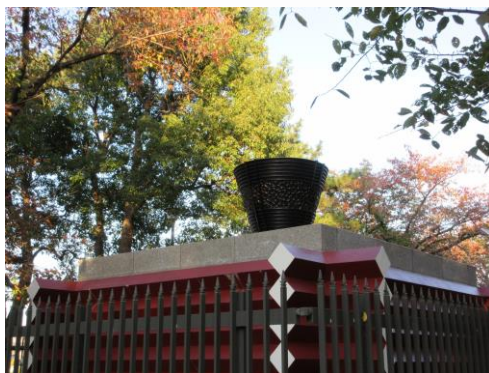
【施設写真】



昭和39年東京オリンピック聖火台(戸田公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	埼玉県戸田市戸田公園5-27	施設設置年月日	昭和39年（1964年）
施設整備の経緯	この聖火台は、昭和39年（1964年）10月に開催された「第18回オリンピック東京大会」のボート競技場の聖火台として使用されました。 漕艇競技会場に決まったことから、県が漕艇場の拡張や周辺施設の拡張を行い、当時の聖火台が今も展示されています。		
施設の形態的特徴	鋳物製で大きさは、上部直径1.4m、高さ1.4mです。 当時、主会場の国立競技場に設けられた聖火台の三分の二の大きさですが、同じデザインでいずれも川口市内の鋳物工場で作成されたものです。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	10月10日の開会式に国立競技場聖火台に灯された聖火から分けられた炎が、当時の戸田町役場前から3人の走者によってリレーされ11日午前9時30分に聖火台に点火されました。 このきらめく聖火のもと、同日から5日間にわたり、27ヶ国、101クルーが7種目のボート競技を熱く繰り広げました。		

【施設写真】



銘板、日時計(記念広場)(国営武蔵丘陵森林公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	国営公園制度		
施設の所在地	埼玉県比企郡滑川町山田1920	施設設置年月日	昭和54年度（1979年度）
施設整備の経緯	国営武蔵丘陵森林公園は、明治百年記念事業の一環として、自然を失いつつある都市の住民が緑を通じて人間性を回復する場を確保するため、首都近郊の武蔵丘陵に設置された、日本第1号の国営公園です。（昭和49年（1974年）7月開園） 開園から約5年の歳月を経て、記念広場他修景施設の整備として、「明治百年記念」の銘板および日時計1基を設置すると共に、ベンチや花崗岩乱張擁壁の設置、修景植栽を行いました		
施設の形態的特徴	【日時計】 材質：黒御影石、大きさ：高さ2,400mm 【銘板】 材質：白御影石、大きさ：横1,500mm×縦785mm		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	小学校の校外環境学習として、五感を使った体験や身近な生き物・植物の観察等、自然に親しむ環境学習プログラムを提供し、記念広場を活動の場として利用しています。		

【施設写真】



綿打池(千葉公園)[1/2]

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	戦災復興土地地区画整理事業		
施設の所在地	千葉県千葉市中央区弁天3丁目1	施設設置年月日	「綿打池（ボート池）」昭和27年（1952年） 「ハス池」平成5年（1993年） 「蓮華亭」平成6年（1994年）5月
施設整備の経緯	（整備経緯） 明治41年（1908年） 旧陸軍鉄道連隊を旧千葉町都賀村（現椿森）に設置 昭和 8 年（1933年） 同連隊出身の荒木大尉の功績をたたえ、綿打池近くに荒木山公園を造成 昭和21年（1946年） 戦災復興都市計画にて荒木山公園を取り込む形で千葉公園（綿打池周辺）の整備を決定 昭和26年（1951年） 大賀一郎博士が千葉県の検見川で古代ハスの実（約2,000年前）を発見 昭和27年（1952年） ボート池（綿打池）オープン、古代ハス開花 昭和29年（1954年） 「検見川の大賀蓮」と名付けられ、千葉県の天然記念物に指定 昭和34年（1959年） 「千葉公園」を都市公園（総合公園）として公告 平成 5 年（1993年） 千葉市の花に「オオガハス」が選定される 綿打池の畔に現在の面積900㎡のハス池と木道を整備 ハス池の整備に合わせ、記念式典及びオオガハスの植え付け祭が開催される 平成 6 年（1994年） 千葉公園ハス池の畔に蓮華亭（ホール、展示等）を建設 平成28年（2016年）～ 第一回 大賀ハス祭り開催 平成30年（2018年）～ 千葉公園初となるナイトフェスティバル「YohaS」を開催 （説明文） 現千葉公園に整備されている綿打池は、明治の頃は葦深い沼上の池であり、戦前から存在していた。明治41年、旧千葉町都賀村（現椿森）に鉄道連隊及び演習作業場が設置された。終戦後、市民の憩いの場、県都にふさわしい公園とするため、戦災復興都市計画事業の一環として、本市初の総合公園として計画され、現在も綿打池周辺には、橋脚や演習用トンネルなど、鉄道連隊の演習作業場として使用された名残がある。 また、平成4年に千葉市の政令指定都市への移行を記念に、綿打池の畔にハス池及びオオガハスを観賞するための木道が、平成5年に整備された。その後、千葉市の花である「オオガハス」がより多くの市民に親しまれるよう展示資料館として平成6年に蓮華亭を建設した。		

綿打池(千葉公園)[2/2]

施設の形態的特徴

- 「綿打池」：昭和27年（1952年）にボート場を整備。面積13,800㎡の池で、周囲は600mの周回コースとなっている。池の畔にハス池（900㎡）、中央付近には中島が整備され、池面には様々な水鳥が浮かぶなど、公園に憩いと安らぎの空間として、来園者に親しまれている。
- 「オオガハス」：花弁数は14～24枚、花径は15～28cm、一重咲きで花色は淡紅色。極早咲き性のハス。
- 「蓮華亭」：綿打池に隣接したハス池の水際に平成6年に建設された。屋根は二枚のハスの葉をかぶせたようなデザインで、周辺の樹木に溶け込むように配慮されている。また、円形の広間には、オオガハスに関するパネルなどを展示している。デッキテラスからは、ハス池が一望できるように木道を設けてある。

市民とのかかわりや施設利用の特徴等

千葉公園の綿打池をボート池として昭和27年（1952年）にオープンして以来、市内唯一のボートに乗れる池として来園者に親しまれている。また、昭和31年（1956年）には、当初整備されていたハス池（千葉公園の荒木山展望台の横に整備されていた）の畔で古代ハスをめぐる風流人の集いとして「千葉はすの会」が開催され、平成12年（2000年）まで毎年開催された。平成28年（2016年）には、千葉市と市民団体が共催し、オオガハス開花の時期に合わせた「大賀ハスマつり」を綿打池の畔の現ハス池及び蓮華亭周辺で開催し、以降毎年開催されている。平成30年（2018年）からは、同場所を中心に、「夜間の経済・文化活動の振興(ナイトタイムエコノミー)」に繋がる千葉公園の活性化を目的に、夜のアートフェス「YohaS」を開催している。「YohaS」では、オオガハスをテーマにしたダンスや音楽パフォーマンスなどが行われており、毎年多くの来園者でにぎわいを見せている。

今後は、千葉公園の再整備の一環として、綿打池の護岸整備やハス池周辺の園路の拡幅等、安全性・親水性の向上などのさらなる魅力の向上に向けた取組を進めている。

【施設写真】



綿打池の全景
(昭和33年（1958年）頃)



綿打池・蓮華亭の全景（現在）



ハス池で開花したオオガハスと蓮華亭



「YohaS」にてライトアップされた綿打池・蓮華亭
※ナイトタイムエコノミー・千葉公園の活性化を目的に開催

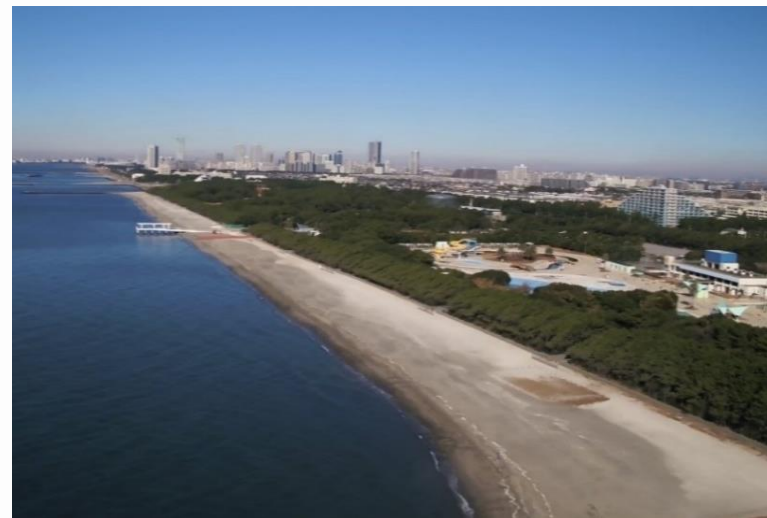
いなげの浜・磯の松原(稲毛海浜公園) [1/2]

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：市民と海の親しみの場		
施設の所在地	千葉県千葉市美浜区高浜7丁目2	施設設置年月日	「いなげの浜」昭和51年（1976年）4月26日（開浜式） 「磯の松原」昭和56年（1981年）2月22日、3月1日
施設整備の経緯	千葉市稲毛海岸一帯は東京湾の最奥部に位置し、古くから遠浅の海として親しまれ、かつては内湾漁業、潮干狩り・海水浴等の観光地として栄えた場所であった。しかし、昭和30年代に入り、工業・住宅用地の開発を目的に臨海部の埋め立てを進めたことにより市域の17kmにも及ぶ美しい海岸線は残らずその姿を失い、直立式の防波護岸が連なり、市民と海との親しみの場は失われてしまった。 急激な都市化が進んだ本市においては、市民の生活に潤いと安らぎをもたらすため、自然環境の保全と創造の要求が高まり、それが本格的に自然の海をよみがえらせるきっかけとなった。古き良き時代の市民の触れ合いの場としての海を求め、海と市民との接点の必要性を感じた本市は、海岸線沿いに大規模な公園の計画を検討することとなった。これに対し市民からは、海浜に関連した健全で明るい海浜公園の計画の要望等、多くの意見が出された。企画立案段階では、「失われた旧稲毛海岸の復元化」の提案が含まれており、これらの経緯を得て本施設が計画された。 当時、新たにレクリエーションのための砂浜を造成する「人工海浜」は、海外ではモナコのモンカルロ・ラルポット海岸の事例があったが、国内では例がなかった。本計画は従来全国的に実施されていた浸食防止のための養浜工事を一步進めたもので、海中を埋め立て、新たに砂浜を造成するものであり、技術的にも画期的な国初の試みとして注目を集めた。昭和51年(1976年)の「いなげの浜」供用開始から1年の間に約90万人もの利用客を記録し、その後も多くの人が利用している。 また、人工海浜の造成後も、かつて白砂青松とうたわれた稲毛海岸の原風景を再現するため、昭和56年（1981年）に黒松の苗木を6,000人の市民参加により、いなげの浜に植樹した。これにより「磯の松原」が完成し、現在では「日本の白砂青松100選」に認定されている。		
施設の形態的特徴	「いなげの浜」：延長は約1,200m、満潮時でも岸から波打ち際まで約50mの規模を持つ浜辺。隣接する検見川の浜と幕張の浜を加えた総延長は4,320 m に達し、人工海浜としては日本一の長さを誇る。 「磯の松原」：「いなげの浜」に長さ1,200m・幅15mの植栽帯を造成し、昭和56年（1981年）に市民参加により60,000本の松苗（黒松）を植え、かつての白砂青松のような原風景を彷彿とさせるような景色が広がる。現在では樹高5～8m以上に成長している。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	「いなげの浜」は、夏には隣接する大型レジャープールと連結した海水浴場を開設している。また、稲毛海浜公園のリニューアル事業の一環として整備された海へ延びるウッドデッキには、デッキ中央にスロープを設けており、車椅子の方も利用可能な施設として、様々な来場者に利用されている。本施設は、昭和51年の供用開始より、魅力ある海洋レクリエーションゾーンとして、千葉市民・県民のみならず、東京をはじめとする近県の方々にも利用されている。 「磯の松原」は、かつて白砂青松とうたわれ、多くの人々にぎわった稲毛海岸の原風景を再現するため、昭和56年（1981年）に市制施行60周年の記念事業として、一般公募により6,000人の参加者を募集し、60,000本の松の苗木が稲毛海浜公園に植えられ、昭和62年（1987年）には「日本の白砂青松100選」（社団法人日本の松の緑を守る会）に選ばれた。 また、現在では官民連携による稲毛海浜公園のリニューアル事業の一環として「白い砂浜」や「海へ延びるウッドデッキ」等を整備し、さらなるイメージアップ等に向け取組を進めている。		

いなげの浜・磯の松原(稲毛海浜公園) [2/2]



潮干狩りの様子（大正～昭和初期）



現在のいなげの浜・磯の松原の全景



現在のいなげの浜（白い砂浜）・磯の松原



現在の磯の松原

風車(ふなばしアンデルセン公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国際交流に係る公園施設		
施設の所在地	千葉県船橋市金堀町525番ほか	施設設置年月日	平成8年（1996年）10月1日
施設整備の経緯	姉妹都市であるデンマーク・オーデンセ市で生まれたアンデルセンの童話の精神を生かした公園として整備されたアンデルセン公園に、友好の証として風車を建設。		
施設の形態的特徴	姉妹都市であるデンマーク・オーデンセ市のフン野外博物館に現存する1800年代に建設された風車を手本に建設され、建物の壁や風車の羽根の材料などデンマークより取り寄せ、デンマークの風車職人によって現地と同じ工法で再現。 ・構造・規模：地上4階建、RC壁式構造 高さ 16.45m 羽根の直径 22.6m		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	アンデルセン公園のシンボルとして、メルヘンの丘の中央部にあり、1階はデンマーク風車に関する資料をパネルで展示。さらに本風車の断面模型（デンマーク風車職人製作）も展示し、常時展示物を自由に観賞できるようにしている。		

【施設写真】



自然観察舎、自然生態園(21世紀の森と広場)

登録基準

2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設

施策名称：環境ふれあい公園事業

施設の所在地

千葉県松戸市千駄堀336-2番地

施設設置年月日

平成6年（1994年）10月9日

施設整備の経緯

本施設が立地する「21世紀の森と広場」は本市中央部の千駄堀地区に位置し、昭和30年代以降の高度経済成長期における急速な市街化を踏まえ、残された自然を守り育てる「自然尊重型都市公園」として昭和56年（1981年）に都市計画決定され、平成5年（1993年）に開園した約50haの総合公園で令和4年度は約70万人が来園した。有識者の意見を踏まえ、樹林地や水面、湿地などについて保全と活用の区分を明快にするとともに、自然観察舎等の配置についても自然生態園との一体利用が図れるように見直しを実施した。平成6年（1994年）、自然観察舎、湿地観察路、水鳥の池などで構成された自然生態観察園としてオープンした。

施設の形態的特徴

鉄筋コンクリート造平屋建て約300㎡の自然観察舎は、千駄堀の原風景が残されている公園北部の自然生態園(約6ha)内に建設され、千駄堀に生息する野鳥、小動物や湿地の植物を観察し、自然とのふれあいを通じて生態系の仕組みや人と自然との関わりについて指導・解説できるよう、180度ガラス張りの観察ホールから自然生態園と千駄堀池が一望できる造りとなっている。また、自然生態園は、千駄堀の谷津田の湿地や既存の樹林地をそのまま残した自然豊かな場所となっており、自然の静寂を感じることが出来る。

市民とのかかわりや施設利用の特徴等

令和4年度（2022年度）実績で年間約2万5千人が利用している自然観察舎「相談コーナー」では、野草や野鳥、昆虫の専門職員である「自然解説員」(土・日・祝日)を配置し、利用者からの野草、野鳥、昆虫などに関する質問に対し分かりやすく解説している。また、人の立ち入りを制限している自然生態園では、自然解説員と一緒に木道を歩きながら観察する「湿地の観察会」を年間で約320回開催している。

【施設写真】



スポーツ施設【総合競技場、庭球場、野球場】（千葉県立柏の葉公園）

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施策名称：健康・運動施設整備		
施設の所在地	千葉県柏市柏の葉4-1	施設設置年月日	平成2年（1990年）7月20日
施設整備の経緯	柏の葉公園は東葛地域（千葉県の北西部）のほぼ中央にあり、都市生活に潤いと安らぎを与える場として、「健康・文化・みどり」をテーマに、旧米軍通信所跡地の土地区画整理事業により誕生した面積約45ヘクタールの広域公園である。昭和60年（1985年）に都市計画決定を行い、昭和61年（1986年）に「天皇陛下御在位60年記念健康運動公園」に指定された後事業に着手し、平成2年（1990年）から開園している。スポーツ施設についても順次整備された。		
施設の形態的特徴	総合競技場：施設面積11,678.8㎡ 庭球場：砂入り人工芝コート8面、クラブハウス、練習用コート、芝生観覧席 野球場：施設面積2,596.5㎡		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	公園全体の利用者としては約150万人（令和4年度（2022年度））であり、多くの方々に利用されている。コミュニティ体育館は約7万人（令和4年度（2022年度））に利用されており、スポーツだけでなく、文化サークル活動にも利用されている。総合競技場については、約12万人（令和4年度（2022年度））に利用されており、その他高校サッカーやラグビーリーグワンの試合に利用されている。庭球場については、約3万人（令和4年度（2022年度））に利用されており、また、平成22年（2010年）にはゆめ半島ちば国体でも使用されている。野球場については、約5万人に利用されており、その他プロ野球の試合にも利用されている。		

【施設写真】

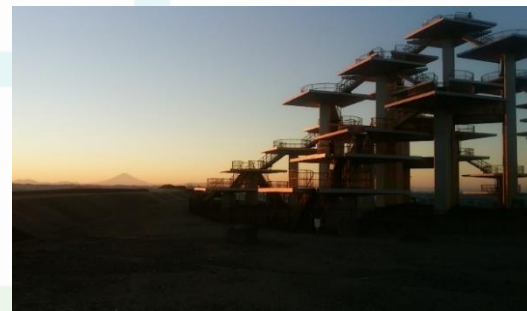


出典：国土地理院ウェブサイト
<https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>

明治百年記念展望塔(千葉県立富津公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：明治百年記念森林公園		
施設の所在地	千葉県富津市富津2342-13	施設設置年月日	昭和45年（1970年）3月31日
施設整備の経緯	富津公園は、戦後、軍用地であった大部分を国から県が払い下げを受け、昭和26年に都市計画決定し、明治百年記念公園として国（旧建設省）の指定を受け、昭和41年に県内初の広域公園として開設された。展望塔は明治百年記念公園の指定に伴い、記念展望塔として建設された。		
施設の形態的特徴	【特徴】 富津岬の最先端にあり、五葉松をかたどった展望塔で、立体迷路のような形。 【構造】 フロアー数36枚（7m×7m）、最上階高21.8m。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	眺望が良く、東京湾や対岸の景色、房総丘陵を一望できるパノラマビューを楽しめる。 明治から大正まで首都防衛のために造られた第一海堡（だいいちかいほう）・第二海堡（だいにかいほう）や、空気の澄んだ日には富士山をくっきりと観ることができ、夕景も人気の場所。		

【施設写真】



蓮沼ウォーターガーデン(千葉県立蓮沼海浜公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：レクリエーション都市構想		
施設の所在地	千葉県山武市蓮沼木368-1	施設設置年月日	昭和50年（1975年）7月1日
施設整備の経緯	蓮沼海浜公園は、国の「レクリエーション都市構想」に基づき計画された。新全国総合開発計画（昭和44年閣議決定）の一環として、大都市圏その他の都市圏から生じるレクリエーション需要を充足するため、選択制に富んだレクリエーション施設を官民一体となって整備しようとしたものであり、昭和45年（1970年）12月に建設省によって決定された「レクリエーション都市整備要綱」に基づき整備が進められ、昭和50年に開園され、現在に至っている。		
施設の形態的特徴	蓮沼ウォーターガーデンは、千葉県内最大級の屋外プールであり、緑豊かな環境の中に、「みずうみ」から「溪流」、「早瀬」などのプールが流水でつながれ、行き着く先は「うみ」という「水の一生」を表現した庭園の雰囲気をもつプールガーデンとなっている。 敷地面積：61,000㎡ プール面積：12,410㎡		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	大小さまざまなプール・アトラクションが19種類そろっており、九十九里浜と隣接しているので、プールと海を行き来しながら1日たっぷり遊ぶことができる。子どもから大人まで楽しめるようになっており、千葉県民をはじめ、県外からも多くの利用者が訪れている。		

【施設写真】



関東大震災の教訓を活かして整備され、震災復興のシンボルであり、後の都市公園や児童公園のモデルとなった復興小公園において現存する施設群 [1/3]
(江東区立川南公園、江東区立元加賀公園、文京区立元町公園)

都市公園制度制定150周年
150TH ANNIVERSARY

目次

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設 関東大震災（1923年9月1日）では、公園緑地や広場が焼け止まりとして機能し、公園設置の重要性が高まった。東京市はこれを踏まえ、震災の焼失区域において、震災復興公園として52か所の小公園を整備した。小公園は、不燃化・耐震化された鉄筋コンクリート造の小学校に隣接して整備され、近隣住民の憩いの場や地域コミュニティの中心、地域における防災拠点や学校教材園など様々な役割を担ってきた。帝都復興計画によって計画的に設置されたこれら小公園は、震災復興のシンボルであり、後の都市公園や児童公園のモデルともなっており、現在も49か所が都市公園として利用されている。 東京都は、①関東大震災 100 年を契機としたムーブメントの展開として、関係区による復興小公園の再生を後押しする、②当時の思想などを踏まえ、防災機能の拡充や地域コミュニティの交流・憩いの場等として公園を再生する、③復興小公園の再生を通じて、あらゆる世代に対する防災意識の啓発につなげるとともに、都市の魅力の更なる向上を図り、人に優しくゆとりある空間を創出する、等の取組を行うこととしている。 このような取り組みが進められている中、復興小公園には、現在も往時の姿を残す施設が残存しており、これらの施設は復興小公園を象徴するものであり、震災小公園施設群としてこれを選出する。		
施設の所在地	【川南公園】 東京都江東区千石二丁目9番22号 【元加賀公園】 東京都江東区白河四丁目3番27号 【元町公園】 東京都文京区本郷一丁目1 番	施設設置年月日	【川南公園】 昭和 6 年（1931年）2月11日 【元加賀公園】 昭和 2 年（1927年）8月31日 【元町公園】 昭和 5 年（1930年）1月25日
施設整備の経緯	【川南公園（すべり台）】 関東大震災後に東京市が整備した復興小公園の一つである。江東区内には、川南公園を含め7園が整備されたが当時の遊具が現存している唯一の施設である。 【元加賀公園（壁泉）】 関東大震災後に東京市が整備した復興小公園の一つである。江東区内には、元加賀公園を含め7園が整備されたが当時の壁泉が現存している唯一の施設である。 【元町公園（すべり台、砂場、壁泉、カスケード、鳥のオブジェ、燈籠）】 関東大震災後に東京市が整備した復興小公園の一つである。昭和57（1982）～59（1984）年度に公園整備工事を行い、各施設については表面的な補修を行った。現在、公園の整備工事中であり、令和7年度（2025年度）に開園予定である。		
施設の形態的特徴	【川南公園】 すべり台には、鍍絵（こてえ）と銅板のレリーフが施されている。 【元加賀公園】 園内の西端部に整備されたコンクリート製の壁泉。 【元町公園】 各施設のデザインは、左右対称で曲線を多く用いたデザインとなっている。すべり台及び砂場は、コンクリート躯体に研ぎ出し仕上げ、壁泉及びカスケードは、コンクリート躯体に洗い出し仕上げとなっている。鳥のオブジェの柱部及び燈籠は、洗い出し仕上げの他に大谷石で飾りが施されている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	【川南公園】 平成元年にすべり台の一部修繕を行い、整備当時の形を残しつつ現在も利用することができる。 【元加賀公園】 昭和62年に壁泉の表面的な補修を行い、整備当時の形を残しているが、現在は施設管理上、水は流していない。 【元町公園】 すべり台は、現在の遊具の安全基準に合致しておらず、遊具として利用ができないため、公園整備後はモニュメントとして現在の位置に残す。砂場は、表面的な補修を行い、遊具として利用する。壁泉及びカスケードは、表面補修を行うとともに設備改修を行い、水景施設として供用する。鳥のオブジェ、燈籠は表面補修を行い、修景施設として供用する。		

関東大震災の教訓を活かして整備され、震災復興のシンボルであり、後の都市公園や児童公園のモデルとなった復興小公園において現存する施設群 [2/3]

(江東区立川南公園、江東区立元加賀公園、文京区立元町公園)

【復興小公園】

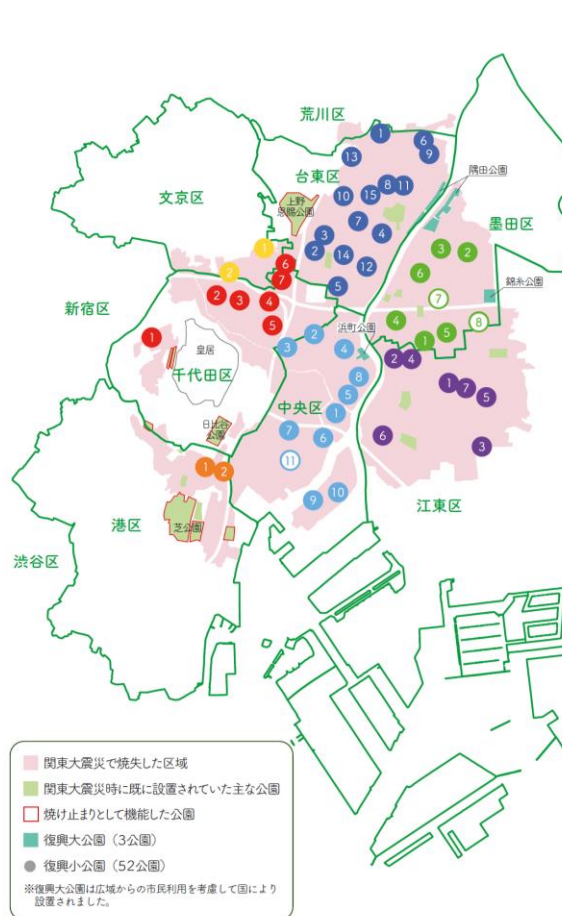
関東大震災（1923年9月1日）では、火災が鎮火した要因の一つに公園緑地や広場が焼け止まりとして機能したことがわかり、公園設置の重要性が高まりました。東京市はこれを踏まえ、震災の焼失区域において、震災復興公園として52か所の小公園を整備しました。小公園は、小学校に隣接して整備され、近隣住民の憩いの場や地域コミュニティの中心、地域における防災拠点のほか、校庭の延長や教材園などとしての役割を担ってきました。また、震災復興のシンボルとなるとともに、後の都市公園や児童公園のモデルとなりました。（パンフレット「復興小公園の再生」より抜粋）



復興小公園の再生

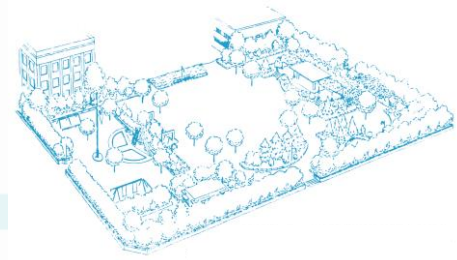


関東大震災100年
数々の災害を乗り越えてきた東京
復興小公園の再生

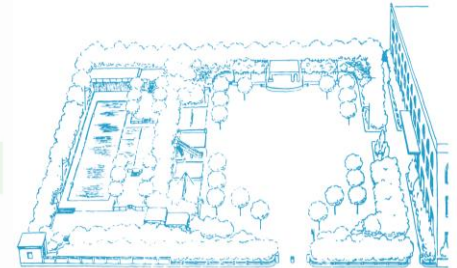


関東大震災で焼失した区域
関東大震災時に既に設置されていた主な公園
焼け止まりとして機能した公園
復興大公園（3公園）
復興小公園（52公園）
※復興大公園は広域からの市民利用を考慮して国により設置されました。

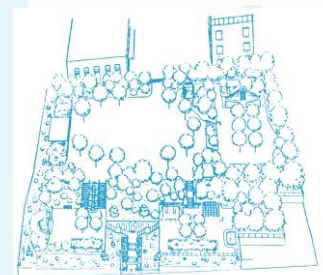
- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 千代田区 | 台東区 |
| 1 東郷元帥記念公園
(旧 上六公園) | 1 東盛公園 |
| 2 西神田公園
(旧 西小川公園) | 2 御徒町公園 |
| 3 錦華公園 | 3 西町公園 |
| 4 永路公園 | 4 田原公園 |
| 5 神田児童公園
(旧 神田公園) | 5 柳北公園 |
| 6 練成公園 | 6 玉坂公園 |
| 7 方林公園 | 7 松葉公園 |
| 中央区 | 8 千束公園 |
| 1 越前橋児童公園
(旧 越前橋公園) | 9 石浜公園 |
| 2 十思公園 | 10 山伏公園 |
| 3 常盤公園 | 11 富士公園 |
| 4 久松児童公園
(旧 久松公園) | 12 精華公園 |
| 5 箱崎公園 | 13 金杉公園 |
| 6 鉄砲洲児童公園
(旧 鐵砲洲公園) | 14 小島公園
(旧 入谷公園) |
| 7 京橋公園 | 15 金竜公園 |
| 8 蛸塚町公園 | 墨田区 |
| 9 月島第二児童公園
(旧 月島第二公園) | 1 中和公園 |
| 10 月島第一児童公園
(旧 月島第一公園) | 2 東平公園 |
| 11 築地公園
(1977年廃止) | 3 横川公園 |
| 港区 | 4 両国公園 |
| 1 南桜公園 | 5 新小島公園
(旧 江東公園) |
| 2 桜田公園 | 6 若宮公園 |
| 文京区 | 7 永倉公園
(1971年廃止) |
| 1 新花公園 | 8 茅場公園
(1948年廃止) |
| 2 元町公園 | 江東区 |
| | 1 元加賀公園 |
| | 2 八名川公園 |
| | 3 東海公園 |
| | 4 森下公園 |
| | 5 川南公園 |
| | 6 臨海公園 |
| | 7 扇橋公園 |



開発当初の公園鳥瞰図（南桜公園）



開発当初の公園鳥瞰図（上六公園）



開発当初の公園鳥瞰図（元町公園）

復興小公園位置図
(パンフレット「復興小公園の再生」より抜粋)

出典：パンフレット「復興小公園の再生」

関東大震災の教訓を活かして整備され、震災復興のシンボルであり、後の都市公園や児童公園のモデルとなった復興小公園において現存する施設群 [3/3]

(江東区立川南公園、江東区立元加賀公園、文京区立元町公園)



川南公園



すべり台 (川南公園)



元加賀公園



壁泉 (元加賀公園)



元町公園



すべり台 (元町公園)



砂場 (元町公園)



壁泉 (元町公園)



カスケード (元町公園)



鳥のオブジェ (元町公園)

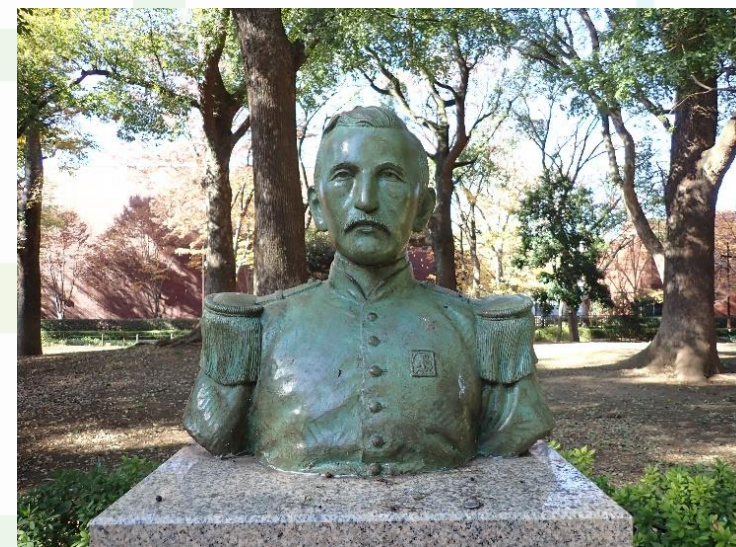


燈籠 (元町公園)

ボードワン博士像(都立上野恩賜公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	太政官布達第16号		
施設の所在地	東京都台東区上野公園	施設設置年月日	昭和48年（1973年）10月5日
施設整備の経緯	ボードワン博士は徳川幕府以来明治政府においても教師をしていたオランダ陸軍一等軍医で、新しい大学病院が建設中だった上野の竹の台を視察した際、このような景勝の地は将来の公園として東京に必要であると政府（太政官）に意見を申し述べたと言われている。太政官布達第16号により誕生した東京で初めての公園となる上野公園の生みの親ともいえる人物であり、昭和48年（1973年）に上野公園の開園100周年を記念して竹の台広場横に顕彰碑が建立された。		
施設の形態的特徴	ボードワン博士の胸像と、台座にはその提言により上野公園誕生につながった博士の功績が説明されている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	ボードワン博士の視察地であった竹の台広場横の樹林内に設置されており、博士の功績を今に伝えている。		

【施設写真】



石の山(台東区立入谷南公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：【児童の遊び】プレイスカulptチャー		
施設の所在地	東京都台東区松が谷三丁目23番7号	施設設置年月日	昭和30年（1955年）3月1日（開園年月日）
施設整備の経緯	昭和30年代、人口の急増や車社会の到来により、都市では子どもが活動できる広場や緑のオープンスペースが失われてきた。そうした社会情勢を受けて、時代に合うような遊び場の研究が進められ、池原謙一郎・北村信正らの若手ランドスケープ（造園）技術者の手により、新しい子供の遊び場として考えられ入谷町南公園（現：入谷南公園）がつけられた。通常よりも長いすべり台やトンネルのある緑の山、お椀を伏せた形の石の山など、新しい趣向を凝らした斬新なデザインとレイアウトがあり、子供たちの人気を博し、これは「入谷町南公園スタイル」として、全国の公園づくりの手本となった。		
施設の形態的特徴	高さ2m、直径8.6～11mほど（上から見ると楕円形） おわんを伏せた形 人研ぎのコンクリート遊具		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	平日・休日ともに多くの子供たちで賑わう公園であり、石の山は人気がある遊具の一つである。石の山は、足掛け金具やロープなどを使って山の上に登れるようになっており、山の上からはすべり台のように滑り下りて遊ぶことができる。複数の遊び要素があり、子供の成長に合わせて遊び方を選択できるため、幼児から自動まで楽しむことができる遊具である。当時と比べてコンクリート製遊具が見られる公園が少なくなったものの、石の山は改修や修繕を重ねながら現在まで継承されており、現在も入谷南公園の象徴のような存在となっている。		

【施設写真】



防災拠点となる広場（国営東京臨海広域防災公園）

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	国営公園制度		
施設の所在地	東京都江東区有明3丁目8番35号	施設設置年月日	平成22年（2010年）
施設整備の経緯	国営東京臨海広域防災公園は、首都圏で大規模な地震災害等が発生したときに公園全体が広域的な指令機能を受け持つ緊急災害現地対策本部となり、災害応急対策の調整等を迅速かつ的確に実施する拠点になります。平常時にはヘリポートや広場等を活用し防災に関する訓練・学習・情報発信などの機能を有する基幹的な広域防災拠点として運営を行っています。		
施設の形態的特徴	・ヘリポート（約2.6ha）：大型ヘリコプターの離発着に対応できる面積約2.6haのヘリポートです。7機分の駐機場も併設され、平常時は各種防災訓練等の場として利用されています。 ・多目的広場・草地広場（約2.5ha）：発災時には、広域支援部隊等のベースキャンプ等の場となり、一般の方の立ち入りが制限されます。平常時は各種防災訓練の場や来園者の憩いの場として利用されています。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	国営東京臨海広域防災公園の広場では防災訓練等の場として下記のような訓練等を実施しています。 ・首都直下地震を想定した大規模道路啓開訓練及び通信訓練などの各種防災訓練 ・関東各地の災害派遣医療チーム（DMAT）の連携訓練、自衛隊機と自治体による支援物資輸送を想定した連携訓練の実施 ・東京消防庁他9県消防隊による消防ヘリ空中消火装置への消火用水補給を目的とした訓練及び緊急消防援助隊による大規模災害を想定した野営訓練の実施		

【施設写真】



西六郷公園【タイヤ公園】(大田区立西六郷公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：児童の遊び場		
施設の所在地	東京都大田区西六郷一丁目6番1号	施設設置年月日	昭和44年（1969年）3月31日
施設整備の経緯	当初大田区では、大田区萩中三丁目に萩中公園を開園した。その後、萩中公園内に子供たちの創造性をのばすべく、実際の乗り物・機械などの廃物を集めたガラクタ公園を造成した。その際、園内に置かれた古タイヤは子供たちの格好の遊び道具となった。そこに着目した大田区は、もっと広い場所でタイヤ主体の公園をつくることを考え、西六郷公園が造成された。		
施設の形態的特徴	「タイヤ公園」の名で親しまれている公園である。園内入口には四季折々の花が咲く花壇があり、タイヤを埋め込んで仕切られた大小2つの円形広場には、タイヤを利用した怪獣やロボット・ロケットなどのモニュメントやたくさんのタイヤ遊具がある。怪獣に似せたモニュメントは、大きいものは足から頭までの高さが約8m、頭からしっぽまでの長さが約20mもあり、子供たちに大人気である。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	開設当初は、日本全国からだけでなく海外でも紹介され、平日・休日を問わず、多くの子どもたちがタイヤと戯れ夢中になって遊ぶ姿や花も楽しめる憩いの場として地域に根付いた魅力ある公園である。		

【施設写真】



羽根木プレーパーク(世田谷区立羽根木公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	市民と行政がパートナーシップで運営するプレーパークは、市民が事業の立ち上げから積極的にかかわり、遊び空間の整備運営に参加する注目すべき事象である。プレーパークは、その後、全国的な広がりを見せた。1979年に開設された羽根木プレーパークは、その全国初の取り組みであり、これを選出する。		
施設の所在地	東京都世田谷区代田4-38-52 羽根木公園内	施設設置年月日	昭和54年（1979年）7月
施設整備の経緯	プレーパークの前身は、子どもの遊ぶ環境に疑問を抱いたご夫妻による「子どもが自由に遊べる」遊び場づくりである。世田谷区は、この活動の実績を踏まえて昭和54年（1979年）国際児童年の記念事業として、冒険遊び場事業を採択。地域住民と共に区立羽根木公園の一角にプレーパークを開設した。その後事業の継続が決定し、日本で初の常設のプレーパークが開設された。		
施設の形態的特徴	プレーパーク利用区域 約3,000㎡		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	プレーパークは、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーにした遊び場で、普通の公園ではなかなかできない火や泥遊び、木登り等ができる世田谷区と地域住民との協働事業。運営は、地域住民でもある世話人とNPO法人職員のプレーワーカーとで行っている。世話人と呼ばれる地域住民がいることで、地域の中で子どもの育ちを見守っている。土日、祝日には区外からの利用者も多く、1日を通して賑わう遊び場である。		

【施設写真】



住民からの寄付を活用して整備した
リーダーハウス



夏の代表的な遊び
ウォータースライダー

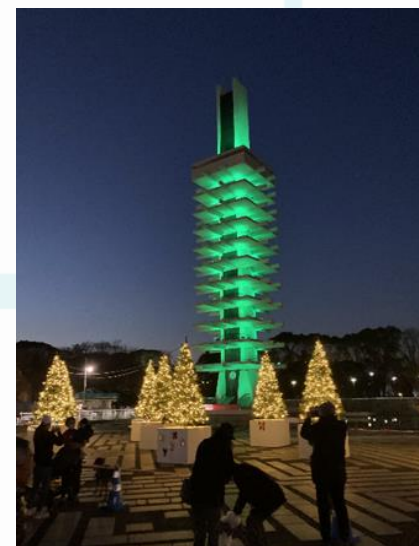
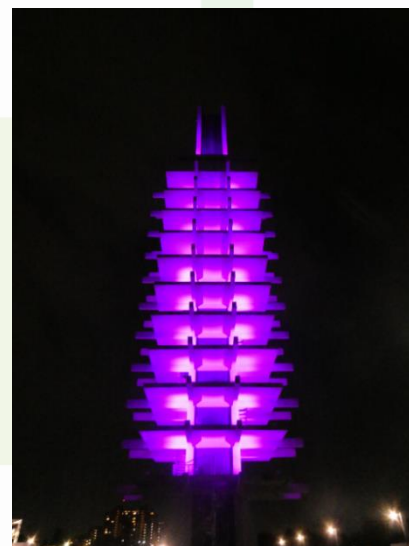


遊びの様子

駒沢オリンピック公園管制塔(都立駒沢オリンピック公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	東京都世田谷区駒沢公園1-1	施設設置年月日	昭和39年（1964年）10月5日
施設整備の経緯	駒沢オリンピック公園は、昭和34年（1959年）6月に第18回オリンピック大会の東京開催が決定された後、第二会場として整備が行われた。本施設は、電気、電話、給水塔の設備機能を集中させ、公園の管理を経済的かつ合理的に実施できるようにするとともに、公園の中央広場の焦点・シンボルとして、オリンピック開催を記念するために整備された。		
施設の形態的特徴	高さは50mで、塔の周囲には、50m×36mの池があり、塔は池からそびえているように見える。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	ライトアップが実施されており、夜の公園をロマンチックなムードに包んでいる。		

【施設写真】



タコ遊具(足立区立新西新井公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：児童の遊び場		
施設の所在地	東京都足立区西新井五丁目17番1号	施設設置年月日	昭和40年（1965年）
施設整備の経緯	本遊具は当初、コンクリートすべり台として設計されていたが、区職員からの提案でタコのように頭をつけて現在の形になった。本公園にあるタコ遊具が全国で第一号ではないかと言われている。		
施設の形態的特徴	タコを模した形状で作成したコンクリート製遊具。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	登り口や降り口が複数あるので、複数のこどもが遊ぶことができ、人気の遊具となっている。塗装の際にはデザインを公募することもある。		

【施設写真】



みんなの原っぱ(国営昭和記念公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	国営公園制度		
施設の所在地	東京都立川市緑町3173	施設設置年月日	昭和58年（1983年）
施設整備の経緯	国営昭和記念公園は、昭和天皇御在位50年記念事業の一環として米軍の立川飛行場跡地につくられた公園です。昭和52年（1977年）に米軍基地が日本に全面返還され、昭和54年（1979年）には国営昭和記念公園の設置を閣議決定、その後4年の時を経て開園しました。 当時、設計担当者には「端から端まで見通せないほど大きく、ここにしかないような原っぱをつくりたい」という思いと、基地跡地（当時の昭和記念公園予定地）の現地調査中に見つけた樹勢の良いケヤキを見て考えられた「この大ケヤキを中心にした原っぱをつくろう」との構想がありました。工事着手から約4年の時を経て、米軍基地跡地にはケヤキを中心とした広大な芝生広場が整備されました。「大人も子供も自由に中に入り大地をふんで遊べる原っぱに」との願いを込めて、『みんなの原っぱ』と名付けられました。		
施設の形態的特徴	- 南北約400m、東西約300m、約11haの広大な芝生広場。 - 中央には、基地時代からこの場所に生育している、シンボルツリーの大ケヤキが植わっている。推定樹齢は約100年で、樹高は20m以上。 - 原っぱ周辺には、基地時代の樹木を移植した桜の園や、季節ごとに楽しめる3つの花畑（東花畑、西花畑、南花畑）を整備。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	原っぱは老若男女問わず多くの人に利用されており、グループ構成についても一人、カップル・ご夫婦、ご家族、学校団体、とさまざまです。 春のフラワーフェスティバル期間中には、みんなの原っぱ花畑に約126万人もの人が来園。その他、広がりのある空間を活かして花火大会やマラソン大会等のイベントを行っています。		

【施設写真】



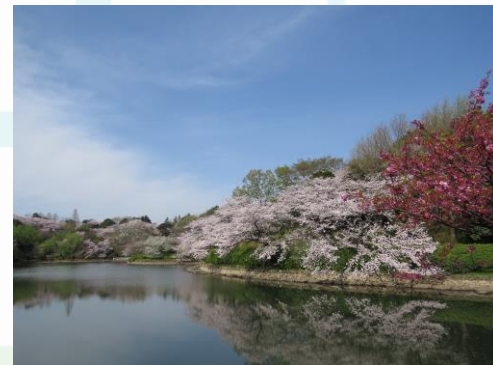
三ツ池と周辺一帯(県立三ツ池公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	東京緑地計画と防空緑地制度		
施設の所在地	神奈川県横浜市鶴見区三ツ池公園ほか	施設設置年月日	昭和32年（1957年）4月9日
施設整備の経緯	本公園は、防空大緑地として昭和16年（1941年）に計画決定され、のちに都市公園として整備されたもの。当該施設は、江戸時代にかんがい用水池として作られた池を保全したもので、開発により多くの池が失われた横浜市内にあって、往時の姿をとどめている。		
施設の形態的特徴	3つの池（上の池、中の池、下の池）		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	古くからの行楽地として親しまれていたため、農地解放時に都市公園として整備されることになった。現在およそ70品種のサクラが初春から晩春まで楽しめる。		

【施設写真】



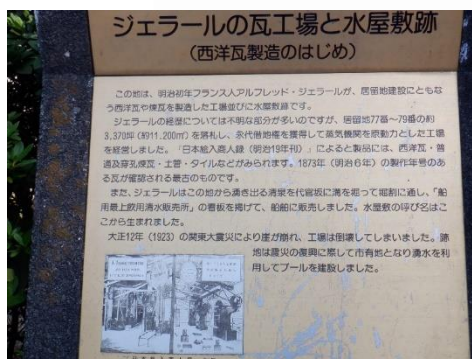
昭和38年（1963年）撮影



元町公園プール(元町公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	関東大震災の震災復興事業		
施設の所在地	神奈川県横浜市中区元町1-77-4	施設設置年月日	昭和5年（1930年）6月1日
施設整備の経緯	明治初期、外国人居留地の山手77番では、フランス人ジェラルが湧水を利用した船舶向けの給水事業や西洋瓦の製造をしており、「ジェラルの水屋敷」と呼ばれていた。震災を機に屋敷の跡地が市有地となった後は、水源を活用したプールの整備が計画され、プールや弓道場を備えた公園として、昭和5年（1930年）に開園した。元町公園のプールは日本初の公認プールで当時「横浜プール」と称され、夜間照明を備えるなど「東洋一」をうたわれていた。		
施設の形態的特徴	50mプール 8レーン、深さ1.2～1.4m		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	現在も公園の中心施設として親しまれ、立地性と手頃な料金などから市民に好評の施設である。		

【施設写真】



横浜プール（現元町プール）
昭和10（1935）年横浜市史資料室所蔵

野毛山動物園(野毛山公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：米軍に接收され、返還に伴い整備された公園		
施設の所在地	神奈川県横浜市西区老松町63-10	施設設置年月日	昭和26年（1951年）4月1日
施設整備の経緯	かつて野毛山一帯は景勝地であり、豪商が別荘を構える高級住宅地であったが、関東大震災後、内務省は公園として整備を始め、大正14年（1925年）に都市計画決定（本市最初の都市計画公園）、翌年に野毛山公園として第一期開園、最も早く開園した震災復興公園となった。昭和16年（1941年）、防空体制が強化され、公園は接收され、高射砲陣地が構築された。戦後は米軍が接收していたが、昭和22年（1947年）、横浜市に返還された。 その後、日本貿易博覧会が横浜市と神奈川県の主催で昭和24年（1949年）に開催され、この時整備された野毛山遊園地（昭和26年（1951年）開園）が野毛山動物園の原形となった。		
施設の形態的特徴	面積3.3ha,70種1,400以上の飼育動物数		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	野毛山動物園のコンセプトは、「誰もが気軽に訪れ、楽しめる動物園であり、小さな子どもがはじめて動物に出会い、ふれあい、命を感じる動物園」である。 入園無料ということもあり、近隣の子供たちも気軽に来園する。また、開園当時子供だった市民が年を重ね、親子3世代で動物園を楽しんでいる風景も見られる。		

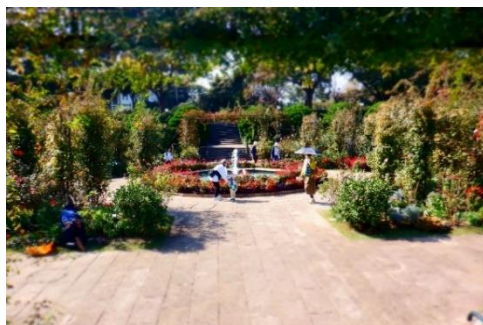
【施設写真】



展望広場と花壇(港の見える丘公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：米軍に接収され、返還に伴い整備された公園		
施設の所在地	神奈川県横浜市中区山手町114	施設設置年月日	昭和37年（1962年）10月25日
施設整備の経緯	山手の丘には戦前、イギリス総領事公邸・フランス領事館およびフランス領事官邸が置かれたが、丘の上一帯の広大な土地の大部分は特に利用されていなかった。戦後は米軍に接収されていたが、接収が解除されると公園用地として横浜市が取得、昭和37年(1962年)、「港の見える丘公園」として開園した。 開園当初より、標高差をいかした展望広場と花壇が整備されていたが、平成3年（1991年）5月には、市の花であるバラの制定記念として、約110種1,300株のバラ園が公開された。平成28年に緑化工事が終わり、今までバラ園であったエリアは「イングリッシュローズの庭」としてリニューアルオープンした。また、沈床花壇は「香りの庭」として、地形を活かしながら四季を通してバラや草花、花木の香りと彩りが楽しめるものとなった。さらにイギリス館と山手111番館の裏手が「バラとカスケードの庭」として整備された。		
施設の形態的特徴	展望広場：半円アーチ L=約50m 軒高=3.08m 屋根：ポリカーボネート 梁：鉄骨+ウレタン塗装 柱：RC造 花壇：イングリッシュローズの庭、香りの庭、バラとカスケードの庭		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	展望広場からは、ベイブリッジや山下ふ頭方面の景色を中心とした港の風景を見渡す事ができ、半円アーチの展望台の屋根は公園のランドマークにもなっている。 「イングリッシュローズの庭」は、横浜でも有数のバラの名所であり、四季を通していろいろなバラや草花が咲き競い合っている。また、「香りの庭」「バラとカスケードの庭」では、地形を活かしながら四季を通してバラや草花、花木の香りと彩りを楽しむことができる。 これらの施設と立地性により、港の見える丘公園は、今日では横浜市の観光スポットの一つとして、多くの来園者が訪れる公園となっている。		

【施設写真】



枳形山、自然林等(生田緑地)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	東京緑地計画と防空緑地制度		
施設の所在地	神奈川県川崎市多摩区枳形7丁目、宮前区初山1丁目他	施設設置年月日	昭和16年（1941年）3月22日
施設整備の経緯	生田緑地は、多摩丘陵の一角、川崎市の北西部に位置し、昭和14年（1939年）に決定された「東京緑地計画」の環境緑地帯（東京駅から半径20km圏内外）として、その後、防空緑地として、昭和16年（1941年）に面積約165.5haが都市計画決定されました。その後の事業化により昭和17年（1942年）から用地買収を始め、昭和39年（1964年）から公園施設の整備を進めています。現在は、拡張した面積約179.7haが都市計画決定されて、そのうち約117.4haを市民に供用し、多摩丘陵の自然と歴史的な遺跡等が残される貴重な財産となっています。都市化の進む川崎市において残された広大な自然の宝庫となっています。		
施設の形態的特徴	標高84mの枳形山をはじめとした起伏にとんだ地形が特色で、緑地内には本来の植生（自然植生）であるシラカシ林等もわずかに残っていますが、人々の生活に関わってきた里山としてクヌギ・コナラの二次林が多く分布しており生物の宝庫となっています。枳形山には鎌倉時代に重臣として活躍した稲毛三郎重成が築いたと伝えられる枳形城跡があり、枳形山広場（7,420㎡）には、360度素晴らしい景色を一望できる展望台があります。このような地形や自然林等（440,554㎡）を活かし、野鳥の森（30,000㎡）、自然探勝路（約2.5km 31,500㎡）などが整備されているほか、豊かな自然を背景として、数々の個性あふれる文化施設が立地しています。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	平成15年（2003年）から市民参加のもと、「生田緑地整備構想」、「生田緑地整備基本計画」、「生田緑地管理計画」を策定しましたが、周辺の宅地化等による自然環境の保全の高まりや、生田緑地を取り巻く状況の変化や背景を踏まえて、緑地の将来像を示す構想として平成23年（2011年）3月に「生田緑地ビジョン」を策定しました。平成25年（2013年）3月に、ビジョンに示す「協働のプラットフォーム」として、多様な主体が管理運営に参加する「生田緑地マネジメント会議」を設立しました。マネジメント会議では、市民団体、町内会・商店街等の地域団体、大学及び行政等が同じ円卓に着いて話し合い緑地の価値と魅力の向上に取り組んでいます。平成25年（2013年）度からは、ビジョンに基づき、緑地及び緑地内3文化施設を横断的に管理運営する指定管理者制度を導入しています。		

【施設写真】



瀋秀園(大師公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国際交流に係る公園施設		
施設の所在地	神奈川県川崎市川崎区大師公園1	施設設置年月日	昭和62年（1987年）9月29日
施設整備の経緯	大師公園は、明治43年（1910年）当時の京浜電気鉄道（株）と川崎大師平間寺が協力し、境内に7,950坪の公園を開設しのがはじまりで、昭和16年（1941年）3月に都市計画決定され、戦後の戦災復興土地区画整理事業等により、公園用地を拡張し、地区公園として整備改修を行い昭和40年（1965年）7月に現在の約8.8haとなりました。昭和61年（1986年）から5か年計画で、都市緑化の推進と公園機能向上を目的に、運動施設や大芝生広場などを再整備がなされた中で、瀋秀園は、昭和62年（1987年）川崎市の姉妹都市である中国の瀋陽市との提携5周年の記念として寄贈され、中国庭園の奥義をきわめた瀋陽市の庭園技術指導団の指導協力のもと建設された自然公園となっております。		
施設の形態的特徴	中国伝統の自然山水庭園で広さは4,300㎡、色鮮やかな建築物、草木による四季の色彩、築山、石、滝など景観の変化を、橋と園路により庭園内を回遊しながら楽しむことができます。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	市民にも親しまれる人気スポットで、最近は、コスプレをした人たちの撮影場所にもなっています。令和4年（2022年）12月には開園35周年の記念イベントを開催しました。川崎大師周辺が多国籍の人が在住している地域ということもあり、瀋秀園内をメイン会場として、川崎出身のレゲエシンガーやJ-POPアーティスト、ジェンベ（アフリカの太鼓）、二胡（中国の弦楽器）演奏など多国籍なパフォーマンスが披露されました。		

【施設写真】



ふれあい動物広場(相模原麻溝公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：動物とのふれあいの場		
施設の所在地	神奈川県相模原市南区麻溝台2317番1	施設設置年月日	平成4年（1992年）3月25日
施設整備の経緯	初代のふれあい動物広場が開園した昭和50年代後半から昭和60年代にかけては、ポニーやモルモットなどの小型動物を取り入れた公園施設が登場し始めた頃で、本公園のふれあい動物広場もこうした時代背景のもと、先駆けとなった施設となっている。さらに本公園が一貫して持っている特徴としては、小動物やポニーとのふれあいを通じ、公園という空間において子どもへの社会教育、体験教育を可能とする、社会的教育施設の一面である。また、施設移転に際しては、身近な動物である牛や豚などの家畜類ともふれあえる要素も取り入れてきた。		
施設の形態的特徴	・小動物とのふれあいコーナーには雨天時で利用できるようドーム式の天蓋が設けられている。 ・小鳥たちのいるゲージは、大型で外から眺めるのではなく、人がゲージに入って見られるつくりになっている。 ・ポニー乗馬は木影で体験できるよう雑木林内に設置してある。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	ポニーの世話をするポニー教室、ふれあいイベントの開催		

【施設写真】



交通遊園施設(根岸公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：交通知識の習得		
施設の所在地	神奈川県横須賀市根岸町3-17	施設設置年月日	昭和46年（1971年）6月
施設整備の経緯	昭和45年（1970年）3月の横須賀市交通安全都市宣言の決議を受けて、昭和46年（1971年）6月に「児童の健全な遊びを通じて、交通知識や交通道德を身につけてもらい、交通安全に役立てる」目的で交通公園として開園した。		
施設の形態的特徴	自転車練習場（信号機36基、道路標識39基、踏切機2基）、三輪車広場、休憩広場、休憩施設		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	子どもたちに自転車やゴーカートの貸出しを行うことで、交通ルールを身につけてもらう一助を担っている。 また、地元警察による交通安全教室の実施や、地元町内会と連携した祭礼も実施しており、地域との関わりは深い。公園内には休憩施設もあり、憩いの場としての機能も果たしている。		

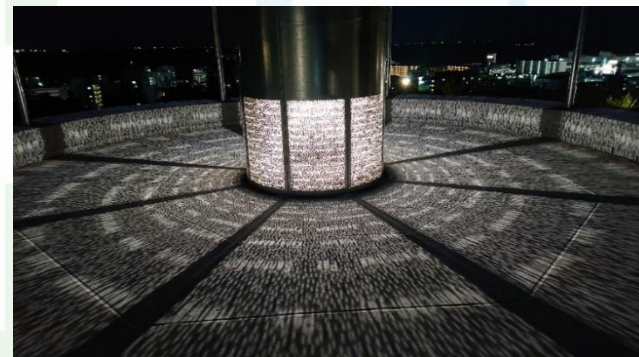
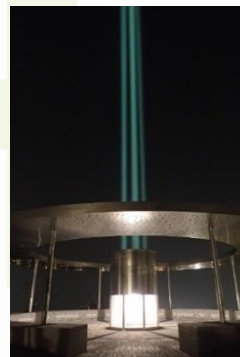
【施設写真】



平和の軸(THE AXIS OF PIECE)(平和中央公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	災害被害等の復興祈念に係る公園施設		
施設の所在地	神奈川県横須賀市深田台19	施設設置年月日	令和3年（2021年）4月
施設整備の経緯	本市では、世界の恒久平和を願い、平成元年（1990年）に「核兵器廃絶・平和都市宣言」を行い、この意思を内外に示すものとして、平和モニュメント“ヘイワ オーキク ナーレ”を中央公園（当時）に建設した。建設から年数を経てこのモニュメントが劣化したため、令和3年（2021年）、ライトを上空に照射する施設を新たな平和モニュメントとして設置した。このライトは、市内各所から見ることで光の彫刻作品であり、旧モニュメントに代わり平和への願いを光に込め、それを見る人々の心に平和への意識を呼び起こし、再認識させるものである。		
施設の形態的特徴	直径10m、高さ2mの円形、ステンレス製 LDPサーチライト6基による上空照射、12の言語の「平和」を意味する言葉の地面の文字照射		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	天井に施された無数の円は、市民がデザインしたものを採用した。 平和に関する日には上空照射を行い、多くの方が平和への祈りを捧げに来園する。		

【施設写真】



自然生態観察公園【アーバン・エコロジー・パーク】(県立座間谷戸山公園)



目次

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施策名称：自然生態観察園（アーバン・エコロジー・パーク）		
施設の所在地	神奈川県座間市入谷東一丁目	施設設置年月日	平成5年（1993年）4月
施設整備の経緯	市街地に残された谷戸の多様な自然環境を保全した公園で、全国初の自然生態観察公園（アーバン・エコロジー・パーク）として整備したもの。		
施設の形態的特徴	谷戸の自然を利用して整備された「自然生態観察公園」で、「谷戸」「山」「田」の三つのゾーンで構成。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	県民参加の管理運営に取り組んでいる公園で、ボランティアによる下草刈りや外来植物の除草など、里山保全活動が行われている。		

【施設写真】



タコ遊具(関分記念公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：児童の遊び場		
施設の所在地	新潟県新潟市中央区関屋2番地44	施設設置年月日	昭和49年（1974年）4月1日
施設整備の経緯	関分記念公園は、昭和47年（1972年）に洪水対策として整備された関屋分水路の通水を記念し、昭和49年（1974年）に市民の憩いの場として整備された公園です。タコ遊具は設置から50年が経過し、令和6年3月にリニューアル予定です。		
施設の形態的特徴	幅9m×10m、高さ約4mのタコの形をしたモルタル製の遊具です。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	タコの形をした大型の滑り台は、いくつにも分かれた滑り台の他、足踏み台やしがみつけるタコの足も伸びており、頭の部分まで登ろうという子どもの挑戦欲をかき立てる、公園を代表とする遊具です。通称「タコ公園」として多くの市民から親しまれています。		

【施設写真】（R5.10撮影）



お城遊具(西海岸公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：児童の遊び場		
施設の所在地	新潟県新潟市中央区西船見町5932番地626	施設設置年月日	昭和44年（1969年）10月1日
施設整備の経緯	昭和42年（1967年）に当市で「開港百年・震災復興記念新潟大博覧会」が開催されました。新潟大博覧会は、日本五港の一つとして開港し、日本海側初となる「特定重要港湾」に指定され、国際港としての期待が高まっていた新潟港と、新潟地震の甚大な被害からの復興を国内外に紹介する機会となりました。新潟大博覧会の跡地には、市営プールや野球場、お城の遊具、碑など多くの公園施設が整備され、昭和51年（1976年）に「西海岸公園」として供用されました。		
施設の形態的特徴	直径約23m、高さ約10mの大きさでお城の形をしており、コンクリート製の遊具です。真ん中に螺旋階段があり、2階へ上がってから滑るすべり台が4つあります。3階は展望台ようになっており、日本海や西海岸公園の松林を眺めることができます。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	西海岸公園は、日本海沿い約5kmに渡って広がる約38万本の黒松林を取込んだ56.5haの広大な公園で、新潟の市街地を飛砂から守る防風林帯としての機能があります。公園周辺には水族館や海水浴場、プールなどのレジャー施設が立地するほか、サイクリングロードや散策路が整備されており、園内に点在する石碑や史跡などを見て回ることができます。数多くの施設がある中でも特にお城遊具は、子供たちに大人気で、西海岸公園を代表とする施設です。集合場所やイベント会場の一部としても利用され、多くの市民に親しまれています。		

【施設写真】



カナル(新潟県立鳥屋野潟公園 新潟県スポーツ公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	新潟県新潟市中央区清五郎33-1	施設設置年月日	平成10年（1998年）11月13日
施設整備の経緯	本施設は県立鳥屋野潟公園の中でも特に親水性に優れた施設であり、平成10年（1998年）の「第15回全国都市緑化にいがたフェア にいがた緑のものがたり'98」の会場とするべくいち早く整備を行った施設です。 全国都市緑化にいがたフェアは新潟県、新潟市、新津市（現：新潟市）、(財)都市緑化基金が主催となり実施され、県立鳥屋野潟公園はその新潟会場となりました。カナルは公園の中心に位置し、緑化フェアの際は水上花壇や法面が花壇として使用されました。		
施設の形態的特徴	新潟市に位置する鳥屋野潟は都市部の緑地および県民の憩いの場として親しまれております。カナルはその鳥屋野潟に向かって長さ約400m、幅約30mの運河です。 カナルには3本の橋が架かっており、最も大きいRC橋からは鳥屋野潟を通して新潟市街地が望めます。最下流は水門橋となっており、鳥屋野潟と隔てることによって、水位と水面を安定させています。また、1本は浮棧橋となっており、用途に合わせてカナルの中を移動させることができます。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	カナルは両岸がベンチ構造となっていることから、日頃より公園を訪れた方がベンチに座りカナルの水辺を楽しんでいます。 毎年4月には官民連携イベントの「にいがたカナル彩」が開催されます。特に浮棧橋をステージにしたダンスや音楽などの企画は、両岸のベンチを観客席としたライブ会場のような雰囲気になります。またカヌー試乗会も開催され、カナル全体を活用した人気のイベントとなっています。 その他、隣接するスタジアムでは年間を通してリーグが開催されるなど、カナルを中心に公園全体で多くの催し物が開催され、多くの人々で賑わいます。		

【施設写真】



ながおか香りのばら園(国営越後丘陵公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	国営公園制度		
施設の所在地	新潟県長岡市宮本東方町字三ツ又1950-1	施設設置年月日	平成15年（2003年）5月24日
施設整備の経緯	長岡市内の愛好家が無償で一般に公開していたバラ園が平成13年（2001年）に閉鎖されることとなり、存続を望む市民の要望を受けた長岡市の仲介により、本公園が900株にも及ぶバラの寄贈を受け、平成15年（2003年）春に開園。		
施設の形態的特徴	敷地面積：約2.4ha 植栽数：約800品種2,400株 世界で初めてばらの香りを7分類別に植栽したバラ園。 香りに特化した、国際香りのばら新品種コンクールを毎年行っている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	ばらの寄贈を受けた後、平成13年（2001年）10月にばらボランティアを設立し、年間をととして、ばらの剪定などのボランティアを実施している。 毎年2回（R5年度（2023年度）は、5/27～6/18、10/7～10/29）香りのばらまつりを開催し、例年、大いに盛り上がっている。 香りのばらまつり期間には、ガーデンツアーやばら栽培講習会、ローズウェディング等を開催し、市民にとどまらず、全国から来園者がくる。		

【施設写真】



ながおか香りのばら園



香りのばらまつり



ローズウェディングの様子



ばらボランティア 花がら摘みの様子

多目的運動広場、散策道（新潟県立紫雲寺記念公園）

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施策名称：健康・運動公園整備事業		
施設の所在地	新潟県新発田市藤塚浜299	施設設置年月日	平成2年（1990年）5月1日 （事業着手昭和63年（1988年）2月10日）
施設整備の経緯	紫雲寺記念公園は、健康・運動公園整備事業により整備されました。新たな時代の活力の源となる国民の健康の維持増進等を図るため、昭和天皇の御在位60年を記念し、健康づくりのさきがけとして計画されました。 その中で多目的運動広場は運動を通して県民の健康増進と交流を図る場として、散策道は海辺での森林浴や散策を楽しむ海辺の自然を知る場として、整備されました。		
施設の形態的特徴	多目的運動広場：9,300㎡ テニスコート：2面 チューリップ広場：17,400㎡ 散策道：延長約900m		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	多目的運動広場については、サッカー・ラグビーなど多種多様なスポーツができ、運動を通して健康づくりができるよう整備されております。 また、1つの公園内で海から森まで多様な環境が広がっていることから、海水浴やキャンプ等のレクリエーション、テニスやサッカー等の各種スポーツ、野鳥観察や自然観察会等の学びなど様々な体験を地域住民はもとより県内外から来られる多くの方に楽しんでいただいております。		

【施設写真】



大噴水(県庁前公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	戦災復興土地地区画整理事業		
施設の所在地	富山県富山市新総曲輪1-1	施設設置年月日	昭和40年（1965年）10月
施設整備の経緯	- 第二次世界大戦中の富山大空襲（昭和20年（1945年）8月2日未明）の被害を受けた富山市中心部において、昭和22年（1947年）に富山戦災復興土地地区画整理事業に着手し、この事業において、戦災復興事業の記念碑ともいえる県庁前公園が整備され、昭和40年（1965年）に完成した。 - 公園の中央付近に位置する大噴水は、富山の豊かな水資源と象徴として昭和40年（1965年）10月に整備され、以降、公園のシンボルとして多くの公園利用者に愛される施設となっている。		
施設の形態的特徴	- 直径35mの円形をなし、池内に15馬力の水中ポンプ8台を使用し、水は循環方式で連続ろ過を行っている。 - 噴水は中央噴水・噴霧噴水・箆目噴水・投射噴水・湧水噴水の5系統からなり、8分間に16通りのパターンで放水している。 - ノズル数は、中央1本、噴霧300本、箆目60本、投射12本、湧水24本の計397本。 - 照明は赤黄緑紫の4色の照明灯を使用し、水中から噴水に投射する。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	- オフィス街の中心に位置する公園において、憩いの場を提供している。 - 夜間はライトアップも実施しており、昼間とは異なった幻想的な表情を見せる。		

【施設写真】



平和都市宣言碑(姉妹都市公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国際交流に係る公園施設		
施設の所在地	石川県金沢市駅西新町3丁目1001番	施設設置年月日	平成7年（1995年）11月
施設整備の経緯	平成元年（1989年）の金沢市制百周年記念事業の一環として開催された姉妹都市フォーラムにおいて、姉妹都市間の交流を記念した姉妹都市公園の整備が発意された。その後、戦後50周年と平和都市宣言議決10周年が重なる平成7年（1995年）に、平和都市宣言碑を公園内に建立することとなった。		
施設の形態的特徴	御影石を用いて作成された記念碑で、高さ3m、横幅2.46m、奥行1.2m。各姉妹都市の市長の意向を汲んでデザインされた。片面には昭和60年（1985年）に金沢市議会で議決された平和都市宣言、もう片面には金沢市および6の姉妹都市の市長のメッセージが刻まれている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	公園内には姉妹都市提携をしている各都市を紹介するコーナーが設けられており、姉妹都市に関連したイベントの開催場所にもなっていることから、姉妹都市について関心を持ってもらう場として活用されている。		

【施設写真】



第23回国民体育大会参加選手記念碑(福井運動公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	福井県 福井市 福町3-20	施設設置年月日	昭和43年（1968年）10月
施設整備の経緯	昭和36年（1961年）12月14日に、国体開催会場予定地に決定し、昭和37年（1962年）5月21日敷地の売買契約を完了、埋立・整地の工事に引続き昭和38年（1963年）8月施行の福井市都市計画事業として認可を受け、建設が決定した。昭和40年（1965年）7月第23回国民体育大会が福井県開催に決定後、水泳場、テニスコート、補助競技場、事務所、合宿所、野球場、他施設が施行され、昭和43（1968年）年8月までに体育館を除く全施設が完成し、国体を迎えた。 この記念碑は、明治百年の意義ある年に福井国体が開催されることを記念し、全国各地から集まった2万余名の選手、監督が募金を行って建設されたものである。		
施設の形態的特徴	大きさ… 上部 幅248cm 奥行40cm 高さ131cm 台座 幅100cm 奥行90cm 高さ15cm 素材…コンクリート製		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	広大な敷地の中に各種体育施設を擁する、県直営の一大総合運動公園であり、広く県民に利用され、県民のスポーツの振興と健康増進に大きく貢献している。平成30年（2018年）の国体の改修後、高校総体、Vリーグ、Tリーグ、などの大きな大会、アスリートナイトゲームなどのイベントが行われるようになり、利用人数も増加した。平日は、各種競技団体や個人による夕方からの練習の利用が多い。土日祝日は、毎週、年間計画による各種競技の県大会、北信越大会、全国大会、イベント等が行われている。		

【施設写真】



福井運動公園全景



記念碑正面



記念碑下部

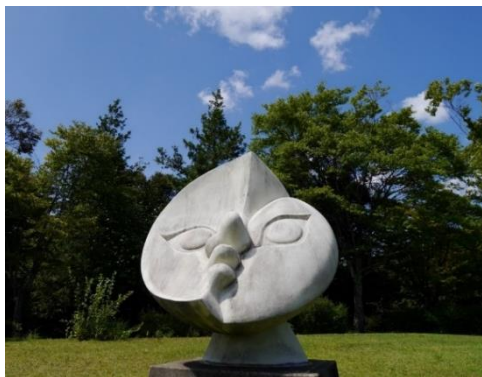


記念碑背面

アート広場(越前陶芸公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施策名称：地域活性化拠点公園整備事業		
施設の所在地	福井県丹生郡越前町小曾原	施設設置年月日	昭和62年（1987年）4月1日
施設整備の経緯	主に中世に盛んに生産されていた越前焼の産地である宮崎村（現越前町）において、衰退した窯業を再興するために、昭和に入ってから陶芸村建設の構想が練られ、県が協力する形で実現。窯業試験場（現福井県窯業指導分所）での、越前焼の製造における研究や人材育成事業を核として、福井県陶芸館、越前焼工業協同組合（直売所含む）、個人の窯元が集積する越前陶芸公園が形成された。その後も整備が進み、文化交流会館や越前古窯博物館等の新しい建物が建てられたり、イベントを随時開催されたりすることで賑わいを創出し、地元の住民や観光客が訪れ、陶芸や自然を楽しむことができる公園となっている。		
施設の形態的特徴	越前陶芸公園は陶彫作品が並ぶアート広場を中心に芝生広場、さくら広場、こども広場から構成される。アート広場に置かれている作品は、越前焼の再興に関わった陶芸家の作品を中心に15作品であり、公園のシンボルとなっている。公園内には福井県陶芸館、越前古窯博物館、茶苑、文化交流会館が建ち、訪問者に身近に越前焼に触れる機会を創出して、越前焼の振興の役目を果たしている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	陶芸まつりの会場として産地の作家とお客さんをつなぐ場となっているほか、日常でも管理者によって、レクリエーションや催し物が開催されて、家族連れや観光客が訪れている。また、福井県陶芸館の施設では、展示の観賞のほか陶芸体験ができるので、公園を含めて学校などの遠足や修学旅行で活用されている。		

【施設写真】



タコ遊具(橘公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：幼児、児童の遊び場		
施設の所在地	山梨県甲府市丸の内二丁目294番	施設設置年月日	昭和45年（1970年）10月
施設整備の経緯	橘公園に設置されているタコ遊具は、昭和45年（1970年）10月に若尾達郎氏より甲府市に寄贈された遊具である。		
施設の形態的特徴	高さ約4m、幅約10mに及ぶ、コンクリートで造られたタコの造形遊具である。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	橘公園がタコ公園の愛称で多くの市民に浸透しているほど公園のシンボリックな施設であり、長きにわたり地域の幼児や児童たちに親しまれている。		

【施設写真】



国体開催記念モニュメント、炬火台（小瀬スポーツ公園）

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	山梨県甲府市小瀬町840	施設設置年月日	モニュメント：昭和61年（1986年） 炬火台：昭和60年（1985年）9月16日
施設整備の経緯	【国体開催記念モニュメント】 第41回国民体育大会（かいじ国体）を記念して、夏・秋季大会の主会場となった小瀬スポーツ公園中央広場にクラフトタワーと池から構成されるモニュメントを建設した。 【炬火台】 第41回国民体育大会（かいじ国体）で使用された炬火台。富士山頂等県内5か所で採火され、県内全市町村を5コースに分け炬火リレーが行われた。公園内の陸上競技場は、第41回国民体育大会の主会場となった。		
施設の形態的特徴	【国体開催記念モニュメント】 クラフトタワーは大地の力により突出した水晶の結晶体を表し、このタワーが相互におりなす空間や色合は、山梨の山なみの美しさや、渓谷美を表現している。また、タワーの根幹部から噴出する水は、富士山や八ヶ岳の湧水が溪流を下り、滝となり、池に淀み、再び大地に戻るといった自然の輪廻を表している。 【炬火台】 炬火皿は、水晶の群生をモチーフとしており、ステンレスの使用によって水晶のもつ透明感が、クリスタルな感覚で表現されている。 炬火皿：高さ1.9m、径1.85m、ステンレス鏡面仕上		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	国体開催記念モニュメントは子どもの水遊び場となっているほか、野外ステージとしての機能も備えており、県民の憩いの場として機能している。		

【施設写真】



メモリアルマンホール：信州花フェスタ2019開催記念 (松本平広域公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	長野県松本市神林5300	施設設置年月日	令和2年（2020年）3月30日
施設整備の経緯	松本平広域公園は、2019年（平成31年）の4月25日から6月16日までの53日間開催された第36回全国都市緑化信州フェア信州花フェスタ2019のメイン会場として使用された。緑化フェアの記憶を後世に残すために、信州花フェスタのロゴマークのマンホールを設置したもの。		
施設の形態的特徴	メモリアルマンホール：鋳鉄製（表面はカラー塗装）、Φ650 信州花フェスタのロゴマークを記載		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	信州花フェスタの開催地であることを伝えている。 マンホールはフェア会場内の駐車場から目につきやすい場所に設置している。		

【施設写真】



里山文化ゾーン(国営アルプスあづみの公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	国営公園制度		
施設の所在地	長野県安曇野市堀金烏川33-4	施設設置年月日	平成28年(2016年)
施設整備の経緯	国営アルプスあづみの公園は「自然と文化に抱かれた豊かな自由時間活動の実現」をテーマに、平成28年度(2016年度)に全園開園となりました。信州・安曇野の恵まれた自然環境を活かした緑豊かな公園であり、堀金・穂高地区の園内には野原や花畑、池、せせらぎ等があり、そこに集まるチョウやトンボ等さまざまな生き物が織りなす風景に出会えます。里山文化ゾーンは安曇野に伝わる懐かしい里山風景を再現しながら、人の生業のなかで育まれてきた生き物の保全、技術・文化などの体験機会の提供を通じて安曇野の風土の継承につなげていくゾーンです。里山文化ゾーンには昔懐かしい水車小屋などの施設が設置され、昭和30年代の安曇野の田園風景を再生・保存するための整備しています。		
施設の形態的特徴	- 堀金・穂高地区は、常念岳・蝶ヶ岳を源流とする烏川沿いに位置する約100haのエリア - 里山文化ゾーン内「懐かしの風景エリア」には、水車小屋の他に、農家風あずまやなどが設置されています。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	水車小屋周辺は連続テレビ小説「おひさま」(平成23年 NHK)の風景がよみがえる施設として、老若男女問わず、市民の憩いの場となっています。 毎年4月及び5月に開催のアルプスあづみのセンチュリーライド(サイクルイベント)では約5,000人、5月に開催のあづみの早春賦音楽祭では約20,000人ももの来園者が里山文化ゾーンを訪れるなど、近隣地域のみならず、首都圏・中京圏など県外から安曇野地域への誘客にもつながっています。		

【施設写真】



サッカー兼ラグビー場及びテニスコート(岐阜ファミリーパーク)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：健康・運動施設		
施設の所在地	岐阜県岐阜市出屋敷31	施設設置年月日	昭和57年(1982年)3月29日 (サッカー兼ラグビー場) 昭和59年(1984年)4月14日 (テニスコート)
施設整備の経緯	岐阜ファミリーパークは、市民全般の休息、鑑賞、散歩、遊戯、運動等総合的に供することを目的として、昭和52年に整備に着手し、都市公園におけるスポーツ施設の先駆けとして、スポレクゾーンに、サッカー兼ラグビー場（昭和57年(1982年)）、テニスコート（昭和59年(1984年)）を整備しました。 今後、岐阜ファミリーパーク再整備基本計画に基づき、各スポーツ施設の更新を行っていきます。		
施設の形態的特徴	サッカー兼ラグビー場 … フィールド：約136m×約60m、サーフェス：クレー テニスコート … コート数：10面、サーフェス：全天候型舗装（砂入り人工芝）		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	サッカー兼ラグビー場は、主にサッカー場として、試合や練習で利用されています。 テニスコートは、各種大会の会場としての利用のほか、一般利用も多く、個人から団体まで、幅広い方に利用されています。		

【施設写真】



全景



サッカー兼ラグビー場



テニスコート

交通広場(各務原公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：交通知識の習得		
施設の所在地	岐阜県各務原市鵜沼大安寺町1-84	施設設置年月日	昭和57年（1982年）4月29日
施設整備の経緯	豊かな自然環境の中で子どもたちがのびのびと自由に遊びながら交通に関する知識や正しい交通ルール及び交通安全技能を身につけることができる施設として、昭和57年（1982年）に開設された。		
施設の形態的特徴	約11,000㎡のミニチュア都市の中に、車道、歩道、信号機、標識、踏切、横断歩道、遊具等が配置されている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	利用にあたり、足踏み式ゴーカートや自転車等の貸し出しを行っている。 また、交通広場を活用し、交通安全教室や自転車の乗り方教室などを開催し交通安全の啓発を行っている。		

【施設写真】



バラ園(ぎふワールド・ローズガーデン)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：地域活性化		
施設の所在地	岐阜県可児市瀬田1584-1	施設設置年月日	平成8年（1996年）4月26日
施設整備の経緯	平成7年（1995年）にぎふワールド・ローズガーデンの前身となる「可児公園」で開催した「花フェスタ'95ぎふ」を契機として、世界中から集めた約1,000品種、40,000株のバラを植栽する日本一のバラ園として供用を開始。現在は世界最大級となる約6,000品種、20,000株のバラを栽培している。 平成15年（2003年）には、バラの庭園としての管理の美しさや学術的に価値のある品種を数多く栽培していることなどが国際的に認められ、日本のバラ園としては初めて、世界でも4番目※に世界バラ会連合優秀庭園賞を受賞した。この様に、バラ園の管理が、国際的に認められる水準にまで高める取組が全国に広がり、現在、日本には同賞を受賞した庭園が、当園を含め8園となり、全国・全世界からの来園者を集めるなど、それぞれ地域の活性化に寄与している。※当公園の他11庭園が同時受賞		
施設の形態的特徴	4.9haに及ぶ広大なバラ園に、オールドローズからモダンローズまで世界中の品種、約6,000品種、20,000株を栽培している。オールドローズから最新のバラ品種まで、エリアごとにテーマに合わせた植栽、演出を施している。 【バラ園の主なエリア】 ・ウエルカムガーデン ・ローズテラスとバラ回廊 ・オールドローズガーデン ・ホワイトローズガーデン ・6月の庭・フレンドシップガーデン ・ロイヤルローズガーデン ・ペルシャのバラの庭 ・アンネのバラ園 ・ニューローズガーデン など		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	バラの開花が盛期となる春と秋を中心に、バラを楽しむ熟年層や、世界の品種を求めるバラの専門家、更にはSNS写真やバラを背景としたコスプレ撮影など、多種多様な楽しみ方で、様々な年齢層の方に施設を利用頂いている。		

【施設写真】



モロッコガーデン(ぎふワールド・ローズガーデン)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国際交流に係る公園施設		
施設の所在地	岐阜県可児市瀬田1584-1	施設設置年月日	令和4年（2022年）10月15日
施設整備の経緯	平成17年（2005年）世界イベント村ぎふ秋まつり'05におけるモロッコ王国の展示をきっかけとして岐阜県とモロッコ王国との交流が始まった。モロッコ王国との交流を記念に王国側から送られたバラを植栽する庭園として、平成20年（2008年）にモロッコ・ロイヤルローズガーデンを建設した。平成30年（2018年）のモロッコ・ロイヤルローズガーデン整備10周年を契機として、モロッコ政府の全面的な協力のもと改修工事に着手することとし、令和4年（2022年）10月に日本で唯一本物の※「モロッコガーデン」としてオープンした。 ※モロッコの資材によりモロッコから来日した職人が装飾、植栽もモロッコの景観設計家がデザイン。		
施設の形態的特徴	施設面積は568㎡。 アラブ・アンダルシア庭園の建築様式を用いた庭園で、正面ゲートはモロッコの伝統的なアーチ型をしており、伝統技術である石膏細工やゼリージュ（モザイクタイル）で装飾されている。 また、モロッコ庭園には欠かせない噴水や壁泉、パーゴラなどが配置され、モロッコの伝統的な邸宅（リアド）に見られる特徴的な要素を忠実に取り入れた景観づくりとして、周囲を囲われ、左右対称で、木陰があり、香り高く色鮮やかな花が咲く庭園となっている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	モロッコ王国から持ち込んだ資材により、モロッコ王国の職人が美しく装飾し、モロッコ王国の景観設計家による植栽のなされた、国内にいながらモロッコを感じられる庭園。 モロッコ王国と岐阜県との友好により生まれた本物のモロッコガーデン。 モロッコガーデンオープンの際には、モロッコ王国から大臣を迎えセレモニーを行うとともに、モロッコ王国と主催で、モロッコ王国から職人を招き、モロッコ王国の伝統技術や手工芸などを紹介するイベントを実施している。また、今後もモロッコ王国との共催イベントを実施する（予定）など、当該公園をきっかけとした国際交流の促進につながっている。		

【施設写真】



長良川国際ボートコース(国営木曽三川公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	国営公園制度		
施設の所在地	岐阜県海津市海津町福江字角山1202-2	施設設置年月日	平成16年（2004年）7月2日
施設整備の経緯	平成17年（2005年）8月から9月に開催された「2005年FISA 世界ボート選手権大会」において全競技のコースとして使用され、世界からの選手関係者の受け入れを行った。		
施設の形態的特徴	広大な長良川の水面を活かして、全長2,000m、10コースが整備されており、国際レースの最高級である公益社団法人日本ボート協会の公認コースとして認定を受けている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	毎年春と秋にそれぞれ木曽三川交流レガッタ、デ・レーケ記念交流レガッタと称してナックルフォアのアマチュア大会が実施されており、地元だけでなく、広域の市民交流の場となっている。また、近隣の大学ボート部の部活動や、市民の方の練習・交流の場としても利用されている。		

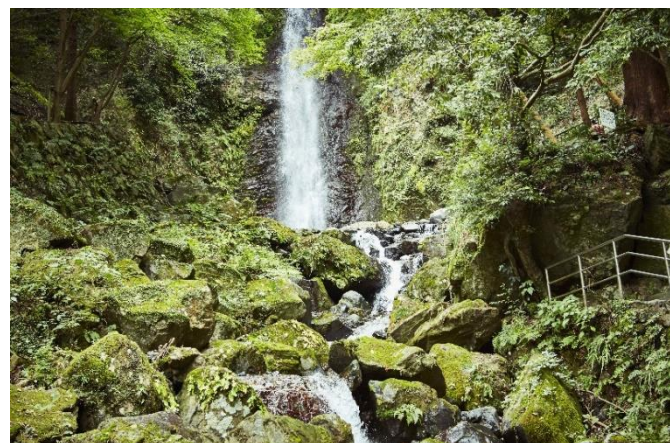
【施設写真】



養老の滝(養老公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	太政官布達第16号		
施設の所在地	岐阜県養老郡養老町高林1298-2	施設設置年月日	明治13年（1880年）10月17日
施設整備の経緯	養老の滝をはじめとするこのエリアは、古くから風光明媚な景勝地として知られていたが、当時の大蔵大輔の要請に端を発し、地元の有力者が中心となって働きかけ、明治13年（1880年）10月17日に都市公園として開設された。		
施設の形態的特徴	高さ約30m、幅約4mの古来、文人墨客にも親しまれてきた名瀑であり、日本の滝百選に選定されている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	養老の滝は養老山麓の大自然を取り入れた春の桜や新緑、また秋の紅葉と年間を通して花木とともに楽しむことができる施設として親しまれている。また、「貧しい木こりが岩間から湧く、酒香のする水を老父に飲ませたところ、まさしく酒であり、老父はすっかり若返った。」という養老孝子伝説が伝わるなど、湧水を目的とした利用も多くある。		

【施設写真】



戦災復興事業 完成記念碑(鷹匠公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	戦災復興土地区画整理事業		
施設の所在地	静岡県静岡市葵区鷹匠三丁目 15	施設設置年月日	昭和53年（1973年）7月1日
施設整備の経緯	昭和22年（1947年）1月16日戦災復興事業に基づいて公園計画を為し、昭和28年（1953年）4月1日に供用開始した。		
施設の形態的特徴	W2000×H1200×D350、御影石		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	鷹匠公園は静岡市の中心市街地に立地する貴重なオープンスペースであり、隣接する道路や公共施設植栽と一体となって緑量のあ る街区空間を形成している。本施設はその一角にあり、戦災復興土地区画整理事業を後世に伝える役割を果たしている。		

【施設写真】



施設全景



施設近景



公園全景



公園周辺街路空間（右が公園）

緑化推進センター(飯田公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施策名称：都市緑化植物園（昭和51年度（1976年度）～）		
施設の所在地	静岡県浜松市中央区大塚町1876番地の1	施設設置年月日	昭和53年（1978年）4月1日
施設整備の経緯	高度経済成長を背景に、急激な都市化の進展により緑（樹林、農地、草地など）が急激に減少し、都市住民の深い理解と協力の下、緑化を推進するために都市緑化植物園の設置が必要であると考えられた。		
施設の形態的特徴	本施設は昭和53年（1978年）に全国に先駆けて都市緑化植物園として開設され、植物全般についての相談、指導、啓発を行うため緑化相談所、各種見本園等が配置されている。開設面積は40,487㎡で、植物数は約500種15,000本である。主な施設としては、見本園31園、芝生広場、修景植栽等、池などが挙げられる。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	県内唯一の都市緑化植物園として、緑の相談所を設置し、年間約1,000件の相談を受けている。緑の相談所への各種相談のほか、みどりのカーテン・庭園管理等の講座、園内ノルディックウォーク・夏祭り等のイベントや子どもへの環境学習を行い、年間約10万人の市民が利用している。		

【施設写真】



花ひろば(浜名湖ガーデンパーク)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	静岡県浜松市西区村櫛町5475-1	施設設置年月日	平成17年（2005年）6月5日
施設整備の経緯	浜名湖ガーデンパークは、平成16年(2004年)に開催しました「しずおか国際園芸博覧会」の会場を活用して整備された。「花ひろば」は、花緑が楽しめる「浜名湖ガーデンパーク」で代表的な施設となっており、園芸や庭園等の文化の発信・活動の場となっている。		
施設の形態的特徴	約4,000㎡の広場一面に季節の花が植えられている。 春はネモフィラ、夏はひまわり、秋はコスモスの花で彩られる。 花畑の中には、花で地上絵が描かれ、高さ50mの展望塔から地上絵の絵柄が楽しめる。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	浜名湖ガーデンパークは入場無料の公園であり、花ひろばも無料で楽しめるエリアである。 また、写真スポットとしても人気の場所であり、季節の花が咲く時期は多くの利用で賑わっている。		

【施設写真】



ミズベ ヒロバ(久屋大通公園(北エリア・テレビ塔エリア))

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	都市公園法の改正により、平成29（2017）年6月に創設された公募設置管理制度（Park-PFI）は、「民間資金等を活用した公園利用者の利便の向上等、民間活力による公園の再生・活性化の取り組み」として都市公園制度の節目に当たる事業である。この事業の先駆的な取り組みである久屋大通公園の象徴的な都市公園施設を選出する。		
施設の所在地	愛知県名古屋市中区丸の内 3 丁目ほか	施設設置年月日	令和2年（2020年）9月
施設整備の経緯	久屋大通公園（北エリア・テレビ塔エリア）整備運営事業は、平成29年（2017年）6月に創設されたPark-PFIに指定管理者制度を組み合わせた整備運営事業として、先駆的な取り組みである。平成29年（2017年）10月に事業者の公募を開始し、平成30年（2018年）2月に事業者を選定、令和2年（2020年）9月に「Hisaya-odori Park」として開園した。「ミズベ ヒロバ」は当該事業者により整備された施設である。		
施設の形態的特徴	Hisaya-odori Parkは4つのゾーンで構成されており、そのうちミズベ ヒロバのあるZONE4 シンボルゾーンは、オアシス21や愛知県芸術文化センターなどが位置する名古屋の文化発信力の要となるエリアにあり、国内外からの来園を促進する発信性の高いゾーンである。全長約80mの水盤には、テレビ塔が映し出され、ミスト演出も施す。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	水盤に映し出されたテレビ塔を背景に写真を撮影するなど、Hisaya-odori Parkの名所の1つとなっている。さらに、ミズベ ヒロバを活かしたライトアップをはじめとした多彩な演出により、来園者を楽しませている。		

【施設写真】



プレイマウント(富士山すべり台)(吹上公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施策名称：児童の遊び場		
施設の所在地	愛知県名古屋市昭和区吹上二丁目、千種区吹上二丁目	施設設置年月日	昭和41年度（1966年度）
施設整備の経緯	- 名古屋市の職員が「プレイマウント」というコンクリート製築山遊具の図面を作成して、昭和41年度（1966年度）に吹上公園に設置したのが第1号である。その後、共通の構造図としたことで、昭和40～50年代を中心に市内の各公園に設置が進められた。その形やデザインから市民に「富士山すべり台」と呼ばれ、50年以上に渡って親しまれる遊具となっており、市内には80基設置されている。（令和5年（2023年）4月1日現在） - 名古屋発祥の当該遊具は、周辺の市町（東海市、春日井市、半田市等）や県外にも波及していった。		
施設の形態的特徴	- 形は富士山の姿をしており、ほぼ円すい形で、頂上のところは子どもたちが立てるように平場を設けている。真上から見ると円形で、一部は子どもが登りやすいよう直径15cmの玉石を点在させて埋め込んでいる。残りはすべりやすいように人造石研ぎ出し仕上げになっている。 - 大きさは底辺の直径が12m、地面から地上までの高さは2.5m。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	- 頂上に立てば公園を360度見渡すことができ、子どもたち自身が自由にすべり降りる方向を決められ、すべるたびに目の前の景色が変わるなど飽きることなく、何回でもすべっている子どもの姿がみられる。数名で同時にすべることができ、子どもたちに大変人気のある遊具の一つとなっている。 「名古屋の富士山すべり台（牛田吉幸 著）風媒社」という書籍も出版されており、市内の富士山すべり台が紹介されている。		

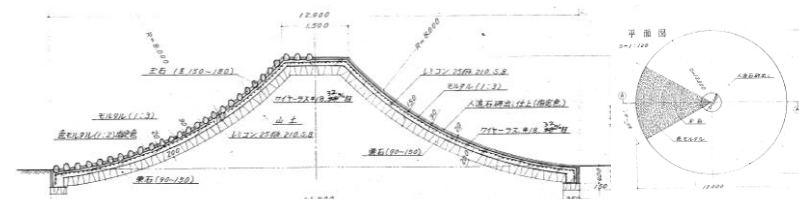
【施設写真】



設置第1号の現在のプレイマウント
(吹上公園)



その後、設置が拡大されたプレイマウント
(葉場公園)



断面図・平面図 参考：共通の構造図より

花時計(豊橋公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国際交流に係る公園施設		
施設の所在地	愛知県豊橋市今橋町3-1他	施設設置年月日	平成7年(1995年)10月1日
施設整備の経緯	本施設は平成7年(1995年)に開催された「世界公園フェスティバル'95」において初めて公開されました。 世界公園フェスティバルは名古屋会場と豊橋会場の2会場において開催されましたが、豊橋会場においては花き生産額日本一の愛知県ならではの特性を活かし、「花文化・花交流」をコンセプトとして、世界共通のコミュニケーションモチーフである「花」を題材とし、花をふんだんに取り入れた新しい景観を目指しました。 当公園は吉田城址として歴史ある場所であり、その悠久の時を未来に引き継ぐことを念願して花と時計を掛け合わせた花時計が設置されました。 現在でも世界公園フェスティバル'95のテーマである「花文化・花交流」を継承し、毎年5月に「花交流フェア」を豊橋公園にて開催しており、人と花を繋ぐ貴重なイベントとして花時計とともに市民に親しまれています。		
施設の形態的特徴	直径約7.0m(文字盤の直径約5.0m)、頂部の高さ約2.0m 使用花: インパチェンス、ランタナ、ボサ菊等 約1,500株(平成7年(1995年)開催当時) 現在も季節に併せ四季折々の花々が植えられている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	毎年開催される豊橋みどりの協会主催の豊橋公園を会場とした花交流フェアにおいて象徴的な役割を果たしているとともに、同イベントにて行われる写生大会では子供たちが集まって花時計を描写している様子が伺える。また、近くに噴水や休憩できるベンチがあるため、ランチタイムの市民の憩いの場としても親しまれている。		

【施設写真】



世界公園フェスティバル'95
開催当時



花時計(豊橋公園) R5.10



花時計周辺の様子(豊橋公園) R5.10



花交流フェア(2023)

戦災復興之碑(籠田公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	戦災復興土地地区画整理事業		
施設の所在地	愛知県岡崎市籠田町68	施設設置年月日	昭和33年（1958年）4月
施設整備の経緯	この施設は、太平洋戦争末期で戦禍となった市街地を甦らせるために昭和20年（1945年）から計画が始まり、13年に亘り行われてきた戦災復興土地地区画整理事業の完成記念に伴い、戦災復興事業の永続的な記念と市民の業績を後世に伝承し、岡崎市発展の象徴として戦災復興事業の中心に位置する籠田公園に建立された。また、戦没者の霊に追悼の意を表したものである。		
施設の形態的特徴	平和の象徴であるハトが頂点に立つ黒石でできた石碑である。 大きさ4550×5150の石張り土台の上に高さ3640、幅1500、横900の塔を建て、高さ800、長さ1500、幅750のハトが乗っている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	この地域は、古くから商業の街として発展したところであり、多くの商店が隣接し、市の中心街で人通りも多く、祭りや、集会などのイベントの会場としてふさわしいところである。昭和33年4月に行われた戦災復興祭の記念式場にもなっており、当時の建設大臣代理、愛知県知事をはじめ国、県、市など関係者五百余名が参列し、愛知県知事の手によって除幕された。		

【施設写真】



入口広場【ゼウスの泉】（新城総合公園）

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：皇太子殿下（今上天皇陛下）御成婚記念事業		
施設の所在地	愛知県新城市浅谷字ヒヨイタ40番地	施設設置年月日	平成6年（1994年）3月
施設整備の経緯	新城総合公園は、緑豊かな広域公園であり、様々な遊び場や運動施設、広場があり、大人から子供まで自然の中で思いっきり楽しみ、憩える公園として平成15年に全面開園しています。 入口広場の噴水モニュメントと4本の石柱は、平成5年（1993年）6月9日の皇太子殿下御成婚を記念した事業として、当公園の来園者を迎える記念施設として整備したものです。		
施設の形態的特徴	入口広場は、気持ちの高揚する空間として、スポーツの躍動感を表現した4本の石柱（H＝9.0m）を配置し、その中心部に安定感のある四角の造形のモニュメント噴水により湧き出る泉を表現しています。 モニュメントは、周囲の自然と調和するよう石材で構成し、部分的に金属（ステンレス）を用いることで未来性を表現しています。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	入口広場に4本の石柱と水景となるモニュメント噴水を効果的に導入することで、ダイナミックな動きとホッとする涼感を表現しています。		

【施設写真】



日本の塔・月(愛・地球博記念公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	愛知県長久手市茨ヶ廻間乙1533-1	施設設置年月日	平成17年（2005年）3月14日
施設整備の経緯	21世紀最初の国際博覧会「愛知万博」（愛称：愛・地球博）は、人類が直面する地球規模の課題を解決するための方向性と人類の生き方を発信するという目的のもと、国内の国際博覧会としては当時最大となる121か国、4国際機関の参加のもと開催されました。平成17年（2005年）3月24日に開会式が行われ、9月25日までの185日の会期を通じて2,205万人の来場者に驚きと感動を与え、国内外から高い評価を得ることができました。この塔は、「愛知万博」における日本ゾーンの永久設置モニュメントです。		
施設の形態的特徴	自然の象徴として塔の上部には風神。雷神像が配置され、人々の幸運を願う“護り童子”として親しまれています。「月」は生命の神秘、「風神・雷神」は自然への畏敬、「歯車」は文明の道標を表します。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	会期中のにぎわいを現在に伝える作品で、からくり人形のパフォーマンスで人気を博し、扉が開くと童子が歯車を回したり、面かぶりをするなど、音楽に合わせて約5分間の演技をします。		

【施設写真】



孫太郎オートキャンプ場(熊野灘臨海公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施策名称：オートキャンプ場		
施設の所在地	三重県北牟婁郡紀北町東長島浅間海岸	施設設置年月日	平成4年（1992年）5月2日
施設整備の経緯	平成元年度に建設省から「オートキャンプ場整備ネットワーク計画重点整備地区」に指定され、順次整備を行い、平成4年（1992年）5月2日にオープンした。 当キャンプ場は、将来の多様化する余暇需要に対応し、周辺地域の観光資源や熊野灘レクリエーション都市施設のストックを活用しながら、東紀州地域の核として長期滞在施設の一環となる施設として位置づけ、今後のオートキャンプネットワークの形成・充実に向けて、その中核的施設としての先導的役割を期待され整備された。		
施設の形態的特徴	初心者でも安心してキャンプ体験ができるよう、オートキャンプサイトのほかにコテージも整備しているほか、管理棟に温水シャワーやコインランドリー等の設備や、販売品・レンタル品を充実させている。 また、大自然の中で手軽かつ充実したアウトドア体験をしていただく施設として、グランピングドームを設置し、多様なニーズに対応している。 これらの取り組みの結果、（一社）日本オートキャンプ協会から5つ星認定を取得している。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	地域の滞在型観光の拠点として、県内はもとより、中京・関西圏等の大都市圏からの誘客に向けた有力コンテンツとして機能している。 また、施設内でクラフト体験を提供したり、近隣の民間施設（海上釣り堀）と連携した体験イベントを展開したりするなど、特にファミリー層に楽しんでもらい、リピーターになっていただく仕掛けを行っている。 県としても、当施設近隣の公園内にリゾート型プールを整備するなどし、広域的な集客力の強化に取り組んでいる。		

【施設写真】



オートキャンプ場の全景



利用状況（昼）



利用状況（夜）



近隣に県が整備したリゾート型プール
（公園施設）

日本庭園 夕照の庭(びわこ文化公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国際交流に係る公園施設		
施設の所在地	滋賀県大津市瀬田南大萱町	施設設置年月日	昭和59年（1984年）9月
施設整備の経緯	- 日本庭園「夕照の庭」は昭和59年（1984年）に完成。（併設の茶室「夕照庵」は昭和62年（1987年）に完成） - 日本伝統文化の高揚や地域コミュニティの醸成、さらに国際交流親善の場として活用していただくことを目的として、滋賀県の文化・教養クラスターの場「文化ゾーン」に設置した。		
施設の形態的特徴	- 日本庭園「夕照の庭」は、20,000㎡（うち、水面4,860㎡）の広さをもち、滝口からの流れが上の池から大滝を経て大池に至る、本県を代表する日本庭園として親しまれている。 - 設計者は造園家・作庭家である伊藤邦衛氏。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	文化的活動の場として、また各種記念行事の記念撮影の場として利用されている。		

【施設写真】



国体記念広場(皇子山総合運動公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	滋賀県大津市御陵町4番1号	施設設置年月日	昭和56年（1981年）8月4日
施設整備の経緯	昭和56年（1981年）に開催された、第36回国民体育大会（びわこ国体）の開催を記念して整備した。 びわこ国体は、「水と緑あふれる若さ」をスローガンに、湖国ならではの湖上輸送等の創意工夫により開催された。		
施設の形態的特徴	モニュメント、四阿、噴水等の施設が整備された広場。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	市民の憩いの場として、体操やヨガ、ウォーキングなどが行われているほか、各種イベントの会場としても利用されている。		

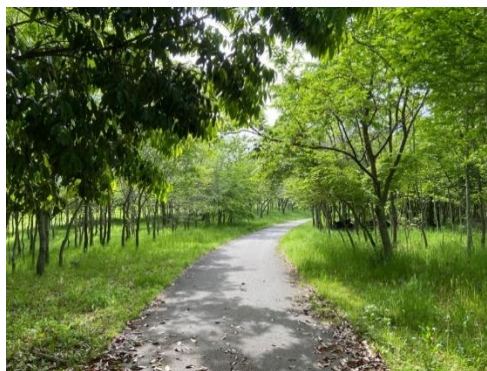
【施設写真】



市民参加により再生を目指す森(びわこ地球市民の森)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施策名称：平成の森づくり事業		
施設の所在地	滋賀県守山市水保町2727	施設設置年月日	平成14年（2002年）7月
施設整備の経緯	新野洲川の完成により廃川となり平地化事業の行われた野洲川南流の一部を「豊かな森」として再生することを目的として「平成の森づくり事業」として整備された公園である。		
施設の形態的特徴	開設面積42.5ha、旧野洲川河川敷地（L=3.2km） 主要施設：森、散策路、芝生広場、大型遊具、グラウンドゴルフ場等		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	森づくりについて、植樹を県民との協働により行うこととし、広く一般から募集を行い、苗木を中心に植樹を進め、平成25年度（2013年度）末にのべ16万本の植樹を実施した。また、間伐や枝打ち・下草刈りなど育樹活動についても、一般から募集した「森づくりサポーター」に協力をいただき、将来に豊かな森を引き継ぐ取組を進めている。		

【施設写真】



模擬道路(大宮交通公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：交通知識の習得		
施設の所在地	京都府京都市北区大宮西脇台町17-1、紫竹北栗栖町1	施設設置年月日	昭和44年（1969年）3月31日
施設整備の経緯	本公園は、区画整理事業による公園予定地に作られ、交通に関する知識や正しい交通ルールを子供が楽しみながら身につけることができるよう設計された。開園当時は、公園内全体を一つの都市形態に見立ててそれぞれの区域に各種の施設を備えており、模擬道路上をゴーカートで走ることができた。令和3年（2021年）には、本市初となる公募設置管理制度（Park-PFI）を活用した公園再整備工事が完了し、模擬道路は自転車を通じた交通教育の場として改修された。		
施設の形態的特徴	模擬道路はアスファルトで舗装され、交通信号機、道路標識が設置されている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	園内に併設された自転車広場、コミュニティルームも活用し、幅広い世代に向けて自転車教室を開催している。		

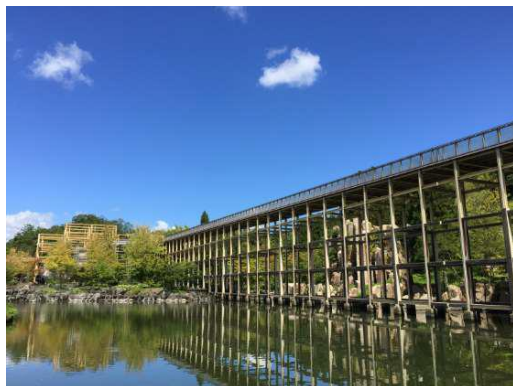
【施設写真】



水景園(京都府立関西文化学術研究都市記念公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	京都府相楽郡精華町精華台6-1	施設設置年月日	水景園：平成6年（1994年）9月23日 都市公園：平成7年（1995年）4月29日
施設整備の経緯	関西文化学術研究都市記念公園は、関西文化学術研究都市の建設を記念して関西文化学研都市精華・西木津地区に整備した。 水景園は、平安建都1200年という100年に1度の記念事業として、文化開発の基盤となる歴史的風土や日本的な文化の象徴となるよう建設し、平成6年（1994年）秋に約60日間にわたり開催された「けいはんな学研都市フェスティバル'94 & 第11回全国都市緑化きょうとフェア」のメイン会場として利用され、約130万人の来場者で賑わった。その後、庭園や芝生広場等を整備し、平成7年春に都市公園としてオープンした。		
施設の形態的特徴	・大きさ 水景園全体 約2.3ha 観月橋：水面上約10mに架かる歩廊橋。(延長123m、幅4m) 巨石群：高さ6～7m、おおよそ20～40t、最大70tの重さの巨石、約500個からなる延長150mの壮大な空間 ・素材・デザイン 観月橋・観月楼：木を基調とした施設 水景棚：棚田状の水盤が、上の池と下の池を水の景色として繋ぐ。 里棚田：自然の恵みを受けて日本人が営んできた暮らしの景色。水田が日本の原風景の美しさを演出。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	四季折々の風景が楽しめる現代の回遊式日本庭園。「観月橋」や「観月楼」など、月にちなんだ施設があり、日本の里をテーマにした庭園内では七夕飾りや紅葉のライトアップなどの季節毎のイベントが年に数回開催される。 ダイナミックな石組や滝組、季節毎の彩り、コイのえさやりなど、大人から子供まで楽しめる施設。		

【施設写真】



住吉公園「汐掛道」(住吉公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	太政官布達第16号		
施設の所在地	大阪府大阪市住之江区浜口東	施設設置年月日	明治6年（1873年）8月2日
施設整備の経緯	住吉公園は、その昔、住吉大社の馬場であり遠く万葉集にも「住之江の岸の松が根うちさらし寄り来る波の音の清しも」と歌われ、さらに多数の和歌で詠まれていることから、海岸近くに存在し、飛鳥・奈良朝の頃から人が集まり、広く認知されていた場所であったことがうかがわれ、明治6年（1873年）1月15日付け太政官布達第16号を受け、同年8月2日に大阪では最古の歴史ある公園として開設された。「汐掛道」は住吉公園を東西に通る、古来は海から住吉大社へ参詣するための参道であった。住吉大社の神輿洗神事では海で清めた大神輿が通った道でもあり、海岸線に面する大燈籠まで続いていた。		
施設の形態的特徴	開設面積 8.0ha 汐掛道は、平成元年（1989年）度 石畳の並木道として再整備 汐掛道顕彰碑：「ここは昔、住吉大社の神事の馬場として使われた場所で、社前から松原が続き、すぐに出見の浜に出る名勝の地であった。松原を東西に貫く道は大社の参道で、浜で清めた神輿が通るため「汐掛道」と称され、沿道の灯籠は代々住友家投手の寄進になり遠近の参詣や行楽の人々に賑わった。古くから白砂青松の歌枕の地として知られ近世には多くの文人・俳人がここを往来し、大阪文芸の拠点の一つとなっている。」と記されている。（財 住吉名勝保存会）		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	明治18年（1885年）の阪堺鉄道の開通によって、公園周辺に民家が建ちはじめ、来園者の増加に伴って園内に茶店や料理店が建ち並んでいた。しかしこのような茶店などは、公園の風致を害したことや、松の根元の踏み固めによる松の衰弱や枯死が目立ち始めたことに加え、国道26号が住吉公園を南北に通過することが決定され、施設の一部が撤去の対象となったから公園の大改修が行われた。 この大改修によって、現在の住吉公園の原形が出来上がり、公園の中央部を東西に通る汐掛道は、昔住吉大社に参拝する船人や渡航者等の参道であり、黒松の繁る美林の沿道であったが、現在では黒松は減ったものの常夜灯や灯籠などは、当時の名残をとどめた石畳の並木道となっている。		

【施設写真】



国際庭園(鶴見緑地)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設 国際交流に係る公園施設		
施設の所在地	大阪府大阪市鶴見区緑地公園2-163	施設設置年月日	平成2年（1990年）4月1日
施設整備の経緯	国際庭園は、平成2年（1990年）に開催された「国際花と緑の博覧会（花博）」において、海外諸国からの屋外出展として整備された施設である。各庭園の基本設計は海外諸国が担当し、また施工は海外技術者と共同して実施した。出展態様の例は次のとおり。 ①各国の特徴的な伝統的庭園・花壇 ②快適な都市空間創造を目的とした公園・広場建設等の現代的な試み ③各国の珍しい植物・草花の新品種または、わが国国民に関心の高い花・木 ④花と緑に象徴される植物に係る各国文化（観光促進も含む） ⑤環境・自然保護問題への対応等に係るパネル展示等		
施設の形態的特徴	鶴見緑地の北部に位置する「山のエリア」一帯に設けられており、総面積は約37,000㎡、1区画の面積は概ね300～2,000㎡となっている。花博が終了した現在も、60庭園（国内出展含む）が存置されており、欧州・アジア・オセアニア・北米・中近東・アフリカのブロックに概ね区分されている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	花博当時には多くの来園者が訪れ、また現在も公園利用者の憩いの場として利用されている。最近では、「鶴見緑地コスプレDay（つるコス）」などのイベントでも活用されるなど、新たな活用も見られている。		

【施設写真】



花博当時の外観
(出典：国際花と緑の博覧会 公式記録)



花博当時の庭園（大韓民国）
(出典：国際花と緑の博覧会 公式記録 写真集)



現在の庭園（ネパール庭園）
(出典：大阪市撮影)



2020年のイベントのチラシ
(出典：花博記念公園鶴見緑地ホームページ)

浜寺公園の松林(浜寺公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等が今も残す施設		
	太政官布達第16号		
施設の所在地	大阪府堺市西区浜寺公園町 大阪府高石市羽衣公園丁	施設設置年月日	明治6年（1873年）12月24日
施設整備の経緯	当地区は、後村上天王の正平年間、三光国師（覚明）が建立した大雄寺が浜辺にあったことに由来し、「高師の浜の寺」と称していたが、その名が寺の廃絶した後も地名として残ったものである。その頃より白砂青松の風致美は世に知られ、名勝地となっていた。公園化されるについては、次のような背景があった。 当時、由緒ある松林が明治の初期に禄を取り上げられた士族のために民間に払い下げられ、1791本もの松が伐採の憂き目にあった。たまたま明治6年（1873年）7月にここを通りかかった大久保利通卿が、この乱伐の状況を見て「音に聞く高師の浜の浜松も世のあざ波はのがれざりけり（惜松碑に記載）」と慨感の歌をしたためたのである。松の伐採はただちに中止され、名勝の地への復元に努め、明治6年（1873年）12月に太政官布達による浜寺公園として開設されることとなった。		
施設の形態的特徴	開設面積 75.1ha 海に親しむ公園として整備 クロマツ：約5,000本		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	明治30年（1897年）には、南海電車が開通し次第に公園利用者也増加していき、特に明治39年（1906年）に海水浴場が開設されてからは、関西一円の人々に楽しまれてきたが、昭和20年（1945年）の敗戦によりアメリカ進駐軍の宿舎用として全面接収され、名木の松も含め約1,700本もの松が伐採され、白砂の浜には土砂盛土と張芝がなされ宿舎や共同施設が設置されたことにより、その景観はかつての白砂青松の風致美とはかけ離れたものとなり、公園的機能は閉ざされていた。 昭和33年（1958年）に進駐軍から返還されたのち、名勝の松林の復元に稚松の植栽に取り組み、現在では約5,000本にもなり、「21世紀に引き継ぎたい日本の名松100選」と「大阪みどりの100選」に選ばれた。		

【施設写真】



ラジオ塔(大浜公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：【昭和初期】施策事業によらず全国的な広がりをもせた公園施設（生活）		
施設の所在地	大阪府堺市堺区大浜北町4丁3-50	施設設置年月日	昭和8年（1933年）堺水族館庭園内（現大浜公園内）に設置（レプリカ平成23年（2011年）4月1日設置）
施設整備の経緯	昭和初期ラジオは、高級品で一般家庭になかなか普及しなかったため、昭和5年（1930年）に天王寺公園にラジオ塔を初めて設置され、これを皮切りに全国に設置されました。 大浜公園には昭和8年（1933年）に設置され、本体は大浜公園プール南側に展示しています。平成23年（2011年）4月1日にラジオ塔レプリカを大浜公園内中央広場に設置、音響設備を内蔵し1日に6回音楽を流しています。		
施設の形態的特徴	高さ3.3m、幅2.5m、奥行1.7m 素材：鉄筋コンクリート		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	大浜公園は堺旧港に隣接し、園内には歴史・文化的な遺産も数多く残されています。 この施設は園内に説明板とともに展示しています。 レプリカでは毎朝6時30分からラジオ体操第1、6時35分にはラジオ体操第2を流しており、市民が集いラジオ体操が行われています。		

【施設写真】



ラジオ塔 原物



ラジオ塔 レプリカ



ラジオ塔 周辺



ラジオ塔 説明看板

モニュメント(東と西の接点)(ザビエル公園(戎公園))

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国際交流に係る公園施設		
施設の所在地	大阪府堺市堺区櫛屋町西1丁地内	施設設置年月日	昭和46年(1971年)3月18日
施設整備の経緯	ヨーロッパの西の果てに位置するポルトガルとアジアの東の果てに位置する日本との出会いをテーマとしてポルトガルの彫刻家ジョルジ・ヴィエイラ氏が昭和44年(1969年)に作成し昭和45年(1970年)の日本万国博覧会のポルトガル館に出展していたものを堺市より石燈籠と交換寄贈されたものです。		
施設の形態的特徴	高さ1.87m、幅5.66m、奥行1.6m 素材：鉄製		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	この公園は旧環濠内にあり、日比屋了慶や千利休の屋敷跡にも近い立地で、本市の歴史資産の集積するエリアです。公園そのものも聖フランシスコ・ザビエル芳躰の碑をはじめとする多くの歴史的な記念碑とともに展示されています。		

【施設写真】



モニュメント(東と西の接点) 説明板



モニュメント(東と西の接点) 正面



モニュメント(東と西の接点) 説明板



モニュメント 背面

服部緑地「都市緑化植物園と円形花壇」(服部緑地)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	大阪府豊中市服部緑地1番1号	施設設置年月日	都市緑化植物園 昭和58年（1983年）9月22日（竣工式） 円形花壇 昭和34年（1959年）9月（竣工）
施設整備の経緯	「第1回全国都市緑化フェア」の開催のため、都市緑化植物園の整備、西中央広場、円形大花壇、レストハウス周辺、野外ステージなどの整備を行い、昭和58年（1983年）9月23日から11月23日までの2か月間で148万人の来園者があった。 都市緑化フェアを契機として再整備を行った「円形花壇」は、昭和34年（1959年）に皇太子御成婚の慶事（現上皇陛下）があり、記念事業として本緑地内に花壇を設けることになった。回転花壇を中心とする直径約170mの大円形花壇で、昭和37年（1962年）皇太子御夫妻御来阪の折、親しく御視察いただいた。 「都市緑化植物園」は都市周辺および市街地内の緑が急速に失われつつある現状を打開するため、より緑豊かな都市づくりを目指すために都市の民有地の緑化推進を積極的に図り、都市住民の緑化への理解と積極的な参加を求め、都市住民に対する緑化の普及・啓発・相談などの場とすることを目的としている。		
施設の形態的特徴	都市緑化植物園 約6ha（椿山（600種）、ハーブ園、ロックガーデン、生垣見本園（ラビリンス）、庭園見本園（11ヶ所）、四季の庭、郷土の森、紅黄樹見本園、針葉樹見本園、街路樹・法面緑化見本園、芝生広場、花壇、試験苗圃場、養生温室、駐車場、エントランス広場、池） 円形花壇（面積：17,671㎡、直径：170m）、回転花壇（直径 12m）		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	昭和3年（1928年）、大阪府総合都市計画に位置づけられたのを契機に、昭和16年（1941年）、大阪都市計画緑地第1号服部緑地として、鶴見緑地、久宝寺緑地、大泉緑地の3緑地とともに計画及び事業決定され、防災緑地として整備を行った。戦後、緑地として存続することとなり、昭和24年（1949年）から府民リクリエーション場としての整備に着手した。昭和58年（1983年）に「第1回全国都市緑化フェア」を開催し（昭和58年（1983年）9月23日から11月23日）、10月7日のオープニングセレモニーでは皇太子殿下ご夫妻（現上皇陛下）の行啓もあり、開催期間の2か月間で148万人の来園者があった。		

【施設写真】



後方支援活動拠点の運動施設(久宝寺緑地)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：後方支援活動拠点		
施設の所在地	大阪府八尾市西久宝寺323	施設設置年月日	昭和46年（1971年）4月
施設整備の経緯	阪神・淡路大震災（平成7年（1995年）1月17日）の経験を踏まえ、平成9年（1997年）3月に改訂された大阪府地域防災計画において、避難者を救助するための場所の確保の視点から自衛隊・消防・警察などの広域応援部隊の活動の場として、新たに設けられた後方支援活動拠点到都市公園が位置づけられた。久宝寺緑地は広域避難場所（当時は広域避難地）と後方支援活動拠点の両方の指定を受けた。		
施設の形態的特徴	後方支援活動拠点としては、消防エリアとして野球場（1.4ha）、警察エリアとして第2駐車場（0.8ha）、自衛隊エリアとして陸上競技場（2.1ha）、また、臨時ヘリポートとして軟式野球場（1.5ha）などを確保しており、広域避難場所としては、約17.9haの広場を確保している。現在、中河内地域の緑地空間の確保、後方支援活動拠点と広域避難場所の拡充のため、東地区9.7haの事業認可を取得し整備を進めており、令和5年6月現在3.4haを追加開設した。（久宝寺緑地全体：都市計画決定面積48.1haに対して、41.8haを開設）		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	昭和16年（1941年）、大阪都市計画緑地第3号久宝寺緑地として、服部緑地、鶴見緑地、大泉緑地の3緑地とともに計画及び事業決定され、防災緑地として整備を行った。戦後、緑地として存続することとなり、昭和44年（1969年）から公園の整備に着手した。大阪府の東部地域におけるプール、野球場、陸上競技場など府民のだれもが参加できるスポーツ施設を中心に、樹林地、芝生広場、児童遊戯場などのレクリエーション施設を備えた公園として年間約200万人の方々に親しまれている。また、後方支援活動拠点として自衛隊による訓練も実施されるなど、日ごろから大規模災害への備えを行っている。		

【施設写真】



自衛隊救援活動訓練
（軟式野球場）



自衛隊救援活動訓練
（陸上競技場）



自衛隊救援活動訓練（駐車場）



東地区の整備

第一期開園地区 園路・広場(淀川河川公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	国営公園制度		
施設の所在地	大阪府寝屋川市太間町 他	施設設置年月日	昭和48年（1973年）7月
施設整備の経緯	淀川河川公園は、昭和39年（1964年）の東京オリンピック開催を契機に高まった国民の体力づくりへの意識を踏まえ、一方で都市の過密化が進んでいたことから、河川整備に伴ってできた河川敷の有効活用の視点もあわせ、昭和47年度（1972年度）から国営としては初の河川公園事業として整備が進められている公園である。事業開始当初、第1期計画の対象とされたのは、堤外地がすべて官地である三川合流部から毛馬までであり、そのうち河川改修工事によって高水敷が整備されていた3地区（太間地区、八雲地区、外島地区）で事業着手され、昭和48年（1973年）7月に部分的に供用開始した。その後、順次整備が進められ、令和4年度（2022年度）末時点では、40地区、241.2haが供用している。		
施設の形態的特徴	淀川河川公園事業の目的は、広大な河川敷、豊富な動植物等の自然環境を活かし近畿圏の広域レクリエーション需要に対応するとともに、河川空間を広域緑地系統の骨格として活用することである。園路は当初の整備段階より主要な施設として位置付けられ、利用者と自然のふれあい及び上下流の人々の交流を円滑に進めるために全川に縦貫させるものとされていた。最初に供用開始した3地区のうち、最も面積の大きい太間地区（面積11.7ha）においては、遊歩道1,297mが整備されている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	整備及び管理運営において、利用者や利用団体、地域住民、学識経験者、地元自治体等が参加する地域協議会を設置し、地区ごとの特性に応じた計画の検討や整備及び管理運営を行うための協議を行っている。 園路は近隣住民の散歩やジョギングで日常的に利用されており、グラウンドや広場では広大なスペースを利用した多様なイベントが数多く催され、最近では令和7年度（2025年度）の関西・大阪万博に向けて、緊急船着場を利用した舟運事業と連携したイベントの開催が行われている。		

【施設写真】



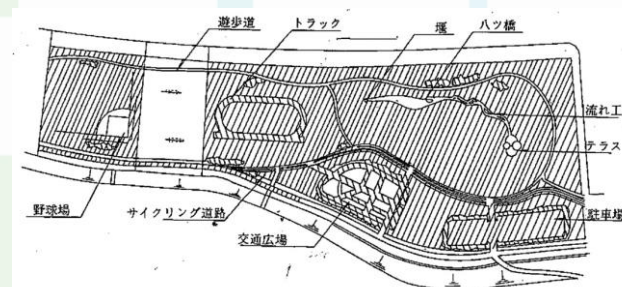
太間地区の全景



太間地区の園路からナノハナを鑑賞する利用者



太間地区に隣接する点野野草地区の園路



事業着手当初の太間地区の計画平面図

花園ラグビーの日制定記念モニュメント(東大阪市花園中央公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設 国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	大阪府東大阪市松原南1-1-1	施設設置年月日	令和2年(2020年)12月23日
施設整備の経緯	全国の高校生ラグーマン・ラグビーファンから【聖地花園】と呼ばれ、憧れの地となっている東大阪市花園ラグビー場。 アジアで初、ラグビー伝統国以外で初の大会として世界中の注目を集めた、ラグビーワールドカップ2019日本大会が2019年9月から11月にかけて全国12都市で開催された。 花園ラグビー場では、計4試合が行われ、のべ85,352人の観客が来場し、大いに盛り上がった。大会の成功を記念するとともに「ラグビーのまち東大阪」のシンボルである花園ラグビー場が、ラグビーワールドカップ2019日本大会が行われた世界に誇るスタジアムであることを多くの人に知ってもらい、また市民のラグビーに対する関心・理解を深め、ラグビーのまちへの愛着をより一層もってもらうことを目的として、花園ラグビー場で初戦が開催された9月22日を『花園ラグビーの日』と制定し、記念モニュメントを建立した。 モニュメントは花園ラグビー場のシンボルであるメインゲート「スクラムスクリーン」のすぐ脇に令和2年12月23日に設置された。 設置に際しては、上記の設置目的に賛同いただいた地元企業より寄贈いただいた。		
施設の形態的特徴	モニュメントは、ラグビーワールドカップ2019日本大会のロゴが入ったラグビーボール型のものに加え、花園ラグビー場で行われたワールドカップ計4試合の対戦カード、得点、日付、観戦者数が書かれた戦績プレートを含む計6基が設置されている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	モニュメントは「ラグビーのまち東大阪」のシンボルである花園ラグビー場が、ラグビーワールドカップ2019日本大会が行われた、世界に誇るスタジアムであることをこの地に訪れるすべての人に知ってもらい、また、市民のラグビーに対する関心・理解を深め、ラグビーのまちでの愛着をより一層もってもらうことを目的としている。		

【施設写真】



防災施設(仮設トイレ等)(神戸震災復興記念公園(みなとのもり公園))

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施策名称：防災公園街区整備事業		
施設の所在地	兵庫県神戸市中央区小野浜町	施設設置年月日	平成25年（2013年）6月1日 （整備スタートは平成13年（2001年）11月）
施設整備の経緯	平成12年（2000年）2月に「阪神・淡路大震災記念プロジェクト」として国の復興特定事業に認定され、平成13年（2001年）11月の神戸市公園緑地審議会の答申に基づき防災公園街区整備事業として整備をスタートさせた。震災の経験や教訓を後世の人々に継承していき、将来にわたってつくり続ける公園を目指すことを方針としている。複数回にわたる市民ワークショップを実施し、実際に震災時に足りなくて困ったという仮設トイレの整備や備蓄倉庫、災害時に避難所となる芝生広場などを計画・整備した。		
施設の形態的特徴	①災害用仮設トイレ：全62基、污水管直結型、テントや組み立て式便座（洋式）を保管 ②芝生広場 約13,000㎡ ③ソーラー・風力照明灯：全5基、風力と太陽光のハイブリッド発電によるLED20wの照明灯 ④地下貯水槽：芝生広場下に200㎡のタンクを設置 ⑤非常用自家発電装置：地下タンクに軽油3000ℓを貯蔵。公園内照明灯・電源の3日分を供給できる		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	市民と協働で「つくり」「育てる」公園として、整備計画段階より市民ワークショップを実施し、市民意見を取り入れた公園となっている。開園後も「みなとのもり公園運営会議」が結成され、月1回で会議が開催されている。防災施設についても、運営会議内に防災部会が結成されており、実際に防災施設を使ってみるなど、非常時に防災施設が使えるような取組が実施されている。		

【施設写真】



災害用仮設トイレ



災害用仮設トイレ



芝生広場



ソーラー・風力照明

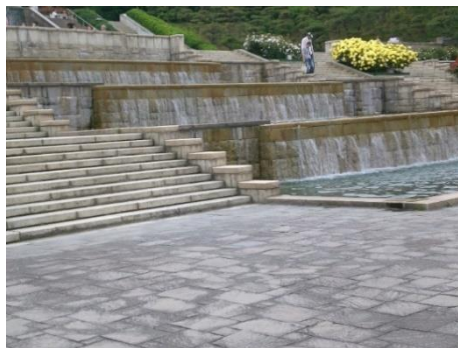
キャナル・カスケード(須磨離宮公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：米軍に接收され、返還に伴い整備された公園		
施設の所在地	兵庫県神戸市須磨区東須磨1-1 ほか	施設設置年月日	昭和42年（1967年）5月 （着手は昭和33年（1958年）4月）
施設整備の経緯	公園の前身は、大正3年（1914年）に造営された皇室の別荘「武庫離宮」であり、昭和20年（1945年）に神戸空襲で御殿などが焼失するまでの30年間、大正天皇などに利用されてきた。戦後、進駐軍に接收されたのち、昭和31年（1956年）に神戸市へ返還された。そして、昭和33年（1958年）に当時皇太子であった上皇陛下のご成婚記念事業として整備が始まり、昭和42年（1967年）に正式に開園した。正門や園路の一部は武庫離宮の遺構を残した整備を行っており、中央のキャナルは武庫離宮にちなみ、日本の皇室をはじめ世界の王侯貴族の名を冠した品種のバラ園となっている。		
施設の形態的特徴	・キャナル（9,000×6,000） ・カスケード（およそ 高さ4,200×幅15,700×長さ21,200）花崗岩板張		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	離宮公園は、バラをはじめ梅やもみじなど1年を通して商物を楽しむことができる。特にキャナルのバラ園は、見ごろとなる5月・10月に多くの人が訪れ180種4,000株のバラを楽しんでいる。また、バラガイドやキャンドルイベントなどのイベントも実施されている。		

【施設写真】



カスケードから望むキャナル



カスケード



キャナル



カスケード

姫路地区【第1期】共同福利施設事業碑(浜手緑地白浜地区(通称 新開公園))

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：公害及び災害の緩衝、地域緑化及び市民の憩いの場		
施設の所在地	兵庫県姫路市白浜町甲912-1外	施設設置年月日	昭和46年（1971年）3月
施設整備の経緯	（昭和45（1970）年度公害白書より抜粋） 土地利用の合理的利用に関連し、市街地の環境を保全するため、公害発生源地域と一般市街地の間に緩衝地帯として、公害の防除、災害の防止に資する緩衝緑地を設ける必要がある。建設省は、公害防止に関する国の助成策の一環として、都市計画上から要請される緩衝緑地の整備に対し、昭和43年度から都市計画事業の中の都市公園事業費の一部として国庫補助を行ない、完成後、地方公共団体が譲り受け、都市公園として開設することを前提に公害防止事業団が都市計画法第59条第5項の認可を受けて緩衝緑地造成事業として事業を実施している。なお、昭和44年度（1969）年度までに国費4億6,500万円をもって市原市、四日市市の事業を完成したほか、赤穂市、徳山市、姫路市の3市について事業を進めてきた。昭和45年度（1970）年度は前年度より継続の赤穂市、徳山市、姫路市のほか、新規に神栖町(茨城県)、四日市市を追加し、合計5か所において国費2億8,000万円をもって事業を実施した。		
施設の形態的特徴	四辺形（上辺1400mm、下辺1820mm、左辺1200mm、右辺1280mm）、石造台座付き（台座に1020mm×500mmの碑文埋込）		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	臨海工業地帯と住宅地を一定幅で分断する緑地を造成する目的で作られた公園。公園内には、大型遊具や幼児用遊具などがあり、広大な芝生広場でのボール遊びなどさまざまな楽しみ方ができる。主な施設は複合遊具、大型遊具、幼児用遊具、健康遊具、芝生広場、休憩施設、テニスコート、ソフトボール場、駐車場2箇所、トイレなど。		

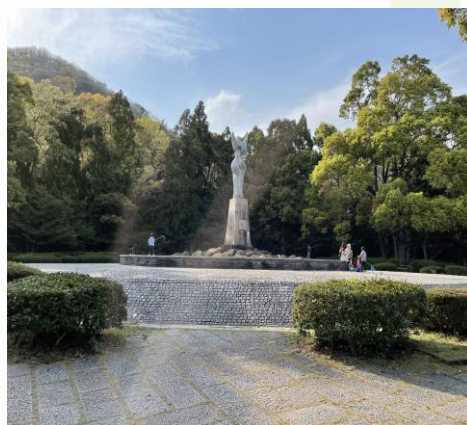
【施設写真】



愛の像(甲山森林公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：明治百年記念森林公園		
施設の所在地	兵庫県西宮市甲山町43	施設設置年月日	昭和48年（1973年）4月15日
施設整備の経緯	県政100年並びに明治百年記念森林公園の象徴として、公園の中心部に記念碑「愛の像」を建てることとした。当時、記念事業にふさわしい優秀なデザインにしたいとの思いから、そのデザインを兵庫県出身の彫刻家に依頼した。100年の歴史性を暗示する道を示した延長360mのシンボルゾーンを併せて整備し、その西側に位置する記念広場に「愛の像」を設置した。		
施設の形態的特徴	大きさ：地上8.6m（台座4.0m、本体4.6m） 素材（本体）：白大理石（山口県産） 素材（台座）：赤御影石（ポルトガル産） デザイン者：彫刻家 新谷秀夫 台座には坂井知事の揮毫によって「愛」の文字が刻まれている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	昭和48年（1973年）4月の開園式には、国や地元国会議員、県・市議会議員、阪神間の市町長、市内小・中・高等学校長など、総勢600名の方々が参加した。毎年行われる「はるまつり」では、「愛の像」のあるシンボルゾーンを中心にして、イベントが開催されている。		

【施設写真】



賞月亭(緑ヶ丘公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国際交流に係る公園施設		
施設の所在地	兵庫県伊丹市緑ヶ丘1丁目50（緑ヶ丘公園下池内）	施設設置年月日	平成2年（1990年）年11月8日
施設整備の経緯	昭和60年（1985年）に伊丹市と中国広東省佛山市が国際友好都市の提携をし、末永い国際友好のために提携5周年及び伊丹市制50周年を記念して、佛山市から伊丹市へ寄贈されたもので、平成2年（1990年）に完成した。		
施設の形態的特徴	亭は、日本の「あづまや」にあたる中国の伝統的な建築物であり、佛山市の中山公園にある迎春亭をモデルにしたもので、水面からの高さ9.2m、一辺4mの六角形の建物で、長さ15mの曲折した橋で岸と結ばれている。屋根をふく金色の「るり瓦」や床に使われる御影石、欄干部の白色大理石などはすべて中国から運ばれ、中国人技術者により組み立てられている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	下池の真ん中に位置し、池全体を眺めることができるため、主に池の展望や休憩のために利用されている。そのため、バードウォッチや休憩等、市民の憩いの場として親しまれており、毎週火曜日と木曜日の9:00～15:00に開放している。		

【施設写真】



テラスガーデン(国営明石海峡公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	国営公園制度		
施設の所在地	兵庫県淡路市夢舞台8-10	施設設置年月日	平成14年（2002年）3月21日
施設整備の経緯	国営明石海峡公園の一部（約50ha）は、国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000」の会場としても活用され、当該施設は博覧会時から、公園の供用後まで継続的に利用されている施設である。 平成5年（1993年） 国営明石海峡公園事業化 平成12年（2000年）3月18日～9月17日 国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000」開催 平成14年（2002年）3月21日 国営明石海峡公園の第一期供用に合わせて、当該施設も供用開始		
施設の形態的特徴	「月のテラス」「空のテラス」「天壇テラス」「陽だまりの丘」などからなるテラスガーデンは、様々な国と地域からの石材を活用し整備されている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	起伏ある地形をいかし、素晴らしい景観を楽しむことが出来る。 施設そのものの博覧会らしく、世界各国からの石材、木材により構成されている。		

【施設写真】



博覧会開催時のテラスガーデン



博覧会開催時のテラスガーデン



博覧会開催時の空のテラス



現在の空のテラス

タコ遊具(大洲池公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：児童の遊び場		
施設の所在地	奈良県奈良市中山町西1丁目	施設設置年月日	昭和59年（1984年）
施設整備の経緯	昭和期、空き地や原っぱの減少に伴い公園に遊び場が移行する中、子どもたちの想像力をかき立て、楽しむことのできる公園施設として整備された。		
施設の形態的特徴	大きさ：12 m×15 m, H=5 m 素材：コンクリート デザイン：タコの造形をした遊具		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	すべり台を主としながら秘密基地のような構造を併せ持つ当該施設は、地域の象徴的な公園施設として親しまれている。		

【施設写真】



甘樫丘展望台(国営飛鳥・平城宮跡歴史公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	国営公園制度		
施設の所在地	奈良県高市郡明日香村豊浦788	施設設置年月日	昭和55年（1980年）4月1日
施設整備の経緯	国営飛鳥歴史公園は、わが国古代の政治と文化の中心として栄えた飛鳥地方において、その豊かな自然と文化的遺産の保存・活用を図るための施策の一環として、昭和45年（1970年）の閣議決定により国が整備することとされ、祝戸地区、石舞台地区、甘樫丘地区の整備が進められた。甘樫丘展望台は、飛鳥古京・大和三山を望む展望広場として甘樫丘地区内に整備され、昭和55年（1980年）4月に供用開始された。		
施設の形態的特徴	甘樫丘は蘇我蝦夷・入鹿の邸宅があった場所とされている。甘樫丘展望台は丘の北側頂上標高148mに位置し、遠く金剛山系から大和三山、眼下には飛鳥古京の集落や藤原京跡をはじめ、大和国原の美しい風景を望むことができる。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	飛鳥地方への観光客の眺望スポットや地元住民の散歩・散策コースとして親しまれている。春のソメイヨシノの開花時期には花見の来園者で賑わう他、校外学習の児童も訪れる。		

【施設写真】



春の甘樫丘展望台



校外学習の場としての利用



大和三山耳成山への眺望



飛鳥古京への眺望

交通公園(和歌山交通公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：交通知識の習得		
施設の所在地	和歌山県和歌山市西18番地1	施設設置年月日	昭和50年（1975年）
施設整備の経緯	交通安全の指導を目的とする教育施設として、和歌山県内で初めて整備された。		
施設の形態的特徴	供用面積：18,200㎡		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	・道路・横断歩道・グリーンベルト・交通信号機・各種道路標識等により、四季の街を造形している。 ・子ども用自転車と乗車用ヘルメットの貸出（無料）を行っている。 ・幼児、小・中学生から高齢者、交通安全指導者を対象に、参加・体験型の交通安全教育を行っている。 ・初心者用の自転車乗り方教室を開催している。 ・バッテリーカーを貸出している。		

【施設写真】



中国庭園燕趙園(東郷湖羽合臨海公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国際交流に係る公園施設		
施設の所在地	鳥取県東伯郡湯梨浜町引地565番地1	施設設置年月日	平成7年（1995年）7月30日
施設整備の経緯	燕趙園は鳥取県と中国河北省の友好提携5周年を記念し、友好のシンボルとして約4年の年月をかけ、平成7年（1995年）に完成した。（建設までの経緯） 昭和61年（1986年）6月 鳥取県・河北省友好県省締結書調印 平成 3 年（1991年）6月 友好県省提携交流促進覚書調印（中国庭園建設への協力） 平成 4 年（1992年）4月 中国庭園設計視察団の意見を参考に建設場所を決定。 三方を山に囲まれ、しかも正面に美しい東郷池を望むという中国庭園に理想的な立地を中国人視察団が評価された。 平成 5 年（1993年）6月 工事着手 平成7年（1995年）7月 完成（7月30日開園）		
施設の形態的特徴	総面積約10,000㎡。 燕趙園は、設計から素材の調達、加工まで中国で行われた本格的な中国庭園である。 例えば、黄色の瑠璃瓦は山西省で焼いたもの、橋の欄干などに使用している漢白玉石や築山などに使用している約3千トンの自然石は河北省の燕山山脈から切り出したもので、建物は一度中国で仮組みしたものを解体した上で、船で境港に運び、再度、中国人技術者の指導を受けながら建設するなど、あくまでも中国にこだわった庭園である。 また、中国歴代の皇帝が造り親しんだ宮廷の庭園を再現しており、屋根には皇帝しか使用できない黄色の瑠璃瓦を使用し、建物には、中国人彩画師により描かれた皇帝を象徴する5本の爪の龍をはじめとする 2 千を超える彩画が施されている。その他、重さ9トンの燕趙門前の雌雄1対の獅子像、中国独特の技法で造られた石組、龍の雄姿を思わせる臥龍廊など燕趙園28景は本場の中国庭園を彷彿とさせる。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	鳥取県中部地域の観光拠点として、中華コスプレ大会をはじめ、中国庭園を活かした様々なイベントが定期的に催され、県内外から来園者がある。 地元の団体や学校と連携し、地元の伝統芸能の披露やイベントも開催している。		

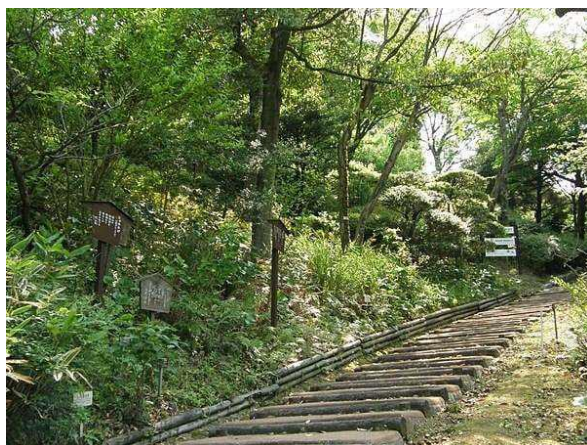
【施設写真】



万葉植物園(島根県立万葉公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：地域活性化		
施設の所在地	島根県益田市高津町	施設設置年月日	昭和57年（1982年）
施設整備の経緯	現存する最古の歌集「万葉集」に詠まれている歌の約1割が、8世紀初頭に石見地方に住んでいたとされる歌聖柿本人麻呂の作品であるといわれている。万葉集ならびに柿本人麻呂は石見地方における古代文化の象徴とされてきたことから、島根県では万葉ロマンをより広く伝え、石見神楽など郷土芸能に接する知的レクリエーションの場として、柿本人麻呂ゆかりの地である益田市に万葉公園を整備することとした。		
施設の形態的特徴	今回、申請を行う「万葉植物園」は、植物を媒体として万葉歌に親しむ場として公園開設時に整備された施設で、万葉集に詠まれている植物（万葉植物）が約160種生息しており、万葉ロマンを感じさせる自然を生かした植物園となっている。園内には、四世紀から八世紀にかけて天皇・貴族から庶民に至るまで幅広く詠まれた長歌・短歌・旋板歌を紹介する歌板が多数設置されている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	植物園は高津柿本神社に隣接し、鎮守の森の古い木々に囲まれた静かな場所となっている。園内の散策道は舗装されており、市民が気軽に散策しながら万葉歌に親しむことができる施設となっている。隣接する和風休憩所にも万葉集、人麻呂、万葉植物が展示され、やすらぎの家では、抹茶などを楽しみながらくつろぐことができる。		

【施設写真】



第17回国体記念碑(岡山県総合グラウンド)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	岡山県岡山市北区いずみ町 2 - 1	施設設置年月日	昭和37年（1962年）12月21日
施設整備の経緯	第17回国民体育大会（昭和37年（1962年））の開催を記念し設置された石碑。		
施設の形態的特徴	高さ180cm×幅180cm×奥行70cm で岡山県でしか取れない万成石で作られている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	岡山駅のある南東側から園内に入ると、本記念碑が見えてくる。第60回国民体育大会（平成17年（2005年））の記念碑、全国高等学校総合体育大会（昭和52年（1977年））の記念碑も近接して設置されており、岡山で開催された大会の歴史を感じられるエリアとなっている。		

【施設写真】



第17回国体記念碑



第17回国体記念碑



第60回国体記念碑



高校総体記念碑

はらっぱ広場(西大寺緑花公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	岡山県岡山市東区西大寺南1丁目2番3号	施設設置年月日	平成22年（2010年）4月1日
施設整備の経緯	平成19年（2007年）「まちの賑わいを創出する」をテーマに、水と緑と花の豊かな風格のあるまちの顔と核となる空間、また地域の防災に資する空間をつくり、地域の様々な参加活動の場となる公園として事業着手した。平成21年（2009年）に「第26回全国都市緑化おかやまフェア」主会場として使用された後、体験学習施設を備えた都市公園として供用開始した。はらっぱ広場はその際に整備された施設の一つである。		
施設の形態的特徴	はらっぱ広場は園内東に位置しており、北側は園路広場として地下に耐震性貯水槽を備えた芝生の広がる5,100㎡の広場、南側は修景施設として小川の流れるせせらぎ、林床花壇となっている。せせらぎは園路を大きく囲う様に水路が巡り、グネグネと蛇行しながら水路幅が変化しており小川、池といった様々な水辺空間が広がる水景施設である。周辺には10種類以上の植栽、橋・東屋といった公園施設が配置されている。水路には第26回全国都市緑化おかやまフェア開催を記念して寄付された、大阪城・岡山城にも使用されている犬島産花崗岩である錆石を用いており、雨にぬれると大変美しい赤色光に輝く。サルスベリ・シダレヤナギ等の植栽と一体化となってせせらぎの流れる憩いの水辺空間が広がっている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	緑と水のせせらぎが調和した空間が広がっており、市民の憩いの場として利用されている。ベンチでせせらぎを聞きながら会話する利用者や、四季折々の植物の様子を見に来る利用者、虫や鳥などの生き物を探す子どもたちの姿も見られる。また災害時には延焼遅延機能を持つ緑地や徒歩可能な半径1km圏内の被災者を想定した飲料水専用の耐震性貯水槽が、園内の他の施設と合わさって公園全体で避難地として機能するよう整備されている。		

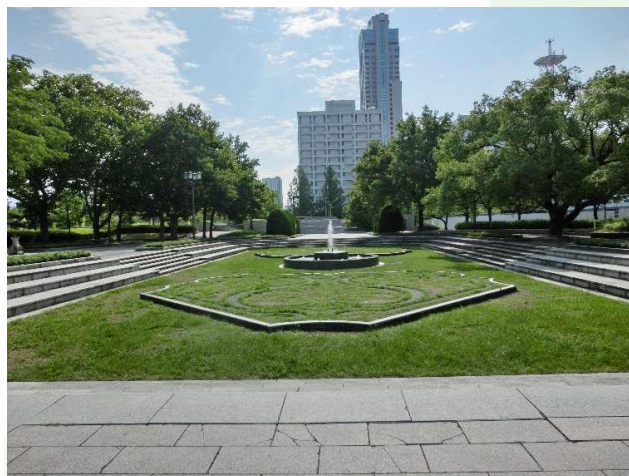
【施設写真】



ハノーバー庭園(中央公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国際交流に係る公園施設		
施設の所在地	広島県広島市中区基町5番	施設設置年月日	昭和56年（1981年）3月
施設整備の経緯	昭和54年（1979年）にシュマルシュティーク市長（当時）を団長とするハノーバー市親善使節団が来広された際、同市長より、両市の友好のシンボルとして庭園のデザインと花木を提供したいとの申し出があり、広島市において設置場所を検討した結果、両市の交流の原点である青少年の文化やスポーツの拠点、中央公園がふさわしいとの結論に達し、青少年センター、こども文化科学館、ファミリープール等の施設が集まるエリアが選ばれ、昭和56年（1981年）3月に完成した。		
施設の形態的特徴	花壇の様子は、ハノーバー市を代表する観光名所である「ヘレンハウゼン庭園」の一部を模してデザインされ、植え込みには同市から贈られた3千本あまりのツゲが用いられました。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	昭和56年（1981年）3月に完成したハノーバー庭園は、四季折々に美しい表情を見せ、市民の憩いの場として、あるいはイベント会場として多くの人に親しまれる存在となりました。		

【施設写真】



ひばの里(国営備北丘陵公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	国営公園制度		
施設の所在地	広島県庄原市三日市地内	施設設置年月日	平成7年(1995年)4月
施設整備の経緯	備北丘陵公園は、中国山地の中央に位置し、たおやかな景観と風土をよく残しているため、これらを生かし、「ふるさと・遊ぶ」をテーマとして整備している。 ひばの里は、懐かしいふるさとを再現し、「ふるさとであそぶ」をコンセプトとして、ふるさとの景観の再現及びふるさとの暮らしを再現した「里山」を整備したもの。		
施設の形態的特徴	備北地方の風土に基づいた昭和初期の生活の再現を中心に、里山や家屋、田畑などがひとつの里として統合された景観を再現すると共に、当時の農作業や暮らしぶり、行事、工芸等の実演を行っている。 中の広場を「町」、屋敷や農家群、田畑は「村」、その先を「里」として位置付け、工房群はかくれ里としての「奥山」と位置付けている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	もちつき、竹の遊具づくり体験や昔ながらのわら細工等の手工芸体験を提供している。また、開園以来毎年たたら工房では「たたら鉄づくりイベント」を開催し県内外からの参加、神楽殿では神楽の舞を行い、演者側には伝統芸能の披露の場を提供し、また、見る側も伝統芸能の楽しみを演者と共有する等ひばの里を訪れる方々へ伝統を伝え続けている。		

【施設写真】



子供広場(東広島運動公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：皇太子殿下（今上天皇陛下）御成婚記念公園		
施設の所在地	広島県東広島市西条町田口67-1	施設設置年月日	平成5年（1993年）
施設整備の経緯	子供広場は、皇太子殿下の御成婚を記念して記念施設の整備事業として東広島運動公園内に整備された広場である。東広島運動公園は、本市のスポーツ振興の拠点施設として昭和60年（1985年）5月に都市計画決定され、これまでに、体育館・陸上競技場・多目的広場・ゲートボール場・テニスコート・スケートボード場・野球場などを整備し、市民のスポーツ・レクリエーション活動のほか、様々な競技会場として利用されてきた。		
施設の形態的特徴	子供広場（約7,000㎡）、複合遊具、砂場、スプリング遊具 その他の主要施設 体育館、陸上競技場（第2種公認）、多目的広場（約10,500㎡）、グラウンド・ゴルフ場（7,300㎡）、テニスコート（屋外9面、屋内3面）、スケートボード場、野球場（収容数約3,800人）、野球練習場、駐車場（247台）		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	東広島運動公園については、市民の憩いの場として、スポーツ・レクリエーション活動のほか、様々な競技会場として利用されてきた。休日には多くの子供連れが子供広場で賑わっている。		

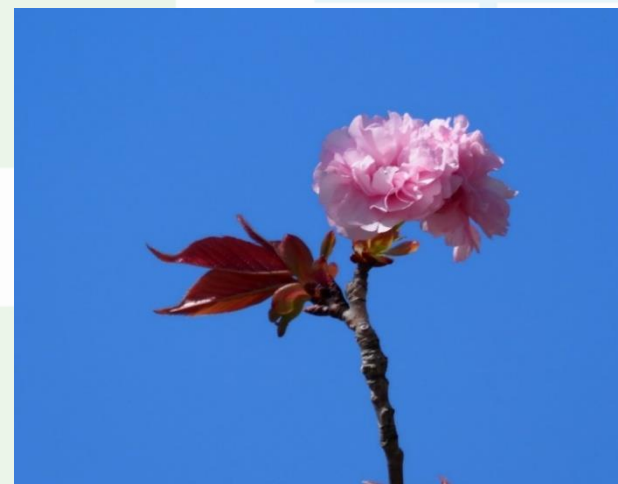
【施設写真】



都市緑化フェア記念植樹 せら桜(せら県民公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	広島県世羅郡世羅町黒淵518番地1	施設設置年月日	令和3年(2021年)3月
施設整備の経緯	第37回全国都市緑化ひろしまフェア「ひろしま はなのわ 2020」の開催記念のとして協賛会場となったせら県民公園に、豊かな花見の文化を発信していく立派な桜になるようにと願い、植樹された一本桜です。		
施設の形態的特徴	一本桜の周辺には、「ひろしま はなのわ 2020」で設置されたヒョウモンモドキブランコの座板を再利用したヒョウモンモドキのチェアが配置されており、毎年4月の下旬ころにはこのチェアでくつろぎながら桜の様子を鑑賞することができます。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	当桜は、一本桜への愛着度や認知度の向上を目的として、愛称を募集し、公園でくつろく人々の夢をそっと見守る桜になってほしいとの願いを込めて「せら桜(せらら)」と命名されました。当施設は公園内ののんびり広場に設置されており、公園利用者の憩いの場となっています。		

【施設写真】



日和山公園の広場(日和山公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：戦前の都市公園の風致・市民のレクリエーション		
施設の所在地	山口県下関市丸山町五丁目	施設設置年月日	大正11年(1922年)2月14日
施設整備の経緯	日和山公園は大正天皇御即位記念の市設公園です。日本の公園の父、本多静六林学博士が設計した、下関市の第1号の公園です。関門海峡の素晴らしい景観が眼下に開けています。往時の風致及び市民レクリエーションのための施設の面影が残る広場です。昭和35年度（1960年度）に園路を整備以降、随時改良整備を行いました。		
施設の形態的特徴	日和山公園は市内中心部の丘陵地にあり、関門海峡が一望できる公園です。公園の面積は11,745㎡で公園の広場にはソメイヨシノやツツジなどの花木や「大正天皇即位記念日和山公園碑」捕鯨に関する「岡十郎・山田桃作顕彰碑」などがあり、幕末から近代の下関の歴史が凝縮されています。中でも山頂にある、海峡を眺める高杉晋作の陶像は公園のシンボルとなっています。また、当公園は日和山風致地区内に位置しており、開設時当時の面影を残しています。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	この公園は古くからサクラの名所として、市民に親しまれている公園です。関門海峡を行きかう無数の船舶を一望しながら花見をする市民が多くいます。 山頂には高杉晋作の陶像があります。昭和11年（1936年）に建設され、昭和31年（1956年）4月に備前焼で現在の陶像碑ができました。高さ4.5mの陶像碑は海峡を睥睨してひときわぬきんでいるように見え、市民に広く認知されています。		

【施設写真】



火の山公園トルコチューリップ園『オルハン・スヨルジュ記念園』(火の山公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国際交流に係る公園施設		
施設の所在地	山口県下関市みもすそ川町	施設設置年月日	平成21年（2009年）4月3日
施設整備の経緯	下関市とトルコ共和国イスタンブール市は海峡が縁で昭和47年（1972年）5月16日に姉妹都市となりました。そこで平成19年（2007年）に35周年を記念して、イスタンブール市よりチューリップの球根5万球が下関市に寄贈されました。平成20年（2008年）10月に火の山公園山麓整備が始まり、平成21年（2009年）4月3日に火の山公園トルコチューリップ園を開園しました。開園式には、駐日トルコ共和国セルメット・アタジャンル全権大使をお招きいたしました。 また、イラン・イラク戦争時、テヘランに取り残された日本人215名を、自らの危険を顧みずに救出したイスタンブール市出身のオルハン・スヨルジュ元トルコ航空機長を顕彰するため、火の山公園トルコチューリップ園に『オルハン・スヨルジュ記念園』の名を通称名とし、命名記念碑を設置しました。		
施設の形態的特徴	下関市とイスタンブール市の姉妹都市締結35周年を記念して整備した同園は、トルコのボスポラス海峡沿いの斜面の木々の間に多くのチューリップが植えられていることにちなみ、関門海峡沿いの斜面に約80㎡のチューリップ園を展開しています。色とりどりのチューリップと桜、海峡のつくりだすコントラストになっています。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	平成21年（2009年）4月3日に火の山公園トルコチューリップ園が開園してから、下関市とトルコ共和国イスタンブール市の姉妹都市を記念し、毎年火の山公園トルコチューリップ園『オルハン・スヨルジュ記念園』では市民による、チューリップの球根植付ボランティア活動を実施しています。 例年、10月下旬にチューリップの球根約4万球を植え付けます。毎年多くの方がボランティアに参加していただいております。下関市の春を代表する風物詩として定着し、市民にはもちろん他県からも多くの方が来場し、景観を楽しんでいます。		

【施設写真】



記念塔・三段池(維新百年記念公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：明治百年記念森林公園		
施設の所在地	山口県山口市維新公園4丁目1-1	施設設置年月日	昭和59年（1984年）5月
施設整備の経緯	本公園は昭和42年（1967年）6月に建設省により、全国10箇所の「明治百年記念森林公園」のうちの1つに指定されたもので、維新における先賢の偉業をたたえ、子どもたちが将来に向かって大きく成長することに役立て、花とみどり太陽にはぐまれた施設を目指し建設された公園である。		
施設の形態的特徴	記念塔：鉄筋コンクリート製で高さが25m。真・善・美の三本柱を山口県の「山」の文字に形どって、天に向かって限りなく前進することを表現されている。 三段池：それぞれの面積は6.25×4.2、8.2×17.2、10.95×18.3であり、合計の面積は367.675㎡である。台形の形をした池が3つ並んでおり、入口から見て公園内へ誘引されるようなデザインをしている。また各池には噴水が備え付けられている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	記念塔及び三段池は本公園が供用開始された昭和48年当時から設置されており、本公園のシンボリックな存在となっている。さらに夜間はライトアップされ幻想的な雰囲気となり多くの市民から親しまれている。		

【施設写真】



梅園・バラ園(冠山総合公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施策名称：環境ふれあい公園事業		
施設の所在地	山口県光市大字室積村6288番地	施設設置年月日	平成6年（1994年）12月1日
施設整備の経緯	環境ふれあい公園事業により、自然とふれあい、集える場を提供し、また少子・高齢化の進展に伴い、幼児から高齢者まで広く利用できる公園として、四季を通じて花木が楽しめ憩える場として梅園やバラ園が整備された。		
施設の形態的特徴	山口県下最大規模の、約100種、約2,000本の梅を観賞できる梅園、全24サイトのオートキャンプ場などを備え、県内外から多くの人が訪れ、観光名所となっている。また、ローズガーデンには、約330種、約1,400本のバラが植えられ、バラのアーチでできたトンネルが60mほど続くロマンチックバラ回廊があり、性別や世代を問わず、多くの人々が訪れ、憩いとやすらぎを提供している。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	初春には梅まつり、春と秋にはバラ祭りなど、四季折々の花木を観賞する行事を行い、県内外から多くの観光客が訪れている。また、令和4年度（2022年度）には、指定管理者の株式会社ビークルーエッセ、株式会社リコー及びリコージャパン株式会社と共同で、冠山総合公園協働活動事業（冠リコーの森）に関する協定を締結し、官民連携した整備活動などを行っている。		

【施設写真】



ゆめ風車(永源山公園(愛称「TOSOH PARK 永源山」))

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国際交流に係る公園施設		
施設の所在地	山口県周南市大字富田字永源2356-3	施設設置年月日	平成7年(1995年)3月
施設整備の経緯	周南市合併前の旧新南陽市が平成2年(1990年)5月22日にオランダの旧デルフザイル市(現エームスデルタ市)と姉妹都市提携を行い、友好交流を進める中で、国際交流の「場」と「機会」を提供するとともに地域活性化を図るため建設された。オランダの職人によって組み立てられたもの。「ゆめ風車」のオープニングセレモニーは、当時のデルフザイル市長や音楽隊を招待し、盛大に開催された。		
施設の形態的特徴	エームスデルタ市に実際にある風車「AEOLUS(エオリス)」をモデルに、実際に粉をひける本格的八角形のバルコニー付きの風車。高さ24m、羽根の長さ24.66mは日本最大規模を誇る。 用途：粉ひき風車、1・2階展示室 種類：八角形バルコニー風車 本体高：24.0m 延床面積：131.79㎡ メカニズム 木及び鉄製(オランダ製) 羽根(オランダ製)：4枚羽 直径24.66m 石臼(オランダ製)：直径1.5m 2基 本体構造 鉄筋コンクリート造 地上7階 外壁：上部 アスファルトシングル葺き 下部 特注レンガタイル張り		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	ゆめ風車は永源山公園の山頂にあり、夜はライトアップされ遠方からもその姿を見ることができ、周南市のランドマークとして定着している。永源山公園では毎年「つつじ・ゆめ風車まつり」が開催されており、令和5年度(2023年度)は38回目を迎え、約4万人の来場者が訪れるイベントとなっている。また、風車のある山頂からの眺望もよいことから、日常的には市民のウォーキングコースやコミュニティ活動の場となっている。 風車の中の展示室には、姉妹都市のエームスデルタ市のあるフローニンゲン州の日常生活様式の展示や、ストリートオルガンが設置されており、令和5年(2023年)、12回目となる姉妹都市の青少年訪問団が訪れる等、両市の交流推進と日本、オランダ両国の友好発展に寄与している。		

【施設写真】



花博記念広場(新町川公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	徳島県徳島市かちどき橋1丁目	施設設置年月日	平成3年（1991年）3月
施設整備の経緯	平成2年（1990年）に大阪市で開催された国際花と緑の博覧会において、「新しい時代のかけ橋」をテーマにして、出展された庭園を復元したものです。		
施設の形態的特徴	記念石碑、自然石飛石、テーブル石、つくばい等		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	川の流を感じながらのんびりと過ごすことができる、県民の憩いの場所になっています。		

【施設写真】



戦災復興記念碑（高松市中央公園）

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	戦災復興土地区画整理事業		
施設の所在地	香川県高松市番町一丁目11番	施設設置年月日	昭和46年（1971年）
施設整備の経緯	戦災復興土地区画整理事業により整備された公園において設置されたもので、多難を極めた戦災からの復興事業の完成を記念し昭和46年（1971年）に設置された。		
施設の形態的特徴	高さ1.8m 幅2.5m 奥行1.0m 御影石		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	第2次世界大戦の空襲により被災し、この戦災を契機として都市基盤の一新を計るため区画整理事業が施工されたことを記念碑により市民に伝え継がれている。		

【施設写真】



グラススキー場(さぬき空港公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：スポーツ・レクリエーション		
施設の所在地	香川県高松市香南町由佐2953番地1	施設設置年月日	平成8年（1996年）9月8日
施設整備の経緯	多様化の傾向にあるスポーツ、レクリエーション、文化などの活動の需要に対応するため、平成8年（1996年）9月に高松空港の周辺施設であるさぬき空港公園内に整備され、現在、県内唯一のグラススキー場となっている。		
施設の形態的特徴	グラススキー場：全長200m、幅30m(最大74m)、高低差27m。 全面に天然芝が広がっている。グラススキーやポッカールを利用できる。 そりゲレンデ：全長35m、幅15m、高低差6m。人工芝を使用。そりを利用できる。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	・自然の中でグラススキーを楽しむことができ、年間に約2万人が訪れる。 ・グラススキー場は県内唯一であり、県内外を問わず多くのグラススキー愛好家に利用されている。 ・初心者、中級者、上級者の3コースに分かれており、初心者でも安心して滑走できる。 ・人工芝を使用したそり用ゲレンデは、子どもに人気を博している。		

【施設写真】



水の回廊(メインプロムナード)(瀬戸大橋記念公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：地域活性化		
施設の所在地	香川県坂出市番の州緑町6番地13	施設設置年月日	昭和63年（1988年）11月10日
施設整備の経緯	地域活性化への期待として、瀬戸大橋を象徴する施設として瀬戸大橋をかたどった噴水を整備しました。噴水を含めた公園整備により、公園を来訪する方が増大するとともに、夏場には噴水で遊ぶ子どもたちが多く来訪するなど、地域活性化に資する公園となっています。		
施設の形態的特徴	正面入口から瀬戸大橋記念館へと続く260mに及びメインプロムナードには、瀬戸大橋の吊橋や斜張橋をかたどった噴水が連なっています。そして、本州と四国の間に横たわる瀬戸内海に浮かぶ島々を敷石によって表しています。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	夏場、噴水は子どもの遊び場となっています。		

【施設写真】



ホッ！とステイまんのう(国営讃岐まんのう公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	国営公園制度		
施設の所在地	香川県仲多度郡まんのう町吉野4243-12	施設設置年月日	平成10年（1998年）4月18日
施設整備の経緯	当施設は国営讃岐まんのう公園基本方針の一つである「自然とのふれあい」及び当時のアウトドアライフ志向の増加に伴い整備されたものである。		
施設の形態的特徴	面積：18.2ha、キャビン：22棟、トレーラーハウス：1棟、キャンピングカーサイト：5サイト、一般カーサイト：59サイト、フリーサイト：15サイト		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	最大106家族を収容可能な四国最大級のオートキャンプ場であり、JAC 5つ星認定を受けている。場内にはファミリーや団体で利用できるキャビンや、カーサイト等が備わっており、多くの方々にご利用いただいている。また、車椅子等でもご利用いただけるようバリアフリー対応のキャビンも備わっている。		

【施設写真】



記念碑(愛媛県営総合運動公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	愛媛県松山市上野町乙46	施設設置年月日	平成30年（2018年）3月
施設整備の経緯	平成29年（2017年）秋、第72回国民体育大会「愛顔つなぐえひめ国体」が愛媛県で初めて単独開催されました。この記念碑は、さわやかな秋晴れの下、愛媛県営総合運動公園陸上競技場で行われた総合開会式にて、色鮮やかな芝生に選手団が入場してくときの情景を天皇陛下がお読みになったものです。えひめ国体が残した成果と感動が永く後世に語り継がれることを願い建立されました。		
施設の形態的特徴	石材。約2m（幅）×約1m（高さ） 総合開会式の情景を天皇陛下がお詠みになった歌「会場の緑の芝生色映えて えひめ国体の選手入り来る」が書かれている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	えひめ国体が残した成果と感動を永く後世に伝えるため、総合開会式が行われた陸上競技場前の広場に設置されている。		

【施設写真】



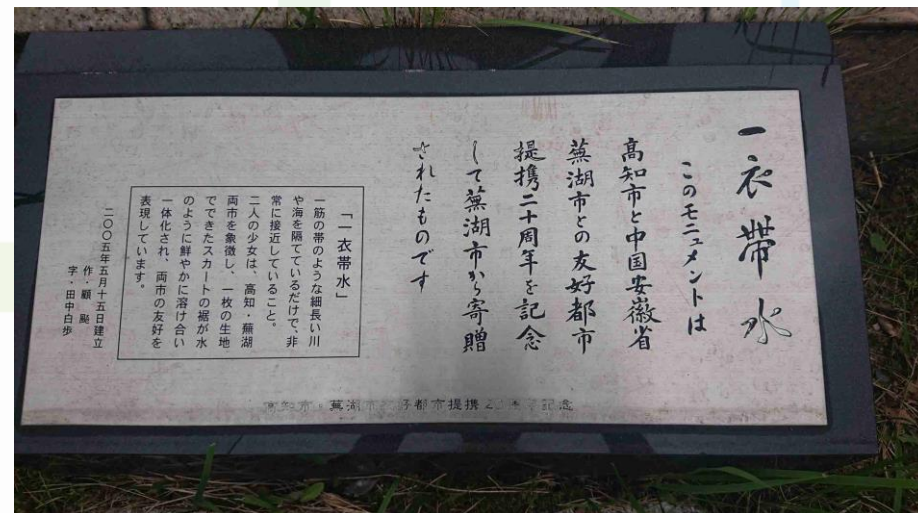
モニュメント「一衣帯水」(城西公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国際交流に係る公園施設		
施設の所在地	高知県高知市丸ノ内一丁目	施設設置年月日	平成17年（2005年）5月15日
施設整備の経緯	昭和60年（1985年）に高知市が蕪湖市（中国安徽省）と友好都市と締結。 平成17年（2005年）に締結20周年を記念して蕪湖市から寄贈。		
施設の形態的特徴	高さ：約3m 素材：自然石・鋳物 デザイン：二人の少女は、高知・蕪湖両市を象徴し、一枚の生地のできたスカートの裾が水のように鮮やかに溶け合い一体化され、両市の友好を表現している		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	多くの市民が散歩や休憩などの憩いの場としてモニュメントを設置している公園内の庭園「蕪湖園」を利用している。 モニュメントの前では、足を止め鑑賞や解説を読む市民の方もおられる。		

【施設写真】



モニュメントを設置している庭園「蕪湖園」



オートキャンプ場とまろっと(土佐西南大規模公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施策名称：オートキャンプ場		
施設の所在地	高知県四万十市下田3548	施設設置年月日	平成5年（1983年）7月1日
施設整備の経緯	・昭和47年（1972年）都市計画決定 ・平成5年（1993年）オートキャンプ場とまろっと完成		
施設の形態的特徴	四万十川河口付近の高台にあり、太平洋を臨める。 キャンプ場から、砂浜まで遊歩道がつながっており、海遊びができる。 キャビンサイト、テントサイト、シャワー棟、バーベキューサイトを設置、キャンプ用品の貸し出しも行っており、初心者でもキャンプを気軽に楽しめる。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	公園の近隣にはサーフスポットがあり、当施設でキャンプをしながらサーフィンをゆっくりと楽しむ方や、ペット連れの方が公園内のドッグランとあわせて利用していただいている。		

【施設写真】



園名板(清滝公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	市区改正条例		
施設の所在地	福岡県北九州市門司区元清滝1番ほか	施設設置年月日	大正5年（1916年）11月3日
施設整備の経緯	北九州市（旧門司市）第一号の都市公園として大正5年に開設された公園で、造園家の本多静六氏が手掛けた公園。 明治44年（1911年）、門司にお立ち寄りになられた明治天皇は、門司市（現門司区）に金五百圓を下賜されました。感激した門司市は、それを都市公園建設の基金の一部に充てることとし、東京農科大学（現東京大学農学部）の教授であった本多静六氏に設計を託すことにした。		
施設の形態的特徴	園名柱 高さ3m、0.5×0.5m 材質 自然石		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	開園当時の施設は、昭和28年（1953年）の水害により崩壊したが、今もなお、清滝の名にふさわしい清水のせせらぎを見ることができ、春は桜が楽しめ、市民の憩いの場所となっている。公園は風師山へ向かう企救自然歩道の入口付近に位置し、公園内の木々に覆われた遊歩道では、せせらぎを楽しみながら、登山への期待が膨らむ。		

【施設写真】



清滝公園遠景

100人ブランコ(響灘緑地(グリーンパーク))

登録基準

2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設

施設のテーマ：児童の遊び場

施設の所在地

福岡県北九州市若松区大字安屋ほか

施設設置年月日

令和元年（2019年）5月11日

施設整備の経緯

平成4年（1992年）に開園した響灘緑地グリーンパークは「水・緑・そして動物たちとのふれあい」を基本テーマにバラ園やカンガルー広場等の施設からなる市内最大の広域公園で、花の鑑賞や子どもの遊びを目的に、市内外から来園者が年間約40万人訪れています。開園から約30年が経過し、本公園内にあったアスレチック遊具エリア「冒険の森」の遊具の老朽化に伴い、新しい遊具エリア「子どもの遊び場エリア」整備事業を立ち上げ、インパクト性のある遊具の第1弾として、多くの子どもたちが訪れても、一度に乘れる「100人ブランコ」を整備しました。

施設の形態的特徴

総延長163m、直径 52m 座板100基（児童用 80基 幼児用 18基 ユニバーサル（椅子型） 2基） 素材：鋼製
ドーナツ状に土盛り（H = 2 m）した丘の上に、円形のブランコを整備。丘の下のトンネル（4方向）をぐり抜けると、円の内側には、迷路風の花壇が植栽されている。

市民とのかかわりや施設利用の特徴等

本施設は、開園当日、近郊都市も含め、応募で募った100人の園児、児童らとともに、ギネス世界記録「最も長いブランコ・セット Longest swing set」に挑戦し、認定されました。高台の丘の上に円形にされた 100の座板からなる世界最長のブランコは順番待ちを気にすることなく、子どもだけでなく大人も童心に帰って遊べ、360度、それぞれ異なる景色を楽しむことができます。また、ブランコに囲まれた円形広場に配置された花壇は季節毎に姿を変え、迷路遊びやブランコで遊ぶ人の目を楽しませています。

【施設写真】



100人ブランコの全景



高台に設置しているため眺望が良い



ギネス認定書の贈呈



ブランコの中心部にある四季折々の植栽迷路

皆に愛される巨大な「タコの滑り台」(勝山公園ほか10箇所) [1/2]

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：児童の遊び場		
施設の所在地	福岡県北九州市 小倉北区 城内ほか	施設設置年月日	昭和45年（1970年）12月
施設整備の経緯	昭和45年（1970年）、北九州市本庁舎建設に伴い、勝山公園の子どもの広場が現在の位置に移転整備された。同広場は築山や大きな砂場、遊具などが整備され、築山の山すそにはゾウやシマウマなど陸の生き物の形象遊具を、大きな砂場にはタコや貝など海の生き物の形象遊具を置くなど、子どもたちが一日楽しく遊べるよう設計。巨大な「タコの滑り台」は、その大きさと見た目の面白さ、そして、“滑り降りる”“よじ登る”、子どもたちが体を使って自由に遊べることから、同広場のシンボリックな遊具として設置された。「タコの滑り台」はその後、相次いで設置され、現在市内に11基存在している。		
施設の形態的特徴	勝山公園の「タコの滑り台」の概要 ・鉄筋とラスで巨大なタコの形を作り、モルタルを重ね塗りして成形。赤色着色仕上げ。 ・タコの頭部（踊り場）から、脚に見立てた8つの滑り台が曲がりくねり交差しながら複雑に伸びている。 ・外形は 約9m×約8m×H約4m ・階段はない代わりに、よじ登る仕掛けを多く配置（南面には突起がついた脚が2本、壁面にもウォールクライミング用のホールド）		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	勝山公園の「タコの滑り台」は、設置から約55年経つ現在も、変わらず同広場のシンボルであり続けている。「タコの滑り台」で遊んだ子どもたちが親となり、再びわが子連れで遊びに来ており、週末も平日も子どもたちが群れて遊ぶ人気の遊具である。平成19年度の公園再整備では、新たに、クジラの骨の巨大なモニュメントや海賊船型の大型遊具なども整備されたが、「タコの滑り台」は市民アンケートで残され、今も一番人気の遊具として君臨。 なお、「タコの滑り台」は勝山公園を含め本市内に11基あり、中には青く着色された変わり種も存在する。さらに、「木」や「サカナ」、「ヤドリ」など形の違う大型滑り台も多数あり、こんなに多い街はないらしく、ローカルテレビにも多く取り上げられている。		

皆に愛される巨大な「タコの滑り台」(勝山公園ほか10箇所) [2/2]

【施設写真】



(近景・北面) 周囲に海の生き物、砂場の縁は龍



(近景・南面) 8本の滑り台が複雑に入り組む



青いタコ
(松寿山2号公園)



突起のある脚
(よじ登る仕掛け)

広めの踊り場 (約2m×1m×H2.4m) から8本の滑り台



市内最大の「タコの滑り台」(和布刈公園)

西口広場(カナル・スカイシェルター)(海の中道海浜公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	国営公園制度		
施設の所在地	福岡県福岡市東区大字西戸崎18-25	施設設置年月日	昭和56年（1981年）10月20日
施設整備の経緯	昭和47年（1972年）の旧博多米軍基地の全面返還に伴い、地元福岡県・福岡市の要望を受けて設置された九州における初の国営公園であり、北部九州を中心とする広域的な屋外レクリエーション拠点として整備している。福岡市から玄界灘と博多湾を隔てて志賀島へ伸びる半島「海の中道」の豊かな自然環境を最大限に活かした本公園において、西口広場は昭和56年（1981年）の開園当初から公園のメインゲートかつシンボルとして多くの来園者を迎え入れ、大規模公園の先駆け的な広場になっている。		
施設の形態的特徴	空高くそびえるスカイシェルターはギリシャのパルテノン神殿を思わせ、自然石をテールアルメ工法で積み上げた高さ6m、幅32mのレリーフ壁泉はオオワシが翼を広げた姿を型取っている。そして、美しく幾何学的に造られたフランス式庭園のカナルも相まってヨーロッパの王宮に迷い込んだかのような空間を演出している。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	西口広場周辺は太陽の日差しが降り注ぐ明るく開放的な空間になっており、スケールの大きな建物と雄大な自然をうまく利用した造形が来園者に公園への期待を抱かせる。そして、その落ち着いた雰囲気到来園者は自然と歩く速度を緩め、ゆっくりと散策を楽しむ。		

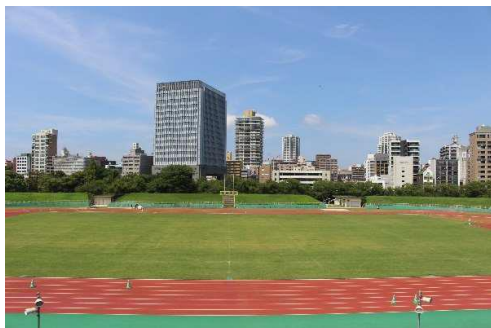
【施設写真】



平和台陸上競技場(舞鶴公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	福岡県福岡市中央区城内1-4	施設設置年月日	昭和23年（1948年）10月18日
施設整備の経緯	戦後、健全な社会の建設のために体育活動が重視されるようになり、福岡連隊跡地に市民運動場を建設する計画が立てられ、昭和22年（1947年）、戦災復興事業により兵営跡の整地および、都市計画事業による市民運動場施設工事が進められた。その後、第三回国民体育大会の主会場となることが決まり、必要な競技施設の新設・整備が行われた。 平和を願う気持ちから、スポーツは平和の象徴であるとして「平和台」という名前が付けられた。		
施設の形態的特徴	グラウンド面積：19,619㎡ 一周400メートルのウレタン舗装トラック8コース 収容人数：25,000人（スタンド：1,625人）		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	昭和23年（1948年）の第三回国民体育大会では、戦後初めて日の丸が掲揚された。 今でも日常的な利用や大会での利用も多く、毎年12月第一日曜日には福岡国際マラソンのスタート、ゴール地点としてたくさんの人が訪れています。		

【施設写真】



岡部平太先生像
(平和台陸上競技場内設置)

日本スポーツ界の鬼才。若き日講道館の風雲児と評され、(中略)福岡県体育協会の創立、第三回国体誘致開催、平和台競技場建設の功労者、名付け親でもある。その多彩な活躍と天衣無縫の人柄を偲びこの碑を建つ。



ユニバーシアード記念平和の杜(東平尾公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	福岡県福岡市博多区東平尾公園2丁目1-2	施設設置年月日	平成7年（1995年）8月23日
施設整備の経緯	第18回ユニバーシアード大会1995福岡を記念し、「ユニバーシアード記念平和の杜」を整備した。		
施設の形態的特徴	大会の金メダルを模したモニュメントを中央に設置し、台座に福岡大会の『基本理念』と大会開催を契機に宣言された『国際スポーツ都市宣言』を記している。 その周りには、シンボルマークを象ったモニュメント12基に金メダル獲得選手の手形とサインを、また園路沿いには、選手・役員のメッセージと大会を支えた1万人を超えるボランティアの名前も陶板にモニュメントとして残している。さらに、小学校区ごとに応援国・地域を定め応援・交流を行った『校区ふれあい事業』を記念し、各区ごとに桜の記念植樹を行った。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	アビスパ福岡のホームグラウンドであるベスト電器スタジアム、福岡県唯一の第1種公認競技場である博多の森陸上競技場、国際女子テニス大会が開催される博多の森テニス競技場等、総合運動公園として各種競技大会が行われる東平尾公園、中でもユニバーシアード記念平和の杜は東平尾公園の中心部に位置し、福岡市民のみならず近隣の志免町民の憩いの場となっており、桜の時期や紅葉時期なども多く方が散歩やピクニックを楽しむ広場となっている。		

【施設写真】



国際交流庭園(アイランドシティ中央公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設 国際交流に係る公園施設		
施設の所在地	福岡県福岡市東区香椎照葉4丁目1番	施設設置年月日	平成17年（2005年）9月9日
施設整備の経緯	「第22回全国都市緑化ふくおかフェア（H17年度（2005年度））」の出展の一部として公園南側に福岡市の姉妹都市7都市（広州、釜山、ニュージーランドオークランド、アメリカ合衆国オークランド、アトランタ、ボルドー）出展による庭園を整備したものです。		
施設の形態的特徴	公園南部の歩道橋を渡った先に位置する、国際交流庭園。福岡市の姉妹都市、オークランド、アトランタ（アメリカ）、広州（中国）、ボルドー（フランス）、オークランド（ニュージーランド）、釜山広域市（韓国）の6都市から出展された庭園で、6都市と福岡市の技術者が共同で設計した各都市の特色を生かした庭園が整備されています。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	各都市の特色のある庭園は市民の憩いの場となり、散歩途中の休息場となっている。地域の子供たちも多く訪れ姉妹都市への理解も深まっている。また、その都市の雰囲気演出されていることから写真撮影スポットとしても利用頂いている。		

【施設写真】



健康運動広場(県営筑豊緑地)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施策名称：健康・運動施設整備事業		
施設の所在地	福岡県飯塚市仁保8-25	施設設置年月日	平成8年（1996年）4月
施設整備の経緯	県営筑豊緑地は筑豊生活圏におけるスポーツ・レクリエーション活動の拠点として昭和28年（1953年）に都市計画決定された。当時の先駆性として、平成元年（1989年）に旧建設省の都市公園施策であった健康、運動施設整備事業における拠点公園（ウェルネスパーク）の指定を受け、「運動」「休養」「栄養」を3要素とした積極的健康状態を目指すウェルネスという理念を総合的に満足させる施設を備えた公園を目指し、ウェルネスパークとしての一部供用開始に伴い本施設が誕生した。		
施設の形態的特徴	300mトラック、3on3バスケットコート、ゲートボール2面、健康遊具歩道を有し、いずれも陸上競技としてではなく健康増進施設としての位置づけに沿った施設として整備された。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	国民の余暇時間の増大、生活の質の向上、高齢化社会の進行、ライフスタイルの変化等、国民生活を取り巻く状況が大きく変化したことによる健康や運動に対する関心の高まりを受け、各年齢層が手軽に各種の運動が行える施設の需要をもとに本施設が整備され、遊びながら健康運動ができるニュースポーツを取り入れた多目的な場として親しまれている。		

【施設写真】



国際交流広場(松浦河畔公園)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：皇太子殿下（今上天皇陛下）御成婚記念事業		
施設の所在地	佐賀県唐津市原1774番地1	施設設置年月日	平成5年（1993年）
施設整備の経緯	当該施設は皇太子殿下御成婚記念事業として整備された施設であり、本市は当時、揚州市（中国）・麗水市（韓国）と友好姉妹都市を提携しており、そのような背景の中で、皇太子殿下同妃殿下（現天皇陛下皇后陛下）ともに国際経験が豊富であられ、御成婚を記念して、国際交流広場及び人道橋を整備し、自然と人間が調和した都市環境を創造する目的で整備された。		
施設の形態的特徴	面積約1万㎡の芝生広場である。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	当該施設は公園の中心部に位置し、公園の中核的な施設として整備されたことにより、子供から大人まで四季を感じ、親しみの持てる憩い安らぐ空間となっている。		

【施設写真】



環濠集落ゾーン(国営吉野ヶ里歴史公園)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	国営公園制度		
施設の所在地	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町田手1869	施設設置年月日	平成13年(2001年)4月21日
施設整備の経緯	吉野ヶ里遺跡は弥生時代を通して小さなムラが大陸の文化を取り入れ、やがてクニの中心集落へと発展する過程を教える極めて学術的価値の高い遺跡である。特に弥生時代後期の環濠集落跡は我が国でも最大規模のものであり、平成3年(1991年)5月には国の特別史跡に指定された。本公園は、我が国固有の優れた文化遺産である吉野ヶ里遺跡の保存及び活用を図るため、平成4年(1992年)10月の閣議決定を経て国営公園として整備したものである。		
施設の形態的特徴	本公園の環濠集落ゾーン(28.5ha)には、往時、有柄銅剣やガラス製管玉を副葬した高階層の人々を葬った「北墳丘墓」、最高祭祀権者による祭祀の場である大型の祭殿やその住居と考えられている「北内郭」、高階層の人々の居住区と考えられる「南内郭」のほか、市が行われたと考えられている高床倉庫群が設けられた。これらの遺跡は発掘当時、「魏志倭人伝」に記載された邪馬台国の様子を彷彿とさせるものとして、全国的に注目を集めた。 また、環濠集落は、「北上位」「南下位」の概念に基づき構成されており、復元にあたっては考古学・建築史学・造園・民族学等の学識経験者による検討を経て、弥生時代に存在したと考えられている素材や技術を取り入れて遺構の位置に復元し、弥生時代におけるクニの様子を伺うことができる空間整備を行った。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	北墳丘墓では発掘された状態での遺構の露出展示、復元建物では弥生時代の生活を再現展示することにより、来園者が当時のクニの様子を体感及び学習できる。 また、全国から考古学ファンが訪れる佐賀県の観光スポットであるとともに、地域観光拠点としての役割を担い、吉野ヶ里町主催の「炎まつり」の会場として利用されるなど、地域活性化に貢献している。		

【施設写真】



環濠集落ゾーン



北内郭～北墳丘墓



南内郭～南のムラ・倉と市



歴史学習

世界の窯広場(やきものの公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国際交流に係る公園施設		
施設の所在地	長崎県 東彼杵郡 波佐見町 井石郷 2255-2	施設設置年月日	平成8年（1996年）7月1日
施設整備の経緯	400年の伝統をもつ全国屈指の[やきものの町]として栄えてきた波佐見町に平成7年に整備された「やきものの公園」内に、焼き物の魅力を発信するため、古代から近世にかけての世界を代表する窯12基を再現した世界でも珍しい野外博物館として整備された。窯広場には各窯の紹介や世界の窯のうつりかわりを解説している。 また、国際交流として平成22年に大韓民国康津郡との間で友好交流協定を締結している。康津郡は高麗青磁発祥の地として有名であり、陶磁器が主な産業となっている。これまでに民間や行政の相互訪問を行っており、今後もやきものの公園を活用した国際交流の場としての利用が期待できる。 また、毎年「波佐見陶器まつり」等のイベントも開催され、国内外から毎年約20万人から30万人が訪れている。		
施設の形態的特徴	古代から近代までの「世界の窯」12基を復元し、野外博物館的な総合公園として整備された。その通り道には高さ2メートル、長さ50メートルにわたる大陶壁画「陶磁の路」があり、変化に富んだ色彩は訪れた人々の目を楽しませてくれる。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	公園に隣接して「陶芸の館」が整備され、波佐見町内の窯元や商社・伝統工芸士のやきものや、地元特産のお土産を販売している。 また、施設内では「絵付け」「ろくろ」「たたら型うち」等の体験ができる。 毎年ゴールデンウィークには国内外の人々で賑わう「波佐見陶器まつり」が開催されている。		

【施設写真】



波佐見陶器まつりの様子

記念広場(水前寺江津湖公園(動植物園))

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：皇太子殿下(今上天皇陛下)御成婚記念公園事業		
施設の所在地	熊本県熊本市東区健軍5-14-2 (※動植物園)	施設設置年月日	平成6年(1994年)8月27日
施設整備の経緯	平成5年(1993年)6月9日、当時の皇太子殿下、雅子妃のご成婚を記念して国民の祝賀の意を表すとともに、自然と人間が調和した快適な都市環境の創造に資するため、整備された施設であり、一巡目の全国都市緑化フェアの会場でもある水前寺江津湖公園内にある動植物園に設置された。		
施設の形態的特徴	高さ14.8mの時計塔の正面には、約2,000㎡の花畑が広がり動植物園のシンボルとなっている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	同施設がある水前寺江津湖公園は、令和4年に開催した全国都市緑化熊本フェアのメイン会場の一つにもなっており、時計塔正面の花畑にはフェア後も春はナノハナ、秋にはコスモスが一面に広がり訪れた人々の癒しの空間となっている。		

【施設写真】

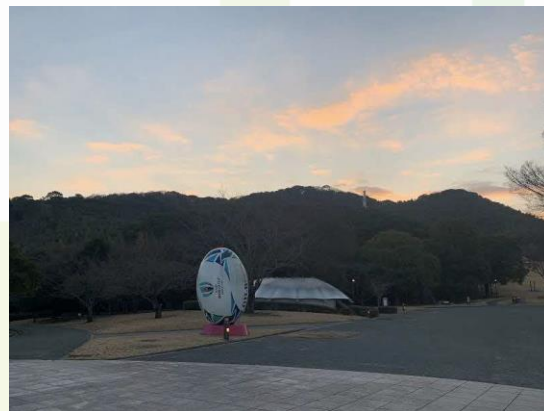


令和4年全国都市緑化熊本フェア開催時

ラグビーワールドカップ2019メモリアル(熊本県民総合運動公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	熊本県熊本市東区平山町2776	施設設置年月日	令和元年（2019年）10月
施設整備の経緯	ラグビーワールドカップ2019開催に伴い、平成28年（2016年）に発生した熊本地震からの復興の姿と感謝の気持ちを発信するべく整備を行った。		
施設の形態的特徴	高さ：3.9m 幅：3.0m 周囲：7.3m デザイン：ラグビーワールドカップ日本大会デザインギルバートボール		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	本公園は、健康増進、交流促進の拠点となる公園として県民に幅広く日常的に利用されている。 ラグビーワールドカップ開催を記念し公園内に設置されたモニュメント。日本大会デザインの高さ3.9mもある巨大なギルバートボールのモニュメントを設置し、来場者が次々に記念撮影を行うなど大盛況であった。		

【施設写真】



皇太子殿下御成婚記念庭園(ハーモニーパーク)

登録基準	2. 都市公園が時代の要請やニーズに応じた役割や、望ましい社会・都市の在り様を具現化・実装化するなど、都市公園が果たしてきた役割・機能を象徴し、一地域にとどまらず複数地域の都市公園で整備された施設		
	施設のテーマ：皇太子殿下（今上天皇陛下）御成婚記念公園		
施設の所在地	大分県速見郡日出町大字藤原5933	施設設置年月日	平成6年（1994年）6月30日
施設整備の経緯	平成5年（1993年）6月3日当時の建設省都市局長より「皇太子殿下御成婚記念公園事業要綱」を定められた旨の通知を受け、クラフトパーク整備事業にて整備中の一村一品クラフト公園内に「皇太子殿下御成婚記念庭園」を申請。同年12月に工事着手し、平成6年（1994年）6月30日に完成。今回申請の施設は、庭園内の一部でシンボリック的存在となっている。		
施設の形態的特徴	柱部：擬石コンクリート アーチ部（鐘付き）：金属 時計部：デジタル		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	「幸福の庭」をテーマに、「人とひととの出会いと幸せへの散歩径」をイメージした散策型庭園に、皇太子殿下の御成婚を記念した憩いの場としての快適な環境を創出することにより、県民の慶祝の意を表すと共に公園への愛着と広い利用に期待。来園者が時計台の鐘を鳴らす光景がよく見られる。		

【施設写真】



国体記念の森(宮崎県総合運動公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	宮崎県宮崎市大字熊野	施設設置年月日	詳細不明（国体開催年である昭和54年（1979年）頃と思われる）
施設整備の経緯	1979年（昭和54年）に本県で開催された第34回国民体育大会、「日本のふるさと宮崎国体」に参加した都道府県選手や役員の手によって、それぞれの郷土の木が植えられたもの。		
施設の形態的特徴	北海道から沖縄県までの本県では見られない珍しい樹木が数多く植えられている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	国体を機会にますます、広く友愛の輪が広げられることを願ってつくられた森であり、国体の事跡を表す施設としてのみならず、公園内を散策する利用者にとって心安らぐ緑地として親しまれている。		

【施設写真】



昭和39年オリンピック東京大会国内聖火リレーの聖火台(県立平和台公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	国家的なイベント会場となった公園においてその事跡を象徴する公園施設		
施設の所在地	宮崎県宮崎市下北町	施設設置年月日	詳細不明（オリンピック開催年である昭和39年（1964年）頃と思われる）
施設整備の経緯	1964年（昭和39年）に日本で開催されたオリンピック東京大会において、平和台公園が国内聖火リレーの起点の1つとなった際、使用された聖火台で、大会後も公園内に設置されたもの。		
施設の形態的特徴	全高2メートル40センチ、口径87センチメートル。外側には神々が高千穂の峰に降臨されたという古事がえがかれている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	はにわを展示しているはにわ館近くに設置されており、公園利用者がオリンピック東京大会について想起又は学習する機会にもなっている。		

【施設写真】



戦災復興記念碑（甲突川左岸緑地）

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	戦災復興土地地区画整理事業		
施設の所在地	鹿児島県鹿児島市加治屋町3-1	施設設置年月日	昭和57年（1982年）3月
施設整備の経緯	昭和40年（1965年）、戦後20年の節目にあたり「戦災復興20周年記念祭」事業が実施された。事業の一環として記念塔の設置が決定され「戦災復興記念塔」として建立された。同事業の反省点として碑文等の説明的な設備がなかったことが挙げられ、これを補足する意味と、当市宇宿工区の換地処分が完了したことにより、戦災復興事業が全面的に収束した記念に「戦災復興記念塔」の北側（前面）に『戦災復興記念碑』として主碑と碑文を新たに設置したもの。		
施設の形態的特徴	【戦災復興記念塔】高さ：12メートル 【戦災復興記念碑】高さ：1.45メートル、幅1.8メートル、奥行70センチ		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	花見シーズンや各種イベント等で、県内外はもちろんのこと、海外の方々も含め多くの人が利用している。		

【施設写真】



平和の礎(平和祈念公園)

登録基準	3. 国家的なイベントの会場、重要な事業、災害被害等の復興祈念の場となった都市公園において、イベントや事業、復興等の事跡を象徴する施設		
	災害被害等の復興祈念に係る公園施設		
施設の所在地	沖縄県糸満市字摩文仁444	施設設置年月日	平成7年（1995年）6月23日
施設整備の経緯	沖縄の歴史と風土の中で培われた「平和のこころ」を広く内外にのべ伝え、世界の恒久平和を願い、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなられたすべての人々の氏名を刻んだ記念碑を、太平洋戦争・沖縄戦終結50周年を記念して建設した。		
施設の形態的特徴	デザイン：鉄の暴風の波濤が、平和の波となって、わだつみに折り返して行くコンセプト		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	去る沖縄戦などで亡くなられた国内外の20万人余のすべての人々に追悼の意を表し、御霊を慰めるとともに、今日、平和の享受できる幸せと平和の尊さを再確認し、世界の恒久平和を祈念する。悲惨な戦争体験を風化させることなく、その教訓を後世に正しく継承していく。戦没者の氏名を刻銘した記念碑のみの建設にとどめず、造形物を配して芸術性を付与し、訪れる者に平和の尊さを感じさせ、安らぎと憩いをもたらす場とする。また、子供たちに平和についての関心を抱かせるような平和学習の場としての形成を目指す。		

【施設写真】



エメラルドビーチ(国営沖縄記念公園 海洋博覧会地区)

登録基準	1. 都市公園制度制定後の節目となる制度に基づき整備された都市公園において、当該制度の趣旨に関する事跡を伝える施設又は整備当時の機能等を今も残す施設		
	国営公園制度		
施設の所在地	沖縄県国頭郡本部町字石川242番地	施設設置年月日	昭和50年（1975年）7月20日
施設整備の経緯	エメラルドビーチは、昭和50年に開催された沖縄国際海洋博覧会当時につくられた人工ビーチであり、海洋博覧会跡地に昭和51年8月から開園した国営公園に引き継がれた施設である。		
施設の形態的特徴	Y字型の砂浜を形成し、砂浜にはコーラルサンドを配した美しいビーチ。 エメラルドビーチは、3つの浜に分かれており、遊泳ができる「遊びの浜」。磯遊びができる「憩いの浜」。伊江島を望む「眺めの浜」とあり、多目的に楽しめる構成となっている。		
市民とのかかわりや施設利用の特徴等	エメラルドビーチは、県内有数の観光スポットでもある国営公園内にあることから、市民はもとより、国内外の観光客にも利用されている、開始から45回を数える海洋博花火大会の会場でもあり広く市民に親しまれている。 また、イノー（礁池）観察会を行うなど、自然学習の場としても活用されている。		

【施設写真】

